2017年10月1日発行 季刊発行 通巻127号

小・中・高・大を連携し、すべての英語教育の"今"を知る。

英語情報

2017
秋号
AUTUMN

［特集］小学校 新学習指導要領に向けて 移行期間に何をすべきか

明日から使える！
授業のテクニックを動画で見られる！
AR
英語情報 『英語情報』専用アプリで写真をかざすだけ！
※詳しくは表紙裏面で！

全英連 新潟大会 直前特集

中学校授業実演
新潟市立小針中学校
中川 久幸 先生

高等学校授業実演
新潟県立新発田高等学校
根立 望 先生

小学校授業実演
新潟市立上所小学校
村上 大樹 先生

英検
公益財団法人 日本英語検定協会

小・中・高・大の英語教育の“今”を『英語情報』がお伝えします。

新学習指導要領の全面実施に向けて、
これまで以上に、児童生徒主体の言語活動を中心とした授業が求められ、
小・中・高・大をつないだ英語教育改革が進行しています。
『英語情報』では、国の動向から小・中・高の授業改善の取り組み、
大学の入試改革やグローバル化まで、英語教育の最新事情をお届けします。
明日からの授業づくりや指導にどうぞお役立てください。

Information

「英語で授業ができるか不安」「言語活動の具体例が知りたい」
そんな先生方のために

『英語情報 AR』アプリで誌面で紹介した授業の動画を視聴できます。

今号の動画は、発行日より3カ月間（予定）ご覧いただけます。

STEP 1 アプリをダウンロードします。（無料）（iOS/Android対応）

スマートフォンかタブレットを用意して、
Download on the App Store または ANDROID APP ON Google play から「**英語情報 AR**」と検索し、ダウンロードします。

STEP 2 アプリを起動し、画像をスキャンします。

本誌記事中の AR マークの付いた画像が **枠内に収まるようにスキャン** します。

STEP 3 動画が再生されます。

「スキャン完了」と表示されると、動画が始まります。

一度スキャンした動画は「履歴」をタップすれば、いつでも動画をご覧いただけます。

※ iPhone/iPad➡iOS7.0以上、
Android➡ver.4.0以上。
［Android版は一部対応していない端末がございます。インストール画面の動作確認端末をご確認ください。］

※ カメラのピントが合わなかったり、光が反射したりすると、読み込みができない場合があります。
※ 読み込まない時は、カメラ位置を少し上下させて読み込み距離を調整してください。
※ 読み取りに時間がかかる場合はアプリを再起動し、再スキャンをしてください。
※ 動画の再生にはネットワーク環境が必要です。Wi-Fi、またはLTE環境を推奨しています。

英語情報 2017 秋号 CONTENTS

04

16

34

47

02 **最新情報**

02 NEWS & TOPICS

04 **特集**

04 「授業改善を考える」
小学校 新学習指導要領に向けて
移行期間に何をすべきか
教員の指導力向上と校内研修のあり方
文部科学省 初等中等教育局 教科調査官　直山 木綿子

10 特集事例 CLASS REPORT
〔高等学校編〕
AR 英語教育推進リーダーとしての役割を意識し授業での実践を共有していく
千葉県立佐倉高等学校 教諭　戸村 玲子

〔中学校編〕
AR 小集団による生徒の言語活動中心の授業で発話力を高める指導
島根県 益田市立益田中学校 教諭　上田 陽一郎

〔小学校編〕
AR 新学習指導要領への理解を促し安心して授業ができる空気をつくる役割を
高知県 中土佐町立久礼小学校 教諭　市原 佐知

16 **授業改善**

16 〔連載〕安河内 哲也先生が聞く【第13回】
AR 明日から使える！英語で授業 7つの鉄則
神奈川県 横須賀市立常葉中学校 教諭　永保 遼

22 〔連載〕新教育課程に向けて
〔高等学校編〕【第3回】
技能統合型授業におけるライティングの指導と評価
明治学院大学 文学部 准教授　杉田 由仁

〔中学校編〕【第3回】
表現力や発信力を高める授業づくり
信州大学 学術研究院 教育学系 教授　酒井 英樹

〔小学校編〕【第3回】
外国語教科化における文字指導のあり方
愛知県立大学 外国語学部 准教授　池田 周

28 **Pick Up! 英語教育**

28 〔連載〕全英連新潟大会に向けて
新潟大会 直前特集
小・中・高等学校の「合同研修会」を初開催。
大会準備の進捗報告と意見交換の場に

32 〔EVENT REPORT〕
授業改善や指導力向上のための実践的な研修
「第5回 全英連・英検協会共催 夏季研修会」より

34 〔SPECIAL INTERVIEW〕
祝 国際応用言語学会（AILA）名誉会員称号授与
日本の英語教育のために自己の最善を尽くしてきた
慶應義塾大学名誉教授・明海大学名誉教授　小池 生夫

38 **国際化の取り組み**

38 Super Global High School【第13回】
アンケートの客観的な分析結果によるカリキュラム改善が高い評価につながる
名城大学附属高等学校

40 **指導のヒント**

40 〔連載〕「学習到達目標と指導、評価の一体化」を目指して【第3回】
琉球大学 教育学部 准教授　深澤 真

42 〔連載〕英検4級・5級で広がる英語の世界【第3回】
鹿児島純心女子大学 国際人間学部 教授　川上 典子

44 〔連載〕英検2級の「壁」を超えるための授業実践【第3回】
北海道札幌国際情報高等学校 教諭　木村 純一郎

46 **大学入試・高大接続改革を見据えて**

46 TEAP Hot News!
TEAP 2017年度第1回志願者数が急増！
TEAP 活用事例　第11回：学習院大学

48 TEAP 活用事例のご紹介【公立学校編】
48 東京都立立川国際中等教育学校
49 東京都立新宿高等学校

50 TEAP 活用事例のご紹介【私立学校編】
50 大宮開成高等学校
51 静岡サレジオ高等学校

52 **教員研修**

52 2016年度 英検協会 英語教員海外研修
帰国後の取り組み報告
●高等学校
沖縄県 沖縄尚学高等学校 教諭　新里 歩
●中学校
福島県 双葉郡葛尾村立葛尾中学校 教諭　菅野 賢介
●小学校
大分県 杵築市立八坂小学校 教諭　二宮 京子
（研修時・国東市立旭日小学校）

54 わたしのオススメ本

NEWS & TOPICS

英語学習指導などに役立つ最新情報をお届けします

INFORMATION

実用英語技能検定 2018年度試験日程のご案内

このたび、2018年度の実用英語技能検定（英検）の試験日程が決まりましたので、お知らせいたします。入試において実用的な4技能での英語力を受験生に求める大学が増え、外部の資格・検定試験の活用が広がり、学校教育においても4技能化が進み始めています。公益財団法人日本英語検定協会（英検協会）では、2017年度より英検の二次試験の日程をA、Bに設定して、より多くの中・高校生に受験機会をご提供しており、2018年度も継続していきます。詳細は英検ウェブサイトからご覧ください。

http://www.eiken.or.jp/eiken/

■2018年度 実用英語技能検定 試験日程

試験日程		第1回検定	第2回検定	第3回検定
受付期間		3月9日（金）～5月11日（金）〈書店締切:5月7日（月）〉	8月1日（水）～9月14日（金）〈書店締切:9月7日（金）〉	11月22日（木）～12月26日（水）〈書店締切:12月19日（水）〉
一次試験	本会場	**6月3日（日）**	**10月7日（日）**	2019年 **1月27日（日）**
	準会場（全ての団体）	6月2日（土）、3日（日）	10月6日（土）、7日（日）	2019年 1月26日（土）、27日（日）
	準会場（中学・高校のみ）	6月1日（金）	10月5日（金）	2019年 1月25日（金）
二次試験	A日程	**7月1日（日）**	**11月4日（日）**	2019年 **2月24日（日）**
	B日程	**7月8日（日）**	**11月11日（日）**	2019年 **3月3日（日）**

INFORMATION

「実用英語技能検定4技能CBT」を2018年度より運用開始

英検協会は、英検の「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能を1日で測定する「英検4技能CBT（名称未定）」の2018年8月からの運用開始をめざし、現在開発しています。実施対象級は2級、準2級、3級とし、従来の「英検CBT」よりも多くの日程、多くの会場での実施を予定しています。

■英検4技能CBTの特長

・1日で4技能のテストを終了。「話す」技能の検定は録音形式に
・合否判定は、従来同様に「読む」「聞く」「書く」のスコアで一次試験の合否判定。一次試験合格者のみ「話す」のスコアで二次試験の合否判定
・合否にかかわらず、全ての受験者が4技能CSEスコアを取得可能

※上記は現時点での予定であり、今後変更の可能性がございます。
詳細は決定次第、速やかに公開していきます。

INFORMATION

習熟度別のリスニングテスト教材『英検Step Up Listening』のご案内

英検協会のリスニングテスト教材『英検Step Up Listening』は、英検4･5級から2級までのレベル別の「リスニング練習問題」です。1回10問の問題が30回分、計300問を用意し、授業のウォーミングアップや英検対策、定期考査のリスニングテストなど、用途に応じてご活用いただくことができます。学習者用は1冊500円（税込）。指導者用は、指導者用資料1冊、30回分解答用紙1冊、リスニング出題CD5枚の教材セットで6,000円（税込）。中・高等学校の学校単位で、学習者用30冊以上からお申し込みください。同一レベルを30冊ご購入の場合、指導者用1セットを無償提供します。お申し込みは、下記より申込書（PDF）をダウンロードし、郵送・FAX・メールにてお送りください。

http://www.eiken.or.jp/learning/school/stepup/pdf/SUL_moushikomi.pdf

EVENT

英国の公的な国際文化交流機関 ブリティッシュ・カウンシルが主催する 「英国留学フェア2017」

イギリスから50校以上の大学・語学学校・カレッジ・ボーディングスクールなどの教育機関の代表者が来日し、ご来場いただいた皆さまの個別相談に応じます。公的機関ならではの公平で正確な情報も充実。英語留学や大学・大学院留学の計画や準備に役立つセミナーを行うほか、奨学金の相談ブース、英語運用能力試験IELTS相談ブースなども設置します。

参加無料
入退場自由

日時：2017年10月21日（土）13:00〜18:00
会場：秋葉原UDX GALLERY
（〒101-0021 東京都千代田区外神田4-14-1）
対象：留学に関心がある方ならどなたでも
開催内容：
①**学校ブース**：イギリスの教育機関担当者との個別相談（通訳有）
②**留学準備コーナー**：英国留学体験者との留学相談
③**IELTSコーナー**：英語運用能力試験IELTSについての相談
④**英語コーナー**：British Council 英会話スクールの担当者と相談
⑤**ビザ相談コーナー**：大使館ビザ担当スタッフにビザについての相談
⑥**奨学金ブース**：奨学金に関する個別相談
⑦**企業ブース**：パートナー企業のサービスや特典を紹介

「英国留学フェア2017」特設ウェブサイト：
http://education-uk-fair.jp

ウェブサイトで事前登録された方には、当日会場でプレゼントを差し上げます。抽選でブリティッシュ・エアウェイズの東京ーロンドン間の往復航空券（エコノミークラス）が当たるキャンペーンも実施中です。

EVENT

カナダへの留学希望者向け カナダ大使館主催 「カナダ留学フェア2017秋」を開催

参加無料
入退場自由

日時：【東京】11月2日（木）17:00〜19:30
11月3日（金・祝）11:00〜17:00
【大阪】11月5日（日）11:00〜17:00
会場：【東京】カナダ大使館
（〒107-8503 東京都港区赤坂7-3-38）
【大阪】梅田センタービル16階
（〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西2-4-12）

詳細は、www.canada-ryugaku-fair.com にて随時更新。

EVENT

第67回 全英連新潟大会 参加者募集中！

全国英語教育研究団体連合会（全英連）は、11月22、23日に新潟県新潟市で開催される「第67回 全国英語教育研究大会（全英連新潟大会）」の参加者を現在、募集しています。

大会コンセプト：新潟から世界へ！新潟から未来へ！
〜交流・喜び・成長あふれる英語教育の推進〜

第1日◆11月22日（水）
会場：りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館
〒951-8132 新潟県新潟市中央区一番堀通町3-2
JR新潟駅万代口より萬代橋ライン（BRT）青山方面行「市役所前」下車
徒歩5分（新潟駅からの所要時間15〜20分）

9:00〜 9:30 受付
9:20〜 9:40 新潟県立羽茂高等学校郷土芸能部 公演
9:55〜10:40 総会
10:55〜12:25 記念講演
演題 「コミュニケーション能力の育成をめざして
〜自律した学習者を育てる〜」
講師 名古屋外国語大学 外国語学部 太田 光春 教授
12:25〜13:55 昼食・業者展示
13:55〜14:45 小学校授業説明 小学校授業実演（45分）
授業実演者 新潟市立上所小学校 村上 大樹 教諭
指導助言者 文教大学 金森 強 教授
15:00〜15:55 中学校授業説明 中学校授業実演（50分）
授業実演者 新潟市立小針中学校 中川 久幸 教諭
指導助言者 上智大学 和泉 伸一 教授
16:10〜17:05 高等学校授業説明 高等学校授業実演（50分）
授業実演者 新潟県立新発田高等学校 根立 望 教諭
指導助言者 名古屋外国語大学 太田 光春 教授
18:30〜20:30 懇親会（会場：ホテル日航新潟 4階 朱鷺）

第2日◆11月23日（木・祝）
会場：朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター
〒950-0078 新潟市中央区万代島6-1
JR新潟駅万代口より 路線バス（佐渡汽船行 朱鷺メッセ停下車）約15分

9:00〜 9:30 受付
9:30〜11:00 分科会 第1部
11:20〜12:50 分科会 第2部
※分科会発表の詳細は、全英連ホームページにてご確認ください。

詳しくは
第67回 全英連新潟大会 検索

※全英連新潟大会直前特集記事をP.28〜31に掲載しています。

小学校　新学習指導要領に向けて

移行期間に何をすべきか

教員の指導力向上と校内研修のあり方

2017
周知・徹底

2018-2019
移行期間

2020
全面実施

2017年3月、文部科学省より小・中学校の新学習指導要領が公示された。
2020年度からの小学校における全面実施に備えて、2018年度から2年間の移行期間が設けられている。
移行期間に何をすべきなのか。小学校ではどのように外国語活動や外国語科を扱い、いかに教員の指導力を向上させるのか。
どのような校内研修が必要なのか。文部科学省初等中等教育局の直山木綿子教科調査官にお話を伺った。

小学校の外国語教育における課題

2017年3月に文部科学省は小・中学校の新学習指導要領を公示しました。皆さんもご承知の通り、2020年度から小学校では3、4年生で外国語活動、5、6年生で外国語科が全面実施されることになります。これまで、「外国語活動は高学年の先生がすること」「私は英語が苦手だから」と英語との関わりを避けてきた先生もいらっしゃったかもしれませんが、これからはそうも言っていられません。「外国語活動の授業をしたことがない」どころか「外国語活動の授業を見たこともない」、「外国語活動の校内研修が実施されたことがない」という声を耳にすることがありますが、本当にそれでよいのでしょうか。

そうした課題を解決し、教員の皆さん一人一人の指導力向上のために、現在、文部科学省は各都道府県で「英語教育推進リーダー」となる先生方を対象として、新学習指導要領に向けた「中央研修」を行い、「中央研修」を受講した先生方が地域へ帰り、各校1名ずつ選ばれた「中核教員」に対して「伝達講習」を行っています（中・高等学校の場合は、英語科教員に研修）。そして中核教員は、それぞれご自身の勤務校で「校内研修」を行うというように、5年間をかけて全国の小学校2万校の教員への研修が実施される仕組みを設けています。

では、皆さんの学校では、中核教員による校内研修が行われているでしょうか。

①外国語活動の授業を見たことがない教員がいる
②外国語教育に関する校内研修が一度もない学校がある
③ALT等の外部人材に指導を丸投げしている学校がある
④2020年には退職を迎える管理職のなかに、無関心な方もいる

実は現在、小学校での外国語教育について、上記の課題が浮き彫りになっています。これらの課題はどうしたら解決できるのでしょうか。そのためには、外国語活動や外国語科といった“新しいもの”への不安感や負担感を払拭するために、「正しい情報」をご理解いただくことが大事であると考えています。

新学習指導要領に向けた「移行期」とは

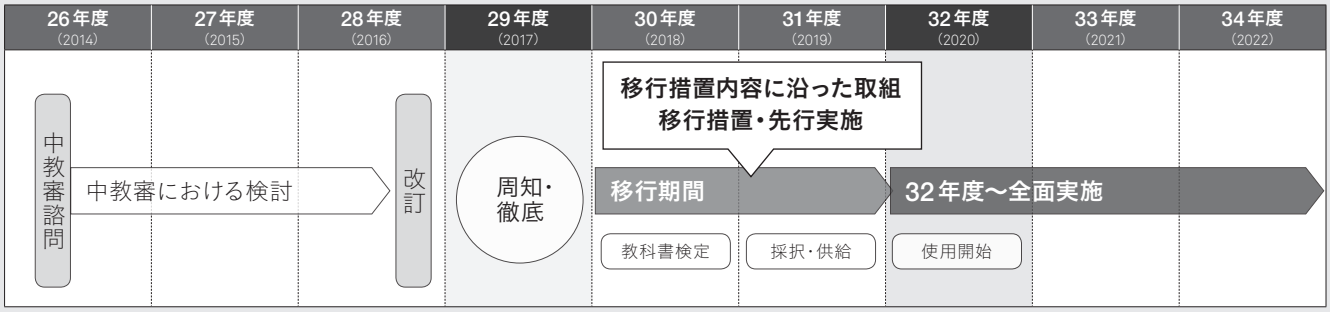
文部科学省は新学習指導要領の全面実施に向けて、2017年度を「周知・徹底の年」と位置付け、2018年度から2019年度の2年間を「移行期間」としています。これは、新学習指導要領へ円滑に移行することができるようにするために設けられた措置であり、各校では現行の学習指導要領に新学習指導要領の内容の一部を加えて、必ず実施することとなります。

小学校3、4年生では「外国語活動」を最低15時間は実施します。5、6年生では現行の外国語活動35時間に最低15時間を上乗せして、50時間は「外国語活動」を実施することになります。しかし、外国語担当としては、これらでは十分だと思っておらず、ぜひ「先行実施」でさらに取り組んでほしいと思っています。なお、すでに研究開発学校などで、3、4年生の外国語活動や5、6年生の外国語科の「先行実施」を行っている場合は、時数も15時間よりも多く扱っていることが多いと思います。その場合には授業時数を15時間に減らさずに、さらに取り組みを進めてほしいと思います。

では、多くの学校が取り組む「移行措置」について、新たな15時間をどのように確保すればよいのでしょうか。文部科学省は、「特に必要がある場合には、年間総授業時数及び総合的な学習の授業時数から15単位時間を超えない範囲内の授業時数を減じることができること」としています（1単位時間は45分）。

移行措置で扱う内容や教材は、外国語活動については、現在文部科学省が開発している新学習指導要領に対応した新教材から提示するとともに、教材を配布します。外国語科についても、外国語活動と同様、新教材から必要な内容を提示し、教材を配布し、さらに現行の『Hi, friends!』も配布します。当然、先行実施を行う学校にも、その取り組みに十分対応できる新教材を配布します。

今後の学習指導要領改訂に関するスケジュール（現時点の進捗を元にしたイメージ）



文部科学省資料より

「年間指導計画例案」に基づき、何を教えるか

現在、文部科学省のホームページでは、「小学校の新たな外国語教育における補助教材の検証及び新教材の開発に関する検討委員会」で配布された、3、4年生の外国語活動の「年間指導計画例案」と5、6年生の外国語科の「年間指導計画例案」や「活動例案」「学習指導案」「児童用冊子」「指導書」などが公開されています。「年間指導計画例案」では、それぞれの単元において、単元目標や主な活動例をはじめ、表現例、新出語彙・語句例、『Hi, friends!』の単元との関連が示されています。

3年生で扱う表現や語彙はほとんど『Hi, friends! 1』と同じです。Unit 9では動物が登場する「十二支」をテーマとした絵本を題材として、身の回りの物に関する語句や表現とイラストを結び付けるなどして、英語に慣れ親しみます。4年生のUnit 9でも絵本を扱います。この単元は、世界の同世代の子供たちの生活の共通点や相違点を通して、多様な考え方があることへの気付きを促します。3年生も4年生も、先生と子供たちとが絵本を通じていろいろな発見ができるような展開にしました。ぜひ、子供たちとインタラクションをしながら楽しんで読んでください。実は、4年生の絵本には「平和」というテーマが隠されています。私は外国語を学ぶということは、「世界平和」につながるものだと信じています。子供たちには、グローバル化が進む社会において、母語と外国語を使ってさまざまな人たちと折り合いをつけて、争いのない世界をつくってほしいと願っています。

5年生の特徴は「文字」の扱いです。教科として「定着」も視野に入れ、改めてアルファベットと出会い直します。文字には「名称」のほかに「音」があることに気付かせ、慣れ親しむのです。例えば、先生が「Aを書いて」と言ったら「A」と書く、「B」と聞いて、Bの文字を指さす、「C」を見て「シー」と読むといったことができるようになることをめざします。

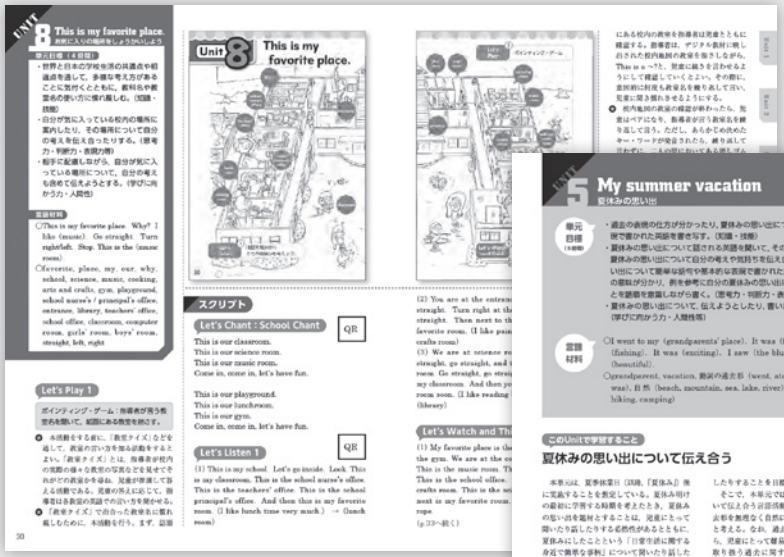
また、「三人称」も扱います。そうすることで、3、4年生で扱った一人称や二人称に加え、家族や友達のことを紹介するための三人称による表現の幅を増やします。しかし、中学校では、三人称単数形の動詞変化につまずく生徒が少なからずいます。そこで、次のように配慮をしています。

例えば、家族の写真を見せながら、このような表現をすることができるでしょう。

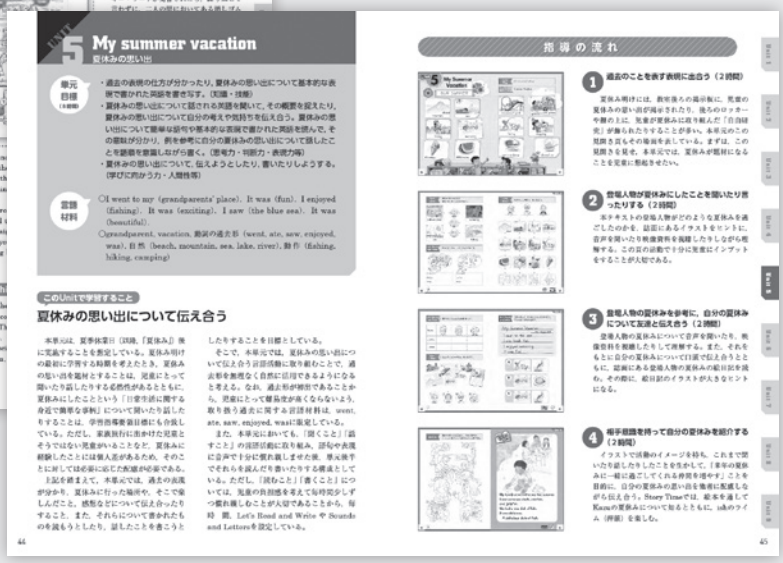
This is (the picture of) my family. This is my father. He is a policeman. He can play tennis very well. He can cook very well, too. His dishes are very delicious. He is nice to me, so I like my father.

こうして、自然に「三人称」と出会わせ、canとともに扱うことで、動詞変化を回避しているのです。

6年生では、Unit 5と7で「過去形」を扱います。例えば、夏休み明けの教室では「夏休みは何をした?」「海へ行った」「キャンプをした」などと、子供たちは日本語でも過去形を使って、夏休みの思い出を語っていることと思います。そこで、外国語科でも夏休みを題材として、went、saw、ateなどの「過去形」と出会います。さらに、12月ごろには、卒業文集の制作なども始まるでしょう。その時期と合わせるように、小学校生活の思い出や行事について、My best memory was our school trip. We went to Kyoto. We saw old temples. It was fun.のように過去形を使って表現します。



第4学年　指導書【暫定版】



第6学年　指導書【暫定版】

「年間指導計画例案」や「指導書」などを閲覧できます。
（文部科学省／配付資料）

小学校の新たな外国語教育における新教材（3年生）年間指導計画例案 イメージより

小学校3年生の外国語活動　年間35単位時間　移行措置で扱う主な内容を抜粋（15単位時間相当）

	題材	主な表現例	目標例
1	世界の言語 様々な言語があることに気付く	Hello. I'm (name). Goodbye. See you. ...	・**世界には様々な言語があることを知り**, 挨拶や名前の言い方に慣れ親しむ。 ・名前を言って挨拶をする。 ・相手に伝わるように工夫しながら名前を言って挨拶を交わそうとする。
4	好きな色 好きな物 日本語との音声の違いに気付く 英語の表現に慣れ親しむ	I like blue. Do you like blue? Yes, I do./No, I don't. I don't like blue. ...	・言語や文化によって多様な考え方があることや,**外来語を通して英語の音声やリズムなど日本語との違いに気付き, 色の言い方や, 好きかどうかを尋ねたり答えたりする語や表現に慣れ親しむ**。 ・自分の好みを伝え合う。 ・相手に伝わるように工夫しながら自分の好みを紹介しようとする。
6	アルファベットの大文字 文字の読み方に慣れ親しむ	Card "A", please. Here you are. Thank you. You're welcome. ...	・身の回りにはアルファベットの文字で表されているものがたくさんあることに気付き,**活字体の大文字を識別し, 文字の読み方に慣れ親しむ**。 ・自分の姓名の頭文字を伝え合う。 ・相手に伝わるように工夫しながら自分の姓名の頭文字を伝えようとする。
8	身の回りの物 日本語との言葉の成り立ちの違いに気付く 2往復以上のやり取りを経験する	What's this? Hint, please. It's (a fruit). It's (green). It's a (melon). That's right. ...	・**外来語とそれが由来する英語の違いに気付き**, 身の回りの物の言い方や, ある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ・**クイズを出したり答えたりする。** ・相手に伝わるように工夫しながらクイズを出したり答えたりしようとする。
9	人・動物 まとまりのある話を聞いて分かる	Are you a dog? Yes, I am. I'm a dog. Who are you? ...	・日本語と英語のリズムなどの音声の違いに気付き, 誰かと尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ・**絵本などの短い話を聞いて, おおよその内容が分かる。** ・絵本などの短い話を反応しながら聞くとともに, 相手に伝わるように台詞をまねて言おうとする。

※第3回小学校の新たな外国語教育における補助教材の検証及び新教材の開発に関する検討委員会配布資料（会議後修正版）を元に作成。今後の検討の過程で修正する可能性がある。

小学校の新たな外国語教育における新教材（5年生）年間指導計画例案 イメージより

小学校5年生の外国語　年間70単位時間　移行期間中の年間50単位時間のうち、**太字**が『Hi, friends!』の内容に加えて扱う外国語科の主な内容を抜粋

	題材	主な表現例	目標例
1	アルファベットの文字・自己紹介	How do you spell it? S-A-K-U-R-A. I like (soccer) very much. ...	・**活字体の大文字**や, 好きなものや欲しいものについて尋ねたり答えたりする表現が分かる。 ・自分のことや身近なことについて, 短い会話や説明を聞いて概要を捉えたり, 好きなものや欲しいものについて尋ねたり答えたりする。 ・他者に配慮しながら自身の名前や好きなもの, 欲しいものなどを含めて簡単な自己紹介をしようとする。
2	行事・誕生日 英語の文字の認識を深める	When is your birthday? My birthday is August 19th. What do you want for your birthday? ...	・活字体の大文字の書き方や, 季節や誕生日の言い方や誕生日の尋ね方や答え方が分かる。 ・祭りや行事に関するまとまりのある話を聞いておおよその内容を聞き取るとともに, 好みや欲しいもの, 誕生日を尋ねたり答えたりして, 伝え合う。慣れ親しんだ表現などを推測しながら読んだり相手に伝える目的を持って書き写したりする。 ・他者に配慮しながら好みや欲しいもの, 誕生日を尋ねたり答えたりして伝え合おうとする。
3	学校生活・教科・職業	Do you have P.E. on Monday? I study math. What do you have on Monday? Are you a teacher? ...	・活字体の小文字や教科, 曜日の言い方が分かる。 ・世界の同世代の子供たちの学校生活に関するまとまりのある話を聞いて, 自分たちとの相違点や共通点を聞き取るとともに, 教科について尋ねたり答えたりして伝え合う。時間割について, 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句で書かれたものの意味が分かり, 書き写す。 ・他者に配慮しながら教科について尋ねたり答えたりして, 伝え合おうとする。
4	一日の生活	What time do you get up? I usually get up at 8:00. I always wash the dishes. ...	・小文字の書き方や, 一日の生活について尋ねたり答えたりする表現が分かる。 ・一日の生活について, まとまりのある話を聞いてその概要が分かったり, 順序立てて伝え合ったりする。一日の生活について, 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句で書かれたものの意味が分かり, 書き写す。 ・他者に配慮しながら自分の一日の生活について伝え合おうとする。
5	できること 文字の音に気付く 第三者を紹介する	Can you sing well? Yes, I can./No, I can't. I/You/He/She can/ sing well. ...	・小文字の書き方や, 一日の生活について尋ねたり答えたりする表現が分かる。 ・一日の生活について, まとまりのある話を聞いてその概要が分かったり, 順序立てて伝え合ったりする。一日の生活について, 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句で書かれたものの意味が分かり, 書き写す。 ・他者に配慮しながら自分の一日の生活について伝え合おうとする。
7	位置と場所 文字の音に慣れ親しむ 簡単な語句を読んだり書き写したりする	Where is the treasure? Go straight for three blocks. It's on/in/under/by the desk. ...	・**活字体の文字とその音が分かるとともに**, ある物の場所や物の位置関係を表す表現が分かる。 ・ある物の場所や物の位置関係についての説明を聞いて概要を捉えたり, 道案内をしたりする。**場所や物の位置関係について**, 音声で十分に慣れ親しんだ**簡単な語句や基本的な表現で書かれたものを推測しながら読んだり, 他者に伝える目的を持って書き写す**。 ・他者に配慮しながらある物やそれがある場所について説明しようとする。
8	料理・値段 丁寧な表現を使って依頼したり応じたりする	What would you like? I'd like spaghetti. How much? It's 100 yen. ...	・英語にも場面に応じた丁寧な言い方があることに気付くとともに, 家族の呼称や, 要求する丁寧な表現や値段を尋ねたり答えたりする表現が分かる。 ・**丁寧な表現を使って注文をしたり, 値段を尋ねたり答えたりする。**メニューについて, 相手の話を聞いて質問したり, 感想を伝え合うとともに, 料理について, 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれたものの意味が分かり, 他者に伝える目的を持って書き写す。 ・**他者に配慮しながら丁寧な表現を使って注文をしたり受けたり**, メニューについて相手の話を聞いたり, 感想を伝え合おうとする。
9	あこがれの人 その場で考えながらやり取りをする	Who is your hero? He/She is good at playing tennis. He/She can cook well. ...	・得意なことの表し方が分かる。 ・自分があこがれたり尊敬したりする人について, まとまりのある話を聞いて具体的な情報を聞き取るとともに,**その場で自分の意見を含めて質問したり紹介したりする**。音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれたものの意味が分かり, 例を参考に語と語の区切りに気を付けながら書き写す。 ・他者に配慮しながら自分があこがれたり尊敬したりする人について, 自分の意見を含めて紹介しようとする。

※第3回小学校の新たな外国語教育における補助教材の検証及び新教材の開発に関する検討委員会配布資料（会議後修正版）を元に作成。今後の検討の過程で修正する可能性がある。

英語教育推進リーダーに求めたいこと

小学校の3、4年生の外国語活動、5、6年生の外国語科、そして中学校の外国語科は、新学習指導要領を通じてつながっていきます。先生方には、それぞれに示された内容を別個に読むのではなく、ぜひ横並びにして読み比べることで、共通点と相違点を把握していただければと思います。そうすることで外国語活動と外国語科の接続、小学校と中学校の接続をどのようにすべきなのかが見えてきます。新聞報道などでも、小学校英語に関する記事は掲載されますが、情報を鵜呑みにするのではなく、不明点や疑問点があれば必ず「原点＝新学習指導要領」に立ち返って、確認していただきたいものです。

文部科学省は教員の指導力向上と新学習指導要領の周知・徹底のために、「英語教育推進リーダー中央研修」を行っています。中央研修を受講するのは、全国の各都道府県・政令指定都市教育委員会から、「地域の英語教育推進の中心的役割を果たす優秀な者」として推薦された教員の方々です。1年間にわたる中央研修を受講し、その後1年間で、12〜14時間程度の研修の講師を地域で務め、適切な内容の研修を行い、「英語教育推進リーダー」として認証されます。2017年度で中央研修は4年目を迎え、夏休みなどの期間を利用して、地域での伝達講習が行われていることと思います。

「英語教育推進リーダー」の皆さんにお願いしたいことは、国がめざす英語教育の方向性を中央研修で学んだそのままの言葉で伝えるのではなく、地域や学校の実態に合わせ、ご自身の授業実践経験を踏まえて、一度咀嚼（そしゃく）したうえで、ご自身の言葉として伝えていただきたいということです。現場の先生方を「英語教育推進リーダー」として任命する意味は、そこにあります。教育をつくるのは、授業の実践者である現場教員の皆さんなのです。国や教育委員会、管理職から伝えることよりも、現場経験に基づいて、同僚から実践を伝えることに意味があるのです。

今年度から小学校の中央研修は、集合研修の日程を4日ずつとして内容を凝縮し、より多くの先生にご参加いただくようにしました。また、「新学習指導要領」について正しくご理解いただけるよう、文部科学省による講座を1コマ取り入れ、新教材を使ったワークショップなども予定しています。中央研修で新教材を扱うことにより、中核教員への研修、中核教員から校内への研修においても、新教材を使って授業実践をすることができ、指導に生かすことができるでしょう。

［小学校］

中央研修のねらい

小学生に合わせた指導方法を修得し、
中核教員をはじめ、全小学校教員の英語指導力を向上させる。

文部科学省資料より

2017（平成29）年度
英語教育推進リーダー中央研修を開催

4年目を迎えた「英語教育推進リーダー中央研修」の「集合研修①」が、2017年6月にブリティッシュ・カウンシル（東京都新宿区）で開催された。集合研修は、地域ブロックごと、校種ごとに日程を替えて行っており、今年度から小学校は4日間の日程で研修を行った。研修初日には、文部科学省初等中等教育局の直山木綿子教科調査官により、「新学習指導要領」や新教材に関する内容のレクチャーの時間が設けられた。緊張した面持ちで集まった参加者たちは、直山教科調査官の講演を聞き、英語教育推進リーダーとして何をすべきなのかという意識を高めていた。

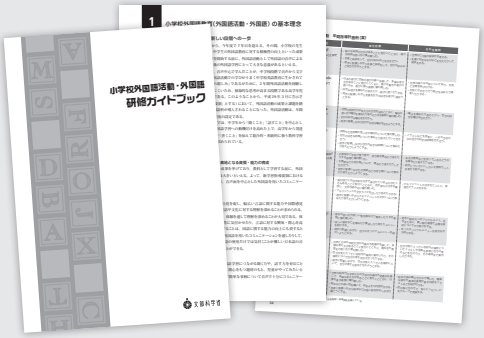
直山木綿子（なおやま・ゆうこ）

文部科学省初等中等教育局教育課程課・国際教育課外国語教育推進室教科調査官、国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官。京都市公立中学校の教諭、指導主事を経て、2009年より現職。

授業実践を伴う校内研修を

現在、英語教育推進リーダーから中核教員への伝達講習は円滑に進んでいますが、その先である、中核教員による校内研修に課題があるとされています。中核教員に選ばれた先生方にはぜひ、ご自身が授業を実践することで、その経験を校内の先生方に伝えていただきたいと思います。人は誰でも、未知のこと、新しいことに対する不安感や負担感を抱くものです。英語教育推進リーダーは新教材を用いた授業実践の研修を受けていますので、伝達講習で学んだ内容をぜひ実践してみてください。

これまで、校内研修が進まない理由として、教材が整備されていないという課題がありましたが、現在は、前述しましたように、年間指導計画例案とともに、新教材も用意しています。また、校内研修において授業実践を行っていただくために、文部科学省では『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』を作成しました。現場の先生方が求めていらっしゃること、これから始まる外国語教育についてぜひご理解いただきたいことを、「基本編」「授業研究編」「実践編」「実習編」「理論編」「研修指導者編」の6つのカテゴリーに整理し、より具体的な内容を示しています。また、先進的な取り組み事例もご紹介しました。文部科学省のホームページにて公開していますので、英語教育推進リーダーや中核教員の皆さんはぜひダウンロードをして、伝達講習や校内研修でご活用ください。



『研修ガイドブック』はこちらから閲覧できます。
（文部科学省／配付資料）

英語教育の改革期だからこそ

英語教育推進リーダーから中核教員へ、中核教員から各校の先生方へと、新学習指導要領の全面実施に向けて、その内容の周知・徹底が進んでいます。各校の校長先生には、中核教員による校内研修の意味を理解していただき、研究授業を通じて、先生方の指導力向上の機会をつくっていただければと思います。

小学校の先生方のなかには、「英語が苦手」という方もいらっしゃいますが、専科教員や地域の外部人材、ALTも活用しながら、担任の先生方が外国語活動や外国語科の授業をコントロールしていくのだという意識を高めていっていただきたいものです。学級担任だからこそ、外国語教育と学級経営を相互に生かし合うことができます。また、中学校や高等学校のような教科担任制ではなく、学級担任が指導する小学校だからこそ、教科横断型の指導をすることもできます。単にゲームをしたり、歌を歌ったりして、「楽しい」という授業ではなく、外国語と他教科等をつなぎ、さまざまな活動を通じて子供たちの知的好奇心を高め、「思考が活性化」する授業をつくっていただきたいと思います。

日本の英語教育が大きく変わろうとしている現在、「大変な時に当たってしまった」と思うのか、「新しいことに挑戦しよう！」と思うのか、どちらがよいでしょう。専門性のある、子供たちのこれからの人生に少なからず影響を及ぼす職業に就いているのですから、「教師」としてのプライドと自信を持って、ぜひ、自分たちが新しい英語教育をつくっていくのだという思いで、子供たちと向き合っていきましょう。

英語教育推進リーダーとしての役割を意識し授業での実践を共有していく

千葉県の戸村玲子先生は、県内でも国際色豊かで英語教育にも定評のある高等学校を歴任して、4技能を統合した授業を実践してきた。2014（平成26）年度には「英語教育推進リーダー中央研修」を受講し、今年度はスーパーグローバルハイスクール（SGH）である県立佐倉高等学校に着任。これまでの経験を生かして、新学習指導要領を見据え、言語活動の高度化を意識して行っている授業を取材した。

【本時の目標】

- Read the story considering the feelings of Irena and the other people in the story
- Answer the questions orally (using notes).

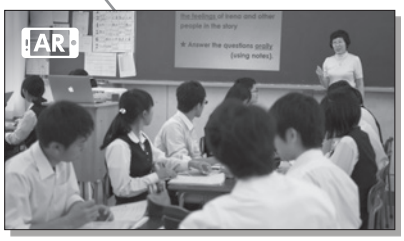
【教材名】

Lesson 4　Life in a Jar より Part 1, 2
『ELEMENT English Communication Ⅱ』
（啓林館）（全6時間中4時間目）

0min

1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6

戸村先生の授業の様子はこちら



1. Greeting & Sharing Today's Goals

4人ずつのグループを組んで授業がスタート。本時のゴールを示す。本文から何を読み取るのか、どのような活動をするのかを理解する。

2. Warm-up〜Review（Pair Activity）

前時に学んだPart 1の内容について、ペアでのQ&Aによって復習する。スライドで示された質問に対して、キーワードを使って答える。

3. Review（Pair Activity）

Part 2の内容を復習する。まず音声を聞きながら教科書を黙読する。続いてスライドで示された質問について、再びペアでキーワードを使って答える。

Questions for Further Reading

4. Brainstorming

子供を預けるか手放さないか、その決断によって起こる良い点と悪い点について、登場人物それぞれの立場で考え、グループごとに考えを発表する。

4技能統合型授業の大切さを再認識

2014（平成26）年度に、「英語教育推進リーダー中央研修」を受講した戸村先生は、「授業をつくるうえでは、生徒一人一人が自分に引き寄せて考えることのできる題材を選び、4技能を統合させた言語活動を取り入れることが大切だと再認識しました」と振り返る。4技能を統合した言語活動をいかに授業に取り入れ、それぞれの技能を伸ばしていくか、そのなかで文法指導をどのように絡めて、実際に使うことができるようにするかなどのアイデアを得たことが成果だったという。

さらに、中央研修の集合研修②では研修内容を伝える講師の立場で学び、「1つ1つの言語活動の意図をよく理解・意識し、効果的に組み合わせることで、生徒に付けたい力を伸ばしていけるということを、伝達講習に参加される皆さんと共有できるよう、自分が日々実践していくことが大切だと感じます」と話す。

千葉県では、夏休み3日間の伝達講習と1月に1日で行う実践共有を、県総合教育センターが主催して、5年間で県内の高等学校の英語科教員全員に向けて行っている。この研修には、戸村先生や毎年の中央研修受講者が全員で当たっている。

「同じ高校教員だからこそ、現場目線で講習を捉えることができるという利点もあることが分かりました。講習での学びを、できることから少しずつでも取り入れていきたいという感想を寄せてくださる方も多いです。1月の実践共有の際には、特にpersonalized speaking activitiesに絞って、小グループでマイクロティーチングを行うのですが、私自身も皆さんから学ばせていただいていますし、このような、実践経験や悩み等を気軽に話し合い、授業づくりのアイデアを交換する場は必要だと感じています」と言う。

自身も毎日の授業で、さまざまなアイデアを試み、修正を重ねながら、より効果的な活動の引き出しを増やし、周囲と共有したいと考えている。

実践を積み重ね、県内の先生方と共有する

高等学校の学習指導要領は今後、「言語活

前教科調査官が見る戸村先生の授業

敬愛大学 国際学部 国際学科　向後 秀明 教授（前 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課・国際教育課 教科調査官）

戸村先生は英語教育推進リーダーとして、千葉県の英語教育改善に貢献されているお一人です。今回の授業で見られた特徴としては、①ロール・プレイを通して題材中の登場人物の心情をより深く考えたうえで、最終的に生徒自身の考えを引き出す段階的なタスク設定をしている、②授業中はメモ程度の準備で活動し、授業後にフル・センテンスで書くという適切な指導順序になっている、③授業全体を通してプレゼンテーションソフトを活用し、効果的に視覚的補助を与えている、といった点が挙げられます。

一方、今後検討すべき事項もいくつかあると思われます。例えば、生徒は先生の指示を理解して活動しているものの、各活動において先生と生徒の間でより豊富なインタラクションを通したメッセージのやり取りを行った方が生徒からのより深いアイデアを期待できるのではないか、ロール・プレイ後半のタスクが複雑になり過ぎているために、生徒同士が日本語でやり取りをしないとタスクが遂行できない状態になっていないか、といった点です。各教科等で「思考力、判断力、表現力等の育成」が求められているのは言うまでもありませんが、我々はこのことを外国語（英語）で行わなくてはなりません。その意味において、本授業は、英語力そのものを引き上げることと、思考力等の育成との“共存”（あるいは連携）はどうあるべきかについて、一種の問題提起になっているとも考えられます。このことは、特にスーパーグローバルハイスクールにおける英語教育では重要なポイントとなります。戸村先生御自身がこれらの課題にどのように立ち向かっていくか、今後にさらなる期待をしております。

Questions for Further Reading

6. Organizing a Skit

グループごとに「最終的には子供を預ける」「子供は手放さない」という決断につながるように、セリフの順番を考えてスキットを作り、声に出して練習する。

Questions for Further Reading

8. Exchanging Ideas

これまでの活動を踏まえて、自分が登場人物（父もしくは母）の立場に置かれたらどのようにするかを考え、ペアで話し合う。

50min

7　8

Questions for Further Reading

5. Strip Reading

グループ内でイレーナ、父、母、子の役割を振り分ける。ランダムに2枚ずつ渡されたセリフカードを読み、誰のセリフかを考えて、その役の生徒に渡す。

Questions for Further Reading

7. Skit Presentation

異なる決断を下すグループ同士で、お互いのスキットを発表し合う。セリフを暗唱する必要はないが、できるだけ感情を込めてセリフを言う。

動の高度化」が求められる。今年度に着任した千葉県立佐倉高等学校は、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定に加え、2016年度よりSGH指定も受けた。現在、自身の授業では、生徒が自ら考え、友達と考えを共有しながら、自らの言葉で意見を発していく活動を重視している。授業中はできるだけ、仲間がいるからできることを行う時間にし、家庭では、授業で話したことをもとに、論理や英語の正確さにも気を付けて短い文章を書くなどの活動を復習として行うようにしている。

「生徒たちは、準備したものを英語で発表することはできても、まだ発表後の質疑応答に対応できる即興性のある英語力までは身に付いていないようです。今後は、ディベートなどにも取り組み、生徒の思考力・判断力・表現力を高める活動を少しずつ増やしていきたいと考えています」

生徒の4技能を伸ばしていくために、どのような活動を取り入れるのか。日々、自身で考えながら、英語科内で意見を交換し、3年間を見据えたカリキュラムを構築していくつもりだ。そして、県内でも伝統のある進学校として、生徒や保護者の期待にも沿わなければならない。

「これまで、4技能をバランスよく伸ばす必要性は英語科教員だけが意識していましたが、最近では外部検定試験も4技能型が広まり、大学入試も変わるということで、他教科の教員や、生徒、保護者の間でも意識の高まりを感じます」

それだけに、4技能統合型の授業を実践することで、求められる英語力を付けていけることを示していく必要があると考えている。

戸村先生は、英語教育推進リーダーとしての自身の役割を意識したうえで、自己研鑽を重ね、実践経験を校内や県内の英語科教員へとさらに広めていく決意を固めている。「中央研修を受講できたことは私にとって大きな財産となりました。県内外の先生方とのネットワークも広がり、情報交換をしたりエネルギーをいただいたりしています。私自身も自己研鑽を重ね、実践経験をさまざまな形で皆さんと共有できるようにしていきたいと思います」と語った。

小集団による生徒の言語活動中心の授業で発話力を高める指導

「英語教育推進リーダーとして、地域の小・中学校の先生方と一緒に授業改善に取り組んでいきたい」と考える島根県の上田陽一郎先生は、2015（平成27）年度の「英語教育推進リーダー中央研修」を受講した。今年度異動した益田市立益田中学校では1年生を担当し、中央研修での学びを生かして、生徒の発話量を増やすために小集団での活動中心の授業実践を重ねている。

【本時のめあて】
How many ...? の表現を使って数を尋ねることができる。

【教材名】
Unit 4 ホームパーティーより
Part 2 How many ... ?と応答
『NEW HORIZON English Course』
（東京書籍）（全8時間中3時間目）

0min

1 | 2 | 3 | 4

上田先生の授業の様子はこちら

1. Greeting
英語でのあいさつに始まり、日付や曜日、天気などを上田先生と生徒たちとの会話で確認する。

2. Song
教科書P. 20の「英語の歌」より、カーペンターズの「Sing」を歌い、英語で活動する空気をつくる。電子黒板に歌詞と画像が映し出され、音楽に乗せて先生と一緒に歌う。

3. Review
「今日のねらい」を確認し、前時までに学んだ「数」の表現を、電子黒板に映されたフラッシュカードの文字や数字を見ながら復習したのち、複数形を画像や数字とともに声に出して練習する。

生徒の言語活動を多くして発話量を増やす

「中学1年生の導入期だからこそ、『難しくて分からない』『英語が嫌い』と感じる生徒をいかに減らすかを考えて授業づくりをしています」と話す上田先生。新学習指導要領を見据えて、授業は基本的に英語で行う。生徒同士で活動をしながら英語を使う機会を増やすことを大切にし、スライドで提示するイラストや文字、写真などが生徒の理解の助けとなる。生徒が理解できない様子が見られたときには日本語で説明するが、できる限りスライドやワークシートなどは英語を使うようにしている。

「中央研修でトレーナーがパワーポイントで提示する資料は、絵や写真、数字そのものなど、ビジュアル要素が多かったですね。小学校で音声によって英語に触れてきた生徒たちが、中学校で文字と出会い、苦手意識を持たないためにも、音と文字をいかにつなぐかが大切だと意識しています」と上田先生は述べる。

「"How many ...?"の表現を使って数を尋ねることができる」をめあてとするこの日の授業では、電子黒板に絵と文字が表示され、口頭練習をしたうえでグループ活動に移った。グループ内でフルーツのカードを配り、お互いが持つフルーツの数を"How many ...?"と尋ね、持っていたら"I have two oranges."などと答えてからカードを相手に渡す。生徒はターゲットセンテンスを繰り返し使いながら覚えていく。そのあとのインタビュー活動では、聞き取った数をワークシートに記入し、授業のまとめでは、複数形や"How many ...?"の表現を書き、技能統合型の授業を成立させていた。

上田先生の授業では、生徒がグループやペアでの活動を通じて英語を使う場面が多い。これは、小さな集団で話すことによって発話量が増えることを中央研修で学んだからだ。

「生徒にとっては大勢の前で話すスピーチよりも、数人の生徒同士で話し合う方が、英語を話すことへの障壁も低く、生徒同士で教え合う姿も見られます。日常の場面を考えると、演説のようなpublic speakingより、少人数で話すspeaking privatelyの場面の方が圧倒

視学官が見る上田先生の授業

文部科学省 初等中等教育局 平木 裕 視学官（文部科学省 初等中等教育局 教育課程課・国際教育課 教科調査官 併任）

新学習指導要領で強調している「生徒の理解の程度に応じた英語」を上田先生が用いようとしていることが、授業全体を通して感じられます。併せて、本誌「夏号」の栃木県 真岡市立大内中学校の村上正行先生と同じように、ICTを活用してスライドを提示することで日本語を介在させない工夫が随所に見られ、そういったことが英語での授業展開をスムーズにしていると言えます。

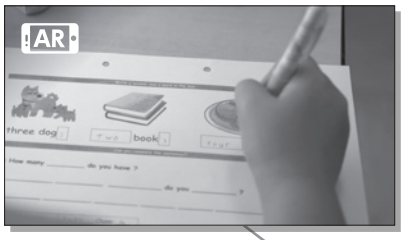
“How many ... ?”の表現は小学校の外国語活動でも扱っているものですので、校区内等での小・中連携から、小学校での導入の仕方やコミュニケーション活動の実際を把握したうえで、それを中学校でも取り入れるなどすることにより、中学生にとっては「あ、あれだ！」と実感できるような「出会い直し」のシーンにしたいですね。さらに、この授業を“How many ... ?”を用いたコミュニケーションの導入と考えるなら、数を知りたい状況、数を尋ねる場面は、実生活において、さまざま考えられることを考慮し、次時以降は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明確にしたうえで、自分が本当にほしい情報について、互いに即興でやり取りをするといった単元展開となることに期待したいと思います。

4. New Pattern

画面の「？」は“How many ...? ”を表し、数えたいものの画像と合わせて“How many ... do you have? ”と尋ねる表現を練習する。その後、各グループにapple、orange、banana、lemonのカードが配られ、各自が持っている数を尋ね合う。

6. Wrapping up

3匹の犬、2冊の本、4個のオレンジの絵を見てスペルを書く。①How many _____ do you have? ②_____ do you ____? ③_____?の空所補充をして、複数形やHow many...?の表現を書く活動につなげる。



50min

5 6

5. Interview

ワークシートを使って、友達とインタビュー活動をする。“How many ... do you have?”と、それぞれが持つ兄弟姉妹、犬、猫の数を尋ね、得られた情報を記入する。聞かれた質問に答えたら、“How about you?”と聞き返して会話をつなぐ。

的に多いものです。中央研修では、speaking privatelyの機会を増やすと、発話量は増えると学びました。speaking privatelyの積み重ねが、public speakingへとつながるのです。新学習指導要領で、話すことが［発表］と［やり取り］に分かれたのも、そうした意味があるのではないでしょうか」

目の前の生徒、地域の実態に合わせた指導を

中央研修の修了者は、地域での伝達講習を行う。その受講者は必ずしも授業改善に意欲的とは限らない。なかには自身よりも指導経験の長い教員、授業改善に消極的な教員もいる。上田先生は「それぞれの先生の経験や考えがありますから、『一緒に学びましょう』という気持ちで講師を務めました。講習が終わるときには、『自分でも実践してみようと思う』『英語で授業をすることの意味が分かって楽しかった』といった声が聞かれ、うれしかったですね」と振り返る。また、「英語で授業を実践している先生方も多くいらっしゃることが分かり、私も励みになりました」と笑みを浮かべる。

来年度からは新学習指導要領の移行期に入る。小学校では中学年での外国語活動、高学年での教科化という大きな変化があり、中学校では上田先生のように「授業は原則、英語で行う」ことに取り組むようになる。

「英語教育推進リーダーに求められる責任を受け止め、地域の先生方とともに歩んでいかなければなりません。小学校との連携もますます重要になるでしょう」と上田先生。「でも、あくまでも大切なのは、目の前にいる生徒の実態に見合う授業をつくるということ」だと強調する。

「生徒が社会で英語を使う場面に遭遇したときに、『中学校での学びがあるから、今、英語を使うことができるのだ』と感じてもらえたら教師冥利に尽きます。そのためにも、生徒に寄り添い、生徒が生涯にわたり英語と付き合っていく姿勢を養いたいものです。そして、このようなことを多くの先生に伝えていけるよう、自分から働き掛けていきます」。静かな語り口ながらも、その言葉には強い意志がこもっていた。

新学習指導要領への理解を促し 安心して授業ができる空気をつくる役割を

「来年度からの移行期に向けて、さらに新学習指導要領への理解を促したい」と活動する高知県の市原佐知先生は、現在、中土佐町立久礼小学校のJTE（日本人英語指導者）として校内の先生方や地域の先生方に対し、自身の授業実践に基づいた指導を行っている。「子供たちや担任の先生が安心して英語を使って活動ができる教室をつくることが大切」だと、温かな笑顔で教室に向かう。T1として指導にあたった4年生の外国語活動の授業を訪ねた。

【本時の目標】
文ぼう具を持っているかをたずねたり、答えたりする表現を知ろう

【教材名】
新学習指導要領 小学校4年生外国語活動年間指導計画例（素案）より
Lesson 5　Do you have a pen?　おすすめの道具箱をつくろう

2. Warm-up

クリアボイスを意識して“If you are happy” songをジェスチャーを交えて歌う。歌い終わったあと、“Oh, 4nensei nice dance!”という市原先生の褒め言葉に、全員が手を叩いて褒め合った。

0min

1 | 2 | 3 | 4

市原先生の授業の様子はこちら

1. Greeting

今日のリーダーの掛け声で元気にあいさつ。天気や曜日、日付を尋ねては、市原先生と児童とで絵カードを見ながら「なぜその曜日が好きなのか」などについて自分の言葉で述べ、この日が誕生日の児童を祝って歌った。

3. Lesson Goal & Today's point

デモンストレーションを見たあと、文房具の名前と“Do you have ...?” “Yes, I do. I have a ...” “No, I don't. I don't have ...”の表現を使って、ペアでやり取りをする。その後、今日の授業で知りたいことについて意見を募り、Today's Pointを確認した。

間違えてもよい空気をつくり 本物の英語を提示

市原先生はかつて中学校の英語科教員として教壇に立っていた。7年前に小学校の外国語活動が始まるにあたり、毎週1回、久礼小学校を訪れ、5、6年生の外国語活動にティーム・ティーチングに入ることになった。その後、久礼中学校と久礼小学校は2014年度より文部科学省の「外国語教育強化地域」の指定を受け、市原先生は久礼小学校での「教科化に伴う指導と評価の一体化」の研究開発を進めてきた。現在、市原先生は、久礼小学校に在籍し、毎週1回、久礼中学校で指導している。

英語教育推進リーダーの中央研修には、2014（平成26）年度に参加した。できるだけ日本語を介さずに英語で授業を進めること。端的にキーワードで指示し、ジェスチャーを交えた説明によって理解を促し、児童の活動時間を確保すること。活動の前には、先生同士、先生と児童によるデモンストレーションを行い、何をすべきかを「やって見せる」こと。中央研修で得たものは数知れない。

この日の授業では、ある児童が大きな声で間違った場面もあった。だが、市原先生は「子供たちは間違えてもよいのです。クリアボイスを意識して発言できたことを褒め、次から小さな声にならないように配慮しています」と話す。ただし、間違いは決してそのままにはしない。児童の間違いを指摘するのではなく、説明をしながら正しい表現を示し、子供たちに気付きを促すのだ。

「今日は文房具の名前と“Do you have ...?”の表現を使って活動しましたが、scissorsを持っているかを尋ねたいとき、“Do you have a scissors?”と言ってしまう児童が多く、scissorsが複数形であることを意識させるために、“Do you have”で一旦区切って、“scissors? ”と続け、複数形にはaが必要ないことを、私の言い方から気付かせるのです。本物の英語を提示することの大切さも、中央研修で学んだことの1つです」と紹介した。

教科調査官が見る市原先生の授業

文部科学省 初等中等教育局 国際教育課 外国語教育推進室　直山 木綿子 教科調査官

2020（平成32）年度からの新学習指導要領全面実施を見据え、文部科学省は、2014（平成26）年度より小学校教員の英語力を含む英語指導力向上を目的に、「英語教育推進リーダー中央研修」を実施しています。初年度の英語教育推進リーダーである市原先生は、学級担任の先生とティーム・ティーチングで実際に授業を行いながら、先生方にどのように指導するのかを提示しています。例えば、児童から文房具の言い方を引き出すために、絵カードの一部を見せたり、一瞬見せたりと、児童が言いたくなる工夫をしています。また、今回の授業では、T1を務めるものの、担任の先生をたてながら、役割分担をされています。英語の部分は市原先生が担い、ほぼオールイングリッシュで授業を展開されています。担任の先生は、こうやって授業を積み重ねることで、英語力を含めた指導力を向上させ、自信を持って一人で授業をされるようになります。市原先生のように、まず、英語教育推進リーダーがモデルを示す、一緒にやってみる、そして担任一人で指導する、という流れで先生方の指導力向上を図ってはいかがでしょうか。

5. Cards Game

絵カードを裏返し、1枚を市原先生が隠し持つ。児童が“Do you have a pen?”と尋ねてカードを当てる。グループで活動したあと、1組が発表し、ほかの児童は良かった点を発表し合う。

7. Closing

Today's point で示された表現がしっかりできていたことを市原先生が褒める。次時では、それぞれの文房具の色や状態（long など）を学ぶことが伝えられた。

45min

5　6　7

4. Review words & Cha-Cha-Cha, New Phrases

ジェスチャーから想像して文房具の名前を言い、絵カードで正誤を確認。Cha-Cha-Cha timeでは、文房具の名前を言ったら手拍子を3回打つ。さらに、“Do you have ...?”と“Yes, I do. / No, I don't.”の表現をチャンツで練習した。

6. Reflection

良かった点、次時に取り組みたいこと、難しかったことなどを発表し合う。「分からないときにはグループ内で助け合っていたのが良かった」といった意見も出た。

小学校英語の醍醐味を味わってほしい

地域の中核教員への伝達講習を通じて、小学校の先生は、一日中英語で研修があると聞いただけで、「私には無理」と引いてしまう様子が見られた。そこで、基本的には英語で進めながらも、時にはジェスチャーを交え、日本語でも説明した。「英語で授業をするなどできない」「校内の先生に伝えるのは無理」などと思われては、伝達講習が成立しないため、目の前の先生方のニーズや実態を捉えながら、国が求める方向性を伝えるようにした。

久礼小学校では3、4年生に週1時間の外国語活動、5、6年生は週2時間の外国語科を組み込み、効果測定としての英検Jr.受験やパフォーマンステストも実施しており、各担任が自身の英語力や指導力を高める意識を持っているので校内研修は進めやすい。だが、地域の伝達講習では、「外国語活動や外国語科は高学年の先生がすること」という意識が根強かった。「新学習指導要領の移行期に入れば、英語は高学年の先生だけというわけにはいきません。外国語活動の授業を見たことがない先生方でも安心して授業ができるように、新学習指導要領への理解を促すことが英語教育推進リーダーの役割です」と市原先生は使命感を持って活動する。

そして、「担任の先生が完璧に英語を話す必要はなく、先生もがんばって英語を使っているという大変さを子供たちと共有することで、子供に気付きが芽生えることもあります。担任の先生には間違いを恐れずに、大きな声で活動をリードしていただきたいと思います。そうすれば授業が回り始めます。それが小学校英語の醍醐味です」と言い切った。

日本の歴史や文化、日本語の表現の豊かさが好きだという市原先生は、「日本の魅力を英語を使って世界に発信したい。子供たちにも英語を通じて世界に目を向け、いろいろな人や世界とつながってほしい」と願う。「今後は、新学習指導要領で求められる『主体的・対話的で深い学び』を意識して授業をつくっていきたいです」と目を輝かせた。

〔連載〕

安河内哲也先生が聞く

英語で授業 7つの鉄則

明日から使える！

【第13回】

安河内 哲也（やすこうち・てつや）

一般財団法人実用英語推進機構代表理事、東進ハイスクール、東進ビジネススクール英語講師。文部科学省「英語教育の在り方に関する有識者会議」委員を務める。英語学習の楽しさを世に広めるべく、テレビ番組などでも大活躍中。英検１級など英語関連の多数の資格を持つことでも知られる。

神奈川県 横須賀市立常葉中学校
永保 遼 先生

永保 遼（ながやす・りょう）

2015年横須賀市立常葉中学校着任。3年目、第2学年担当。2015年より校区内の小学校、高等学校とともに文部科学省委託「英語教育強化地域拠点事業」を実施。「英語を通じて幸せになる」ため、グローバル社会で活躍することのできる生徒の育成をめざし、研究に取り組んでいる。英語を通じて豊かな人間性が育むよう、英語科教員全員で協力して授業の研究・改善を行っている。11月には同事業で授業発表を予定している。

身近な題材を用いた自然な場面設定によるやり取りを通じてターゲットセンテンスの使用場面を理解させる

文部科学省の「英語教育強化地域拠点事業」に指定された横須賀市立常葉中学校は、校区内の小学校や高等学校とともに、「小・中・高等学校を通じた系統的な英語教育の在り方」を研究してきました。新学習指導要領を見据えて「授業は英語で行うことを基本とする」を実践し、横須賀を題材にした自然な場面設定による言語活動により、生徒たちのコミュニケーション能力が磨かれています。永保遼先生が指導する中学２年生の授業を訪ね、総括教諭の若林完樹先生とともにお話を伺いました。

生徒たちの住む横須賀の町を題材にした自然な場面設定で、ターゲットセンテンスを使った会話が展開されます。生徒たちの活動の様子をご覧ください。

本日の授業

2年生
使用教科書：NEW HORIZON 2（東京書籍）／単元名：Unit 3　Career Day
使用教材：横須賀市中学校外国語科副読本「Finding YOKOSUKA」P. 36-37　Do you know a good place?

永保先生の授業の様子はこちら

Review

Matching Card Gameで前時の復習

授業冒頭では、ペアでターゲットセンテンスのto+不定詞を使って会話をする。各ペアに「アメリカでしたいこと」について書かれたカードが3枚ずつ配られる。それぞれがカードを選んだうえで、一人が“I go to America to meet my friends.”と言ったら、もう一人はもし同じカードを選んでいれば、“Wow, me, too! Let's go together!!”と答え、違うカードであれば、“Oh, really? I go to America to eat hamburgers. / play soccer.”のように、自分が選んだカードの内容を使って会話をする。その後、行く場所を生徒にとって身近な中央公園に替えて、同様に活動した。

Introduction

ターゲットセンテンスの導入

まず、副読本を生徒一人と永保先生で音読する。「父親の誕生日プレゼントを買いたいが、何か良いアイデアはないか？」という問いに対して、父親の好みからプレゼントを考え、週末に横須賀中央駅にあるお店へ一緒に買い物に行こう、と誘う友達同士の会話が繰り広げられた。その会話を聞いたあと、何を買おうとしているのかを生徒たちが聞き取ることができたか、永保先生はテレビ画面にシューズやラケット、シャツなどのイラストを映し出して確認した。続いて、“I want to ...”や“I need to ...”のリクエストに合う内容の答えを結び付ける活動に移った。生徒たちが理解することができているかを確認するため、先生は1つずつリクエストを画面に映し出し、それに合う答えを生徒に発表させて、本時のターゲットセンテンスを確認した。

Practice

“I want to ...”や“I need to ...”を練習する

横須賀の有名な場所を題材に、相手がしたいことにふさわしい場所を提案する。永保先生は、「うみかぜ公園」「猿島」「くりはま花の国」「三笠公園」の写真を電子黒板に映し、“I want to play basketball. Do you know a good place?”と生徒に問い掛け、生徒たちが“How about Umikaze Park? You can play basketball.”と答える。そのあと、隣の席の生徒同士で同様に、“I want to ...”や“I need to ...”のフレーズを練習した。続いて、ほかの場所についても同様に生徒同士でやり取りした。

Activity 1

外国人に横須賀を紹介する設定で活動する

ペアで旅行代理店員と外国からの旅行客の役に分かれ、横須賀のおすすめの場所を紹介する。まずは、先生と生徒たちで対話の練習をする。その際に、これまでに練習してきた“I want to ...”と“How about ...? You can ...”のやり取りを使うことが示された。ひと通り全体で練習したあと、ペアでの活動に移る。Dialogueが記されたワークシートを手に、生徒たちはそれぞれの役になりきって会話を進めていた。

Activity 2

自然な応答も入れながら会話を進める

ワークシートを見ずに、相手の目を見ながら会話をより長く続ける。旅行代理店員役の生徒は、“Anything else?”など、相手のしたいことをできるだけ引き出し、いくつかの場所を勧める。さらに、ペアを替えて会話をし、相手のリクエストに応じた答え方ができるようにする。生徒たちの様子を見て回っていた永保先生は最後に、一組のペアにデモンストレーションをさせて、好例として示した。そして次の授業では、この日に練習したフレーズを、校外で外国人観光客に対して実践してみることが伝えられ、授業は終了した。

鉄則その1 パワーポイント資料を提示する

本校ではICT機器を効果的に活用し、授業中に電子黒板にスライド資料を提示する際には、文字だけでなくイラストや写真、動画を取り入れて、生徒の興味・関心を引くようにしています。それにより、授業がauthenticなものになると思います。例えば、今日の授業のテーマは「横須賀の町紹介」でしたので、生徒たちになじみのある「うみかぜ公園」「猿島」「くりはま花の国」「三笠公園」といった観光名所の写真を使用しました。英語で授業を進めるにあたり、教員がパワーポイントで作成したスライドを見せることで、生徒の理解や発話を促すことにつながっています。

鉄則その2 自然な場面設定をする

今日は“I want to...”がターゲットセンテンスでした。そこで、生徒にはペアを組ませ、「～をしたい」という旅行客に対して、旅行代理店員が「～をするには、どこを訪れたらよい」とアドバイスをするという場面設定のもとで会話をさせました。ほかにも例えば、3年生では、“I don't know how to use.”というセンテンスの使用場面を考えさせるため、授業が始まる前に電子黒板に、しかめっ面でカメラを手にした赤ちゃんの画像を表示しておきます。頭の上に「?」と“I don't know how to use this camera.”というフレーズを添えてあると、生徒はその画像からセンテンスの使用場面をイメージすることができ、授業中のペアワークなどを通じて、実際に繰り返し使いながら理解していくのです。

鉄則その3 授業外でも英語を使う

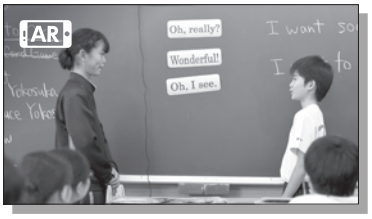
横須賀市では5人のFLT（外国人英語教員）が高校1校、中学校4校に配属され、その他の小・中学校にはALTがいます。本校では、生徒にFLTとはNo Japanese, All Englishというルールにしています。横須賀という土地柄、生徒たちは学校から一歩出れば、街で外国人を見掛ける機会が多くありますので、校内でもFLTと、“Hello! How's it going?”と声を掛け合うなどして、英語を使うことに慣れていくことができればと思います。また、校区内の小学校で使用している月や曜日の単語、英語の名言などの掲示物を、本校内でも掲示することで、生徒が小学校で慣れ親しんできた英語表現に、中学校でも日常的に触れることができる環境を整えています。

鉄則その4 和文英訳、英文和訳をしない

ある中学校の授業を参観したときに、“You have a nice watch.”に対して、多くの生徒が“Oh, this watch bought in Yokohama.”と応答している場面に遭遇しました。ほかにも、“Let's go shopping tomorrow!”に対して、“Sorry, but tomorrow is going shopping with my family.”と答えるなど、生徒は頭に浮かんだ日本語を、そのままの語順で英語にあてはめて書いたり話したりしていたのです。そこで、本校では、生徒には和文英訳をするのではなく、自分の頭で思い浮かべた映像について日本語を介さずに英語で表現する活動を通じて、日本語と英語が必ずしも一致しないことを理解させています。また、英文和訳については、定期テストで下線部和訳の出題はしませんし、教科書の本文を和訳させることもしていません。

鉄則その5 頭に浮かんだことをすぐに言わせる

例えばペアワークで、一人が英語で色を相手に言い、もう一人はそれから連想するものを英語で言うというゲームを取り入れています。redにはtomato、yellowにはbanana、blueにはoceanのように言うのです。redは赤だからトマト、トマトは英語でtomato…と英語と日本語で変換をせずに、瞬間的にred-tomatoと言えるようにします。その際に大切なのは、間違えることを嫌だと思う空気をつくらないことです。そこで、時には教員があえて間違えてみせたり、外国籍の生徒と話しながら、間違えても通じることを体感させたりします。頭に浮かんだことをすぐ言わせるには、先に絵や写真を見せたり、場所を思い浮かばせたりしたうえで、英語が出てきやすいようにして、発話を促しています。



鉄則その6 Don’t explain. Just let students practice.

例えば、テニス部の顧問がラケットのグリップの持ち方から始まって、サーブの打ち方を説明し、生徒にまったく実践させないことと、最低限の説明をしたら、あとは生徒に実践させ続けることでは、どちらが上達するでしょう。それが後者であるのは明らかです。英語もそれと同じだと思います。そこで本校では、授業中、生徒にできるだけ言語活動をさせるようにしています。生徒は初めはうまく言えないことも多いですが、何度も繰り返すうちにできるようになっていきます。英語での表現を身に付けていくには、もちろんaccuracyも大切です。そこで、生徒の発言から間違いをクラス全体に共有して正しい表現を示し、再び正しい表現を使って実践するようにしています。

鉄則その7 生徒が英語を使う時間を確保する

授業の主役はあくまで生徒であり、生徒の言語活動が中心です。そのためにも、生徒が英語を話したくなる空気づくりを大切にしています。自分から発話することができない生徒には、教員が寄り添って、その生徒が発話できそうな題材を与えるほか、グループやペアで助け合い、自分たちで考えて話すことができるように促します。時には外国籍の生徒など、英語を流暢に話す生徒をモデルに使うことで、そのレベルに到達できることを目標にがんばろうという気持ちで取り組むこともあります。その逆に、そうでない生徒が自分の言葉でがんばって話している姿を見ることにより、生徒同士で助け合い、伸びていくこともあります。生徒同士の学び合いの効果は大きいです。

interview

テストのための英語を学ぶのではなく言葉として英語を使う人を育てる

英語で授業を行うために大切なこと

安河内　新学習指導要領では、中学校でも「授業は英語で行うことを基本とする」ことが示されました。常葉中学校ではすでに、生徒の言語活動中心の授業を英語で行っていますね。小学校や高等学校との接続も踏まえて、どのように授業を進めていますか。

永保　本校は2015年度より文部科学省の「英語教育強化地域拠点事業」の拠点校として、諏訪小学校や田戸小学校、横須賀総合高等学校と連携し、小・中・高等学校をつなぐCAN-DOリストに基づく授業を行っています。小・中接続を考えて、中学校の授業では生徒たちが小学校で慣れ親しんできた表現をできるだけ使うようにしています。例えば今日の授業で学んだ“I want to ...”の表現は、小学校で“I want to be ...”を使っていますので、意味を教え直すことなく、生徒たちはその表現を使って会話をすることができます。

安河内　中学校入学段階では、どのように英語での授業を導入するのですか。

若林　私は1年生を受け持っています。4月の1回目の授業では自己紹介から始めますが、映像を交えたスライドを使うことで、英語で授業を進めていても、生徒たちはほぼ内容を理解できています。そうして入学当初から常葉中学校のスタンダード（授業は英語で行うことを基本とする）を築いています。

安河内　最初からそうしたスタンダードを築くことは大切ですね。私も予備校で5日間の合宿をする際には、初日のうちに、合宿期間中は英語しか使うことができない空気をつくるようにしています。

永保　定期テストで10点、20点台を取る生徒でも、授業中は今、何をすべきかを理解して活動しています。生徒を信じて「やり続けること」が大切だと思います。

英語はテストのための学習ではない

安河内　生徒は書いたり読んだり、単語を覚えたりすることには苦手意識を持っていても、英語を話すことは好きですよね。英語が「テストのための学習」にならないための工夫はありますか。

永保　「英文和訳や和文英訳を極力しないこと」ですね。そして、学校を卒業したら英語学習は終わりでなく、英語は私たちが生きていくなかで使う言葉だと理解させるように心掛けています。

若林　時には、日本語との感覚の違いを教えるために、あえて和訳を使う場合もあります。例えば、教科書に“She is our teacher.”というターゲットセンテンスがあります。「She＝彼女」ですから、これを日本語に訳せば「彼女は私たちの先生です」となるでしょう。でも実際の学校生活では、生徒が先生に対して「彼女」という言い方はしませんよね。そういった感覚の違いを教えています。

安河内　なるほど、時には日本語と比較することもあるということですね。

若林　そうした授業をしているので、生徒からは、市販の問題集や塾のテキストが定期テストで役に立たないと言われることもあります。例えば、教科書に、“Are you a Giants fan?”というターゲットセンテンスがあります。従来のテストでは、その応答文となる“Yes, I (　). / No, I (　) not.”が出題され、(　)にamを入れれば正解となります。しかし、私が作るテストでは、“Yes, I am. / No, I'm not.”まで書いてあり、これらの応答に対して、次に何と言うかを書かせます。実際の会話を考えたら、be動詞を入れることができるかではなく、自分の考えを添えることの方が大事ですよね。この問題では、“No, I'm not. I'm a Tigers fan”という応答に対して“You are not my friend!”と答えた生徒がいました。わずか数行でも、文脈を読まなければ答えられない問題を出していますので、本校では市販の問題集ではテスト対策ができないのです。

安河内　神奈川県の高校入試の問題もそうした傾向がありますか。

永保 遼 先生

総括教諭
若林 完樹 先生

若林　和文英訳は出題されません。以前は対訳式で、空欄のある英文と日本語訳を見て、空所補充する問題が出題されていましたが、数年前から、文脈を考え、ふさわしい単語を入れる問題に変わりました。英文和訳も一切出題されません。

安河内　日頃から先生方のような授業を受けていれば、対応できるでしょう。今日の授業でも、生徒たちは活動を始めたころは1回やり取りしたら終わっていたのが、最終的には1分間話し続けることができるようになっていました。

自然な会話の流れで英語を使うことが大切

安河内　さて、若林先生は「英語教育推進リーダー中央研修」を受けたそうですが、いかがでしたか。

若林　多くの刺激を受けましたし、これまで自分が学び、実践してきたことが間違いではなかったと自信が持てました。

安河内　その自信があるからこそ、今度はご自身が学んだことを地域や校内で広げていけるのですね。「Classroom English禁止令」も研修で学ばれたのでしょうか。これはどういう意味ですか。

若林　「Classroom Englishという枠にとらわれない」という意味です。「さあ、座って。準備できたか?…はい、では、Everybody stand up! では、始めます。What's the date today?」と進んでいく授業を見たことがあります。教員がClassroom Englishを使って英語で指示をしていますが、私はこれでは英語を使う意味がないと思うのです。英語は言葉です。日常のなかで自然と使われるものでなくてはなりません。そのために教員は、自分が話す英語が言葉として自然な会話の流れのなかで使われているのかを意識して使うべきだと思います。

安河内 哲也 先生

安河内　使うべき場面で英語を使うということですね。

若林　学校生活を送るうえでは、生徒と英語でインタラクションを行うチャンスは随所にあります。その機会を逃すわけにはいきませんよね。

英語は世界の平和を生み出す言葉

安河内　先生方は英語教育を通じて、どのような生徒を育てたいですか。

永保　私自身、実は英語があまり好きではありませんでした。それでも、英語を話すことは楽しく、大学時代には留学を経験しました。

安河内　どちらへ留学されたのですか。

永保　オーストラリアです。留学して感じたのは、英語ができると自分が成長できるということでした。そして、1つの言語しかできないよりも、複数の言語、特に英語を使って世界の人々とコミュニケーションを取ることができることで、見える世界が変わるのではないかと感じました。生徒たちには、英語を通して世界を知り、世界の人々とコミュニケーションを取ることができるように、そして、英語を通じて幸せになってほしいと願っています。

安河内　若林先生も留学を?

若林　私は留学をしたことはなく、海外旅行程度です。

安河内　日本だけで学んで英語を習得されたのですね。生徒には身近なロールモデルとなりますね。先生ご自身は英語を使うことを楽しんでいますか。

若林　英語を楽しんで使っている姿を生徒に見せるように心掛けています。例えば、朝のホームルームが終わったら、生徒たちに"What is the first class? P.E. or art?"などと尋ねて、"Let's enjoy drawing pictures! "と授業に送り出すのです。1年生でも分かりやすい英語を日頃から使っています。また、クラスの掲示物も英語で書くなどして、英語は教科ではなく、言葉であることを伝えています。職員室では英語科教員同士、英語で声を掛け合うこともありますよ。

永保 遼 先生

若林 完樹 先生

安河内　そうして先生が楽しんで英語を使っている姿を生徒に見せることは、大事なことですね。

若林　なぜ英語を学ぶのか。それは世界の人とコミュニケーションを取ることができるようになるためだとよく言われます。では、何のためにコミュニケーションを取るのか。私は大学時代、「言語を通して世界の平和を」という建学の精神のもとで英語を学びました。日本で私たちが送っている生活が当たり前ではなく、テロなどが多発し、それが他人事ではなくなってきている時代において、世界に目を向けることのできる生徒、さまざまな外国語を通して世界の人々とコミュニケーションを取り、世界平和を考えていくことのできる生徒を育てたいと考えています。

安河内　そうですね。英語はテストのために学ぶものではありません。英語は世界と私たちを結び付け、世界の平和を生み出す言語だと私も思います。今日はいろいろと参考になるお話をお伺いすることができました。ありがとうございました。

（文中敬称略）

新教育課程
に向けて

高等学校編

技能統合型授業における ライティングの指導と評価

〔連載〕第3回

ライティングによる 発信力・自己表現力を高める指導の工夫

明治学院大学 文学部 准教授　杉田 由仁

今回は、高等学校での思考力・判断力・表現力を育む技能統合型の授業における「ライティングによる発信力・自己表現力を高めるために効果的な指導の工夫」について考えていきたいと思います。

ライティングによる 発信力・自己表現力の必要性

文部科学省が2015年度に高校3年生を対象に実施した「英語力調査」では、「書くこと」の無回答率が約30%という結果となり、「書くこと」は「話すこと」と並んで日本の高校英語教育における喫緊の課題としてクローズアップされました。2016年度の調査では、無回答の割合が減り（約30%→18%）、得点者は10%以上増加（約70%→80%）しましたが、依然として課題が大きいという結果になっています。

このような実態を踏まえますと、次期学習指導要領が目標として掲げる「外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、外国語で書いて情報や考えなどの概要・詳細・意図を伝え合うコミュニケーション力」や「知識や得た情報を活用して、自分の意見や考えを外国語で形成・整理・再構築する力」を育成する、技能統合型のライティング指導を行うことは、相当にハードルが高いように思われます。しかし、グローバル時代においては、英語による発信力や自己表現力がどうしても必要ですので、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解して、適切に伝えることのできる「ライティングによる発信力・自己表現力」を育成する指導が求められます。

発信力・自己表現力を高める 指導の工夫

Nunan (1990) は、コミュニケーション能力を効果的に高める「技能統合型」授業における指導の工夫として、右記 1) ～ 7) を提案しています。

1) Authenticity
・言語材料の真正性

2) Task continuity
・タスクの順序性

3) Real-world focus
・実生活との関連

4) Language focus
・言語の体系的学習

5) Learning focus
・学習ストラテジーの習得

6) Language practice
・口頭練習の充実

7) Problem solving
・問題解決型タスクの配置

（pp.130-131より筆者翻訳）

1) ライティングに入る前に聞かせる会話や読ませる題材は、本物、または本物に近い会話や読み物などを活用すると指導効果が高くなります。

Yoshihito SUGITA

杉田 由仁（すぎた・よしひと）

山梨県公立中学校教諭、山梨県立看護大学専任講師、山梨県立大学看護学部准教授を経て現在明治学院大学文学部英文学科准教授。博士（教育学）。主な著書に『日本人英語学習者のためのタスクによるライティング評価法』（大学教育出版）、『パラグラフ・ライティング基礎演習』『ジャンル別パラグラフ・ライティング』（成美堂）、『ライティングで学ぶ英語プレゼンテーションの基礎』『英語で英語を教える授業ハンドブック』（南雲堂）などがある。

2) WI（Writing for information）やWP（Writing for presentations）の指導モデルのように、「理解の段階」におけるインプットから「発表の段階」のアウトプットに進むようなタスク配列を行うことが重要です。

3) 授業中には、実生活に関わりが深いライティングの課題に取り組ませ、その原稿を、例えばウェブサイト等で公表する機会を設けると発信力・自己表現力の育成に効果的です。

4) 文法規則等を例文から見つけ出させて、それを実際のライティングで活用させるようにします。

5) 例えばWIの指導モデルでは「メモ書き（note–taking）」などの方略を学ばせるようにします（後述）。

6) 特にWPの指導モデルにおいて、書き上げた原稿の発表練習を行い、全体で発表を行う活動を充実させることが重要です。

7) スピーチやディベート、ディスカッションでは、日常的な話題から時事問題や社会問題の中から、その問題解決について考えさせるようなトピックを選び、それに対する意見や考えを書いてまとめて発表や意見交換を行うと、ライティングによる発信力・自己表現力の育成に、より効果的であると考えられます。

メモの取り方・取らせ方の指導

Nunanの7つの提案の中で、発信力・自己表現力を高める指導の工夫として私が最も注目しているのが、学習ストラテジーの1つである「メモ書き」です。メモを取ることは、文字の省略形・図式・数字により、キーワードや中心概念を書き留めることで、書き留めたメモを参照することにより、情報を組織化する知的連鎖（mental link）の形成を促し、記憶や理解を促進します（O'Malley & Chamot, 1994；Chamot, Barnhardt, El-Dinary & Robbins, 1999）。リスニングを行いながら、必要な情報を書き留めておくために行うWIにおけるメモ書きのスキルは、グローバル時代において求められる英語学習の基礎として、発信力・自己表現力を高めるためにぜひ身に付けさせたいスキルです。

メモの取り方にはさまざまな種類がありますが、ここでは「T-Noteストラテジー」を紹介しましょう。メモの取らせ方の指導としては、下記のT listを活用して、左側（Main Idea）には聞き取りのポイントとなる「キーワード」のみを書くように指示し、右側（Supporting Details）にはキーワードについて詳しく記入するように指示をします。

T list

Main Idea	Supporting Details
（キーワードを記入）	（キーワードについて詳しく記入）

では、具体的な指導事例を見てみましょう。表①を活用してやり取りを行う場合、生徒は「好きなこと・物」について予想が立ち、聞き取った情報も指定された枠内に書き入れればよく、活動は行いやすいと考えられます。これに対して、表②では、左側に聞き取りのキーワードとなる「名前」を書き入れ、右側にはキーワードの説明として「好きなこと・物」に関する情報を自分なりに工夫してメモする必要があります。このように工夫しながらメモすることが、情報を組織化する知的連鎖の形成を促し、記憶や理解を促進し、「知識や得た情報を活用して、自分の意見や考えを外国語で形成・整理・再構築する力」の育成に大いに貢献すると考えられます。

表①

Name（名前）	Subject（好きな教科）	Color（好きな色）	Food（好きな食べ物）

表②

名前（キーワード）	好きなこと・物（キーワードの説明）

（『学習ストラテジーハンドブック』2006, p.140を参考に作表）

【参考文献】 Chamot, A., Barnhardt, S., El-Dinary, P., & Robbins, J. (1999). *The learner strategies handbook.* New York: Longman.
Nunan, D. (1990). *Designing tasks for the communicative classroom.* Cambridge University Press.
O'Malley, M. & Chamot, A. (1994). *Learning strategies in second language acquisition.* Cambridge University Press.
大学英語教育学会　学習ストラテジー研究会編（2006）『学習ストラテジーハンドブック』東京：大修館書店

新教育課程
に向けて

中学校編

表現力や発信力を高める授業づくり

〔連載〕第3回

「言語活動」を授業でどのように取り入れるか

信州大学 学術研究院 教育学系 教授　酒井 英樹

前回は、即興的な言語使用を促す指導の工夫として、「隙見せ法」と「Do-Learn-Do Again」を紹介しました。今回は、コミュニケーション能力を育成するために重要な「言語活動」を取り上げます。

「言語活動」の重要性

新学習指導要領では、外国語科の目標として、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次の通り育成することを目指す」（下線筆者）と示されています。また、「言語活動を通して、言語材料に関する知識・技能を活用して、思考力・判断力・表現力等を育成すること」（解説「外国語科」pp.51-52）とされています。つまり、「言語活動を通して、コミュニケーション能力を育成すること」が期待されているのです。そのためにはまず、「言語活動」とは何かを理解し、授業で取り入れることが重要です。

「言語活動」とは何か

「言語活動」とはどのようなものでしょうか。新学習指導要領では、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動」と「言語材料について理解したり練習したりするための指導」が区別されました。つまり、「音読、単語の発音練習、文型練習などの活動」は、生徒が英語を発していますが、考えや気持ちなどを伝え合っていませんので、言語活動ではないということになります。

Point!

言語活動とは
- ●実際に英語を使用する活動
- ●考えや気持ちを伝え合う活動

別の言い方をすると、言語活動であるか否かは、メッセージ（考えや気持ちを伝え合うこと）に焦点が当てられているか、もしくは言語形式（語彙、つづり、発音、文構造など）に焦点が当てられているかによるとも言えます。例えば、授業冒頭のあいさつの場面で、教師から生徒に“Good morning, class. How are you?”“How is the weather?”“What day is it today?”“What is the date today?”といった質問を投げ掛けることがあります。教師と生徒の間で、インタラクションが行われるのですが、天気の言い方や、曜日・月日の言い方を練習させるためにやり取りがされることがよくあります。ここでは生徒が“It's Wednesday.”というように、曜日を正しく答えられるかどうかに教師の意識が向けられており、“Good.”や“That's right.”といったフィードバックが行われがちです。この場合のあいさつのやり取りは「言語材料を理解したり練習したりするための指導」であると考えられます。

一方で、教師が天気や曜日・月日を本当に知りたくて生徒に尋ねていれば、それは「言語活動」として成り立っていると言えます。その際には、“What day is it today?”と尋ねる目的が明確となる

Hideki SAKAI

酒井 英樹（さかい・ひでき）

信州大学学術研究院教育学系教授。専門は英語教育、第二言語習得。主な著書に『小学校外国語活動　基本の「き」』（大修館書店）、『はじめての英語教育研究』（共著、研究社）、『新しい英語教育の展開』（共著、玉川大学出版部）、『小中連携を意識した中学校英語の改善』（共著、三省堂）、中学校検定教科書『NEW CROWN ENGLISH SERIES 1·2·3』（共著、三省堂）がある。中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会外国語ワーキンググループ及び言語能力の向上に関する特別チームの委員を務めた。

ような文脈があるはずです。例えば、教師が small talk のなかで、今晩視聴するつもりのテレビ番組について話しているとします。それを聞いた生徒が怪訝な顔をしているのを見て、“What day is it today? ”と尋ねるような場合です。生徒の“It’s Wednesday.”との答えに対して、教師は“Really? I thought it was Thursday. I’m going to watch the TV program tomorrow.”とコメントすることでしょう。この場合のsmall talk は、話すこと［やり取り］に関する「言語活動」に当たると考えられます。

皆さんが普段授業で行っている活動が、「言語活動」であるのか、「言語材料を理解したり練習したりするための指導」なのかを考え、少しでも、「言語活動」を増やすことができるように、授業改善に努めましょう。

授業でどのように取り入れるか

次に、日常的に授業で取り入れることのできる「言語活動」を2つ紹介します。

「言語活動」の例1
―Pair Talk―

既習の表現を総動員して自由にやり取りさせる活動を設定します。

工夫①
使用する文法を指定しないこと

自ら言いたいことを整理したり考えたりして、適切な表現を選ぶという過程が大切ですので、「will を使って会話をしてみよう」と、使用する言語材料を限定せず、トピックを指定するとよいでしょう。

- Please talk about your favorite sport in pairs.
- Please ask, “What sport do you like?” and keep talking.

工夫②
コミュニケーションを行う目的や場面、状況を提示すること

例えば、「帰宅中に友達と会った」や「学校の図書館で隣に座っている」といった場面や状況、「週末に一緒に遊ぶ約束をしよう」といった目的を提示するとよいでしょう。

外国語科における思考力・判断力・表現力の育成を促進します。

「言語活動」の例2
―テキストを読んだ感想を伝え合う活動―

テキストを読んだあと、ペアで感想を伝え合う活動を設定します。

工夫①
教師やALTがテキストの感想を英語で述べ、質問し合って見せること

生徒に英語を使わせる前に、教師自身も英語を使いたいものです。教師やALTの考えや気持ちなどを聞かせ、理解させる機会となります。役に立つ表現などは板書して見せてもよいでしょう。

- What do you think about this story / conversation?
- What do you think about ... (a character name)?
- If you were... (a character name), what would you do?

※新学習指導要領では、仮定法過去を扱うことができるようになります。

工夫②
Please talk about the text in pairs. という指示だけではなく、キーとなる質問を与えてから、ペア活動をさせること

次のような質問を与えてから、活動に取り組ませると、話を切り出しやすくなるでしょう。

- Do you like this story? Please ask each other.
- Which part of the story do you like the best? And why? Please talk about your favorite part.
- Ken is very kind because he helped the old woman. Do you think so too?

終わりに

今回は、コミュニケーション能力を育成するために重要な「言語活動」に焦点を当てて、言語活動の例を紹介しました。ご紹介した言語活動は目新しいものではないかもしれませんが、日常的に、また継続的に実施することが重要です。新学習指導要領で示された、聞くこと、読むこと、話すこと［やり取り］、話すこと［発表］、書くことの5つの領域について、さまざまな言語活動を取り入れて授業をつくっていきましょう。

新教育課程
に向けて

小学校編

外国語教科化における文字指導のあり方

〔連載〕第3回

外国語活動から外国語科へ 小学校から中学校への橋渡し

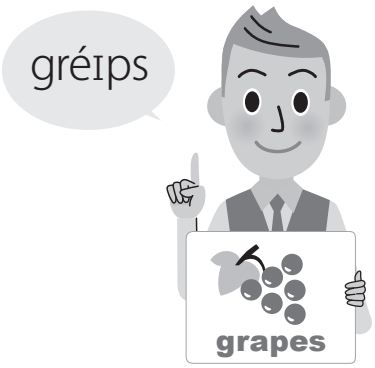
愛知県立大学 外国語学部 准教授　池田 周

外国語科における文字の扱いに関連し、新学習指導要領では、小学校で「音声と文字とを関連付けて」、さらに中学校では「発音と綴りとを関連付けて」指導することとされています。中学校への接続の観点から、小学校の文字指導では、どのような気付きを促し、何を、どのように定着させることをめざせばよいのでしょうか。文字の「名称」と「音」に焦点を当て、改めて整理したいと思います。

小学校の文字指導はどこまでめざすのか

新学習指導要領の中学校外国語科では、現行学習指導要領における「2 内容 (3) 言語材料」の「イ　文字及び符号」のうち「(ア) アルファベットの活字体の大文字及び小文字」の事項がなくなりました。そして、小学校外国語科における「2 内容〔知識及び技能〕」の「(1) 英語の特徴やきまりに関する事項」の「イ 文字及び符号」に「(ア) 活字体の大文字、小文字」として移りました。つまり、活字体の大文字・小文字について、小学校で「文字を見てどの文字かを識別する」「文字を見て読み方を発音する」「4線上に正確に書く」ことの定着をめざすということです。アルファベットの文字には「名称」と「音」がありますが、小学校外国語科における文字の「読み方」は「名称」のことを指すとされています。

それに先立ち、外国語活動では、「文字の読み方（名称）の発音を聞いて、それがどの文字かが分かるようにする」ことが「聞くこと」の領域の目標に含まれています。ここでの文字の扱い方は、単語の意味に気付かせる方法と同じです。例えば、児童に「ぶどう」の絵を示して /gréɪps/という発音を聞かせ、この音声が「ぶどう」を表すと理解させるように、大文字または小文字の活字体を見せ、名称の発音を聞かせることで、その文字と名称の対応に気付かせるようにします。その際、文字の名称をAから順に1つずつ機械的に覚えて、発音させることは適切ではありません。/síː/ という音声を聞いて、身近にあるアルファベットの文字の中から「C」や「c」を探す活動や、絵カードに添えたつづりに含まれる文字の数を言う活動などを通して、文字への興味・関心を高めておきます。これが、外国語科で改めて文字と出合い、その名称を発音し、4線上に書いてみる活動を通して定着を促すための素地となり、さらには中学校で文字の「導入」ではなく、「復習」から始めることができるのです。



Chika IKEDA

池田 周（いけだ・ちか）

愛知県立大学外国語学部准教授。英国ウォーリック大学博士課程修了。博士（英語教育・応用言語学）。小学校英語教育学会愛知支部理事、「愛知県義務教育問題研究協議会専門部会」委員、文部科学省「小学校の新たな外国語教育における補助教材の検証及び新教材の開発に関する検討委員会」委員などを務める。外国語としての英語リテラシー習得について、小・中・高等学校を通した指導のあり方、および国語科と外国語科の連携に関心を持つ。

なぜ外国語科で文字の「音」を扱うのか

外国語科の「読むこと」の領域の目標の1つに「イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする」ことがあります。これについて、『新小学校学習指導要領解説』では、同じく「読むこと」の言語活動のうち、「（ウ）日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動」および「（エ）音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動」を行う際に、文字を識別し、語句の意味を捉えるために文字の「音」の読み方が役立つと述べられています。そして、来年度からの先行実施に向けて文部科学省が開発する教材にも、高学年で「文字の音が分かり、発音する」ことを目標とした活動が含まれます。

小学校では、例えばtennisという語を見て、それぞれの文字の「名称」を発音できるようになることをめざしますが、つづりだけを見て /ténɪs/ と発音できることを意図してはいません。上の2つの活動では、tennisやLet's play tennis!などと記された掲示、パンフレット、絵本などには通常、それらが意味するものを表す写真やイラストなどの視覚情報があり、それらを見て児童が「もしかすると、このtennisは /ténɪs/ で、テニスのことではないか！」と気付くことを期待しています。その際、単にtennisのつづりを視覚イメージとしてぼんやり記憶していたというのではなく、tという文字の音の読み方が分かっていれば、tennisの初めの文字tを見て /t/ という音が浮かび、それが視覚情報とともに /ténɪs/ につながる助けになるということです。これが、小学校で文字の「音」を扱う目的です。

文字の「音」に気付かせる指導

音声で十分に慣れ親しみ、絵を見てそれが表す語を言えるようになっていれば、今度はつづりに意識を向けて「音」への気付きを促すことができます。例えば、ペンやペンギン、ピンク色の絵カードを見せながら、「pen, /p/, /p/, /p/, pen」「penguin, /p/, /p/, /p/, penguin」「pink, /p/, /p/, /p/, pink」のように語の初めの音（＝初頭音）を取り出して発音します。そして初頭音を発音しながら、カードに記されたつづりの最初の文字を指で囲んだり、文字カードを見せたりして、「/pí:/ という「名称」の文字には /p/ という「音」もある。penもpenguinもpinkも同じだ」と気付かせます。この時、「/p/, /en/, pen, /p/, /en/, pen」のように「語頭の子音（のまとまり）（＝onset（オンセット））」と「母音とそれに続く残りの部分（＝rime（ライム））」の間で区切って聞かせてもよいでしょう。日本語では子音が母音と結び付いて1つの音韻単位となりますが、英語では子音と母音の間で音が区切れることに気付くきっかけにもなります。英語ではrimeの部分で韻を踏みますので、pen, ten, men, hen, yen, thenのように初頭音を変えて語の音の響きを楽しむ活動にもつなげることができます。

さらにその気付きを、「apple, /a/, /a/, apple, bear, /b/, /b/, bear, ...」のような歌やチャンツを使って、楽しく音への慣れ親しみまで高めるとよいでしょう。しかし、文字だけを見ながらそれを音読みしたり、「名称」と「音」を交互に言ったりする活動は、記憶に頼る部分が大きいため負荷が高く、かつ機械的なものとなりがちです。小学校段階では、まず、繰り返し扱われる語や音声から、意味が分かる語の初頭音を取り出して発音してみる。そして、それは特定の文字が表す音だと分かる、という流れを大切にしながら「音」を導入しましょう。高学年児童の発達段階を考えると、文字の「音」を児童に発音させる時に、その「音」の出し方を明示的に説明すると効果的です。舌先の位置、唇の形などを具体的に表したり、有声音と無声音の違いを喉に手を当てて震えを感じるかどうかで確認させたりすると、日本語と英語の「音」の違いに対する意識も高まります。

「文字には『名称』に加えて『音』がある」ということが分かれば、児童は、どの文字にどのような「音」があるのか興味を持ち始めます。そしてこれが、文字のつながりである単語を自分で読んでみたい、音声で知っている語を文字で書いてみたい、という「意欲」となります。だからこそ、文字の「名称」に加えて「音」を導入する際には、混乱を招いたり苦手意識を引き起こしたりしないよう、丁寧かつ慎重に扱っていくことが重要です。

〔連載〕

全英連新潟大会に向けて

新潟大会 直前特集

小・中・高等学校の「合同研修会」を初開催。大会準備の進捗報告と意見交換の場に

全国英語教育研究団体連合会（全英連）は「第67回 全国英語教育研究大会（全英連新潟大会）」を、11月22、23日に新潟市内で開催する。大会を目前に控え、授業実演や分科会発表に臨む先生方をはじめ、実行委員会の先生方は準備に余念がない。6月に開催された「合同研修会」や、6月から7月にかけて実施された小・中・高等学校授業実演者による「公開研究授業」の様子を取材した。

小・中・高等学校の英語教育や指導の実態を知る

2017年6月上旬、新潟県立教育センターの大研修室には、新潟県内の小・中・高等学校の英語科教員や全英連新潟大会実行委員会のメンバーなどが多数集まった。新潟県では通常、新潟県高等学校教育研究会英語部会（高教研）、新潟県中学校教育研究会英語部会（中教研）、新潟県小学校教育研究会外国語活動部会（小教研）はそれぞれ個別に活動しているが、この日は全英連新潟大会に向けた「合同研修会」として、全ての研究会が一堂に会する場となった。新潟県としては初めてのことだという。

「合同研修会」開催の目的は2つある。それは「小・中・高等学校における英語教育や指導の実態を相互に理解すること」と「全英連新潟大会への理解を深めること」だ。研修会開催にあたり、高教研の萩野俊哉部長（県立新潟翠江高等学校長）は「全英連新潟大会については、全体のイメージをつかみ、実行委員会を中心とした準備の進捗状況を把握し、教員同士の情報交換や情報共有を進めてほしい。そして、現在抱えている不安や疑問を払拭してもらい、内容の濃い実りある研修会になることを願います」と述べた。

大会コンセプトへの理解を深め心を1つにつくり上げる

続いて、全英連新潟大会実行委員会を代表して、小野島惠次実行委員長（県立高田高等学校長）が、大会コンセプトと大会への期待を語る。「小・中・高等学校合同の研修会が開催されたことは、新潟県の英語教育の歴史上、初めてのことであり、意義深いものです。新潟県では郷土愛に基づくグローバル人材の育成を教育の柱としており、このたびの全英連新潟大会では、そうした私たちの取り組みを他県、そして世界へ発信していきたいと考えています。また、現行の学習指導要領に基づいて実践してきた英語教育を総括し、新学習指導要領を見据えた英語教育の『未来』へ向けて、メッセージを発信することができたらと願います。これが『新潟から世界へ！ 新潟から未来へ！』という大会コンセプトに込めた思いです」。小野島実行委員長がめざすのは「米どころ新潟」として、県内の先生一人一人の実践（米粒）を、ふっくらと握った大きな「おむすび」として大会を通じて結び付けていくことで、新潟らしさを示すことだという。そして「先生それぞれの実践や研究は、全て子供たちのためにあるものだと確信しています。そうした思いを皆で共有し、力を合わせて大会をつくり上げ、全国から来県いただく方々に共有していきたい」と強調した。

その後は、全英連新潟大会実行委員会の各担当より進捗報告があり、小・中・高等学校の授業実演者が現状報告および授業内容の説明を行った。さらに、小・中学校分科会発表者、授業実演者、高等学校分科会発表者のグループごとに会場を分けて、それぞれの進捗状況の報告と意見交換の場が設けられた。

「新潟から世界へ！ 新潟から未来へ！ ～交流・喜び・成長あふれる英語教育の推進～」

第1日　平成29年11月22日（水）　りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館（〒951-8132 新潟県新潟市中央区一番堀通町3-2）

第2日　平成29年11月23日（木・祝）　朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター（〒950-0078 新潟県新潟市中央区万代島6-1）

「全英連新潟大会」に関する詳細および参加申込は、大会ホームページ（http://admedic.jp/ngtenglish2017/）をご覧ください。申込締切は10月31日（火）となります。

高等学校授業実演

生徒が自己表現活動を楽しむ授業づくりと教師の役割

新潟県立新発田高等学校　根立 望 先生

大会当日の授業内容について

生徒が1日の大半を過ごす教室は、学び合う場です。授業は、対話を通して知らなかったことを知り、新たな発見に喜びを感じ、学びが深まる場であってほしいと思い、授業に向かっています。

授業を通じて私が示したいことは3つあります。それは、(1)生徒同士が自分の考えを生き生きと英語で述べ合う姿、(2)指導者の役割、(3)話す活動を中心とした授業です。当日は2年生の「コミュニケーション英語Ⅱ」の授業を実演します。4月から半年間、「意見の多様性」「クラスメイトとのやり取りを楽しむこと」「クラスメイトのために英語を使うこと」を繰り返し伝え、親和関係を築いてきました。生徒の発信力を伸ばすには、英語が苦手な生徒でも安心して活動することができるように配慮することが大切であり、私の役割は生徒の言葉を引き出し、つなぎ、伝え合う喜びを感じさせることだと思います。間違った表現や発音をさりげなく言い換えたり、発音を直したりしながら、正しい英語を身に付けさせるよう心掛けてきました。

本校では2年生のゴールを「地域・社会にある課題についても、自分に関係のある身近なことであると捉えて説得力のある意見を述べることができる」としています。当日は「人種差別」について、メモに基づきグループで話し合い、その内容を全体で共有します。論理的に意見を伝える、場面に応じた交渉を行い、クラスメイトの英語を聞いて自分の表現力を伸ばすことをめざします。「人種差別」についていかに問題意識を持たせ、自分に照らして考えることができるのかなど、今後、英語科の先生方と検討しながら生徒の意見に多様性が生まれる発問を決定します。実は、一緒に授業改善の勉強をしている教員仲間とも、教科書を読んで生徒に考えさせたいポイントが何であるかを話し合う機会も持ちました。

大会を控えた今、生徒たちの気持ちは「不安2割、期待8割」。生徒が私を信じてくれている、その気持ちを大切に、できるところまでがんばって当日を迎えたいと思います。授業では、時に私の予想を超えた意見も飛び出すかもしれません。しかし、それこそが真のコミュニケーションであり、面白さがあると思います。私たちは英語を使うことで、価値観の違う人ともつながり、未知のことに出会い、視野を広げることができます。多様な価値観の人々と協力しながら、社会の課題を解決するためにコミュニケーションをとることのできる力を育んでいきたいです。

公開研究授業

親和関係を基盤に、共に学び合う温かみある授業

6月下旬の公開研究授業では、「岡本太郎の生い立ちについて自分と照らし合わせ、自分の考えや気持ちを友達と話し合うこと」が主題に置かれた。生徒たちは、岡本太郎の作品の写真についてペアで説明し合い、根立先生とのインタラクションから内容理解を深め、「自分に影響を与えた人物」や「岡本太郎の体験についての考え」をグループで話し合った。メインの活動では、司会・発言者・質問者・コメンテーターの役割に応じた適切な英語を使い、自分の考えを相手に伝える。コメンテーターは「誰が、何を話していたのか」を要約して発表した。その後、「太郎が人生で心掛けてきたこと」を紹介し、生徒自身が大切にしたいことを1語で表し、Q&Aを通じて生徒の思考を深めた。根立先生は終始、笑顔で生徒たちを見守り、褒めることを忘れない。そして、生徒の発言からインタラクションで会話をつなぎ、自己表現力を高める指導をしていた。

中学校授業実演

やり取りを通して自分の考えを伝えることができる生徒の育成

新潟市立小針中学校　中川 久幸 先生

大会当日の授業内容について

中学校の新学習指導要領では、4技能のうち「話すこと」が〔発表〕と〔やり取り〕の2領域に分かれました。生徒たちがこれから生きていく社会では、多様な考えを尊重し、お互いの考えを双方向で伝え合う力が必要とされます。今回は、2年生のクラスで実演し、日常生活の多くの場面で行われる〔やり取り〕に焦点を当て、自分の考えを相手に伝えようとする意欲を引き出し、相手意識を持ちながら、堂々と自分の考えを相手に伝えることをめざしたいと考えています。

ウォームアップの帯活動は、質問に対して考えを整理するためのメモを取り、それを活用して自分の考えを伝え合うスピーキング活動を行います。活動後には相手の言ったことを確認するレポーティング活動を行い、伝達がしっかりなされたかを確認します。メインの活動では、新潟大学の留学生の「日本の中学生の夢についてインタビューしたい」という依頼に対して、ペアで留学生役と発表する生徒役に役割分担してスピーキング活動を行います。大会当日は生徒同士でやり取りをしますが、その次の授業では、実際に留学生からインタビューを受け、やり取りを行うため、それに備えて、より会話を広げ、深めることができるように練習します。パートナーを替えながらこの活動を繰り返し行うことで、クラスの仲間の夢について情報を集め、その情報を実際の留学生のインタビューに答えるための情報源にしたり、留学生がどのような質問をしてくるかをイメージしたりすることができるようにします。同時に、使用語彙や文法の幅を広げ、表現の正確さを向上させることも狙っています。

生徒たちは、今から大会当日を楽しみにしています。生徒ができる限り、のびのびと授業を受けられるように、スピーキング力を伸ばしていきたいと思います。中学校は小学校で慣れ親しんだ英語を嫌いにならないように引き上げ、高等学校へつないでいく役割を担っています。生徒たちには「英語を使って友達と話すことができて楽しかった」という経験を持たせたいですね。そして、即興性のあるやり取りを通じて、相手を配慮して、どのような言葉で伝えるか、相手によって伝え方が変わることを理解してもらいたいと思います。自分の考えを相手に伝えようとする意欲、英語をきちんと話せなくてもキーワードを述べる、誰かが何か言った時に答えるなど、そういった生徒たちのやり取りの様子をご覧いただくことができればうれしいです。

公開研究授業

即興性のあるやり取りを通じて自分の考えを伝える力を育む

7月中旬の公開研究授業では、まず、ALTのリード先生からのビデオレターがモニターに映し出された。中川先生は、リード先生の依頼の内容、質問の内容、いつインタビューをするのか、インタビュー時間の4点を聞き取るよう促した。「日本の中学生の余暇の過ごし方に興味がある」というリード先生から告げられたのは、「来週、一人1分間のインタビューを行う」ことだ。生徒たちは聞き取った内容をワークシートに記入した。そうして、「インタビューにしっかり答えられるように練習しよう」と目標が提示された。“What do you do in your free time?”の問いを受け、生徒たちは自分の考えをキーワードで書き、会話に備える。その後はリード先生役と生徒役になり、1分間のインタビュー練習を行った。最後にもう一度インタビューを行い、ボイスレコーダーに録音した音声を聞いて、改善点を話し合い、ワークシートに◎○△で記入した。

小学校授業実演

相手意識を持って やり取りする児童の育成

新潟市立上所小学校　村上 大樹 先生

大会当日の授業内容について

子供たちは「自分たちが新潟の代表として授業発表をするんだ」と喜び、現在は日々の授業への取り組みも意欲的です。全英連新潟大会がプラスに作用していることを、私も担任として喜んでいます。

大会当日は5年生の外国語活動の授業を実演します。「コミュニケーション能力の素地を育むこと」を目標とする外国語活動において、私は普段から、単にゲームをしたり歌を歌ったりして楽しかった、ということで終わらせず、友達とのコミュニケーションを通じて、相手のことが分かったという喜びや楽しさを感じられる授業をつくりたいと心掛けています。子供たちが毎回の授業のあとに記入する振り返りカードからも、「友達の良さを新たに発見できた」といったコメントが多く、英語を通じて人と関わることの楽しさを実感しているようです。だからこそ、「相手意識」を大切にしたコミュニケーション活動に取り組みたいと思います。小学生にとっての「相手」とは、身近な友達です。これが中学校、高等学校と成長していくなかで、次第に社会的なつながりが深まり、相手が広がっていくでしょう。

相手意識を持って、やり取りする児童を育成するためには、(1) 魅力的な題材の設定、(2) コミュニケーションを行う目的・場面・状況の明確化、(3) 相手のことを考えることの大切さを意識化させる工夫が必要だと思います。

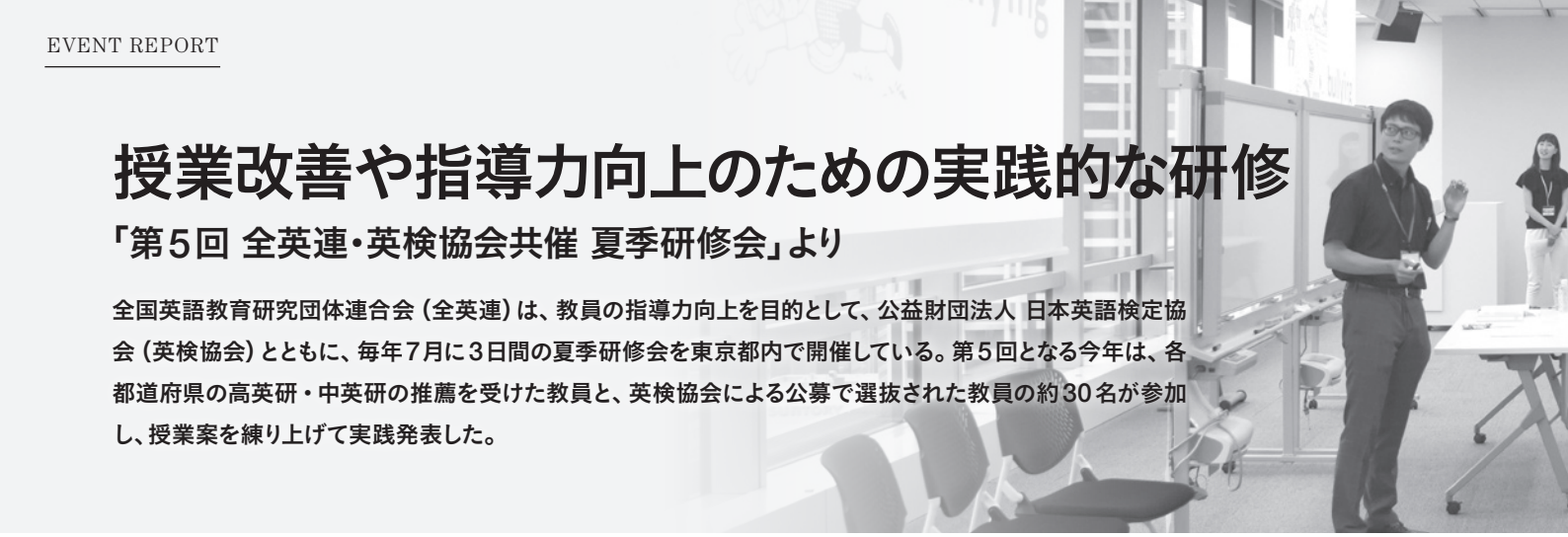
それには子供たちの発達段階に応じた題材や身近で親しみのある題材を設定し、相手の話を「聞きたい」、相手に「伝えたい」と思うような状況を意図的につくることが必要です。また、相手と上手にやり取りするために気を付けることを子供たちに考えさせ、相手のことを考えた行動ができたら褒めることも大切にしたいと思います。また、smile、clear voice、gesture、eye contactの重要さを子供たちに気付かせ、これらを意識しながらコミュニケーションを図ることができるようにしていきたいものです。

大会当日は子供たちのコミュニケーションにできるだけ自由度を持たせ、「個」が見えてくるような授業を実践できたらと思います。子供たちと一緒に、相手を意識したコミュニケーションを楽しむことのできる授業をつくり上げたいです。

公開研究授業

相手が喜ぶプレゼントを贈るための必然性あるやり取りを楽しむ

6月上旬の公開研究授業は、『Hi, friends! 2』Lesson 2 (When is your birthday?) の最終時が設定された。学習のねらいは「積極的に相手の好みや誕生日を尋ねたり答えたりしようとする」ことで、「誕生日や好きなものを尋ねて、相手が喜ぶプレゼントを贈ろう」というめあてが示された。授業冒頭では、子供たちが日頃から関わりのある水越先生の名前と好きなものが英語で書かれたカードが提示された。村上先生は子供たちに「水越先生は何がほしいのかな」と考えさせる。そして、水越先生に“Do you like sweets?”などと尋ねて、その応答から好みを探り、みんなで考えたプレゼントの絵をカードに描いた。その後、友達同士で同様に尋ねて好みを探り、カードを作成した。最後に“Happy Birthday!”“Thank you.”と言い合ってカードを渡し、コミュニケーションを楽しんだ。教室には子供たちの笑顔があふれていた。



授業改善や指導力向上のための実践的な研修

「第5回 全英連・英検協会共催 夏季研修会」より

全国英語教育研究団体連合会（全英連）は、教員の指導力向上を目的として、公益財団法人 日本英語検定協会（英検協会）とともに、毎年7月に3日間の夏季研修会を東京都内で開催している。第5回となる今年は、各都道府県の高英研・中英研の推薦を受けた教員と、英検協会による公募で選抜された教員の約30名が参加し、授業案を練り上げて実践発表した。

全英連　栃倉 和則 会長

英語科教員に今、求められる姿勢とは

中・高等学校の英語科教員を対象とする「夏季研修会」は、今年で5回目。毎回全国から参加者が集まる。その主な目的は「教員の指導力より向上させ、授業改善に役立てること」にある。

1日目は、全英連の栃倉和則会長が「3日間の研修を積んで、見いだしたものを各地へ持ち帰り、次へと続く先生方、生徒たちに還元していただきたい」とあいさつして、研修はスタートした。英検協会の戸田朋宏常務理事は、国が進める英語教育改革に則して、実用英語技能検定（英検）の4技能化やCSEスコア導入、CBT化といった3つの変革を進めていると紹介。続いて、英検協会教育事業部の塩崎修健部長が、「大学入試への外部試験活用の最新動向」について説明した。昨年度の大学入試では外部検定試験利用入試が増加し、英検およびTEAPの採用傾向が高いこと、TEAPの4技能受験者数が急増していることなどが伝えられた。

そして、研修の指針となる基調講演は、名古屋外国語大学の太田光春教授（前・文部科学省初等中等教育局視学官）が講師を務めた。演題は「コミュニケーション能力の育成を目指して〜自律した学習者を育てる〜」だ。太田教授は参加者に向けて、生徒主体の言語活動中心の授業へと転換している今、英語科教員が果たすべき役割は何か、と投げ掛けた。そして、「生徒が英語を使う機会が充実しているか」「明確な学習到達目標を設定したうえで、指導と評価を一体化することができているか」「学校を卒業してからも自ら求めて英語を学び続けようとする生徒を育てているか」などを、教員は自らに問いながら授業に臨むことの重要さを説いた。参加者たちは講演内容に深くうなずきながら、授業改善への意識を高めていた。

基調講演講師 名古屋外国語大学 太田 光春 教授

指導観を持ち寄り、授業案を作成

今回は、茨城県笠間市教育委員会の入之内昌徳指導主事と、明海大学の百瀬美帆准教授が講師として指導助言に当たった。講師から活動内容を確認したのち、2日目は終日、グループごとに授業案の作成に取り組んだ。研修で初めて出会った者同士が、互いの指導観を共有しながら一緒に授業案を作成するという活動を通じて、参加者は絆を深めていった。

「即興性のあるやり取り」を取り入れた授業提案をした中学校

最終日となる3日目はヤフー株式会社本社へと会場を移して実施した。

中学校は2年生の授業案を発表。新学習指導要領を見据えて英語で授業を行い、参加者全員が役割を持って臨んだ。「夏休みに東京観光をするにあたり、どこを訪れればよいのか」という外国人教師役の先生に対し、生徒が写真を提示しながらおすすめの場所を提案する活動に取り組む。授業は、①Greeting & Warm-up〜、②Teacher Talk〜、③Activity 1〜、④Activity 2〜、⑤Reflectionの流れで進行した。

①はペアワークだ。一人が “Where is your favorite place in Tokyo?” と質問し、もう一人が “My favorite place is ...” と答える。30秒間会話を続けたら、役割を交代して再挑戦。その後は一人が写真を見て、自分がいるその場所を描写し、相手がどこにいるのかを当てる。

②では外国人教師役の先生に「東京で何をしたいのか」を尋ね、「伝統や歴史に触れたい」「おいしいものを食べたい」といったリクエストを聞き出した。

③と④は、自分が選んだ場所について、ペアでホワイトボードに絵を描いて説明し、発表した内容をワークシートに書き込む。全体への共有の場面では、「両国で相撲を見て、江戸東京博物館を訪れ、スカイツリーの展望台に上り、夜景を見るプラン」などが発表された。

入之内指導主事は、「今回の授業提案は、できるだけ即興で話すことを意識した活動を取り入れた」と説明したうえで、「新学習指導要領では、話すことが［発表］と［やり取り］に分かれ、なかでも［やり取

り]は強化していくことが求められます。話したことを踏まえて書くというように、技能統合型の授業を行うことも意識して指導してほしいと思います」と講評した。

笠間市教育委員会 入之内 昌徳 指導主事

「制服か、私服か」をトピックに
ディベート活動を取り入れた高等学校

高等学校の発表は入学時の偏差値が中程度の高等学校を想定した授業だ。「コミュニケーション英語Ⅰ」の「School Uniform」をテーマとする単元で、全6時間中の5時間目にあたる。

授業冒頭で新出単語のリストとスライドを見ながら意味を確認したあとは、前時の復習。ペアで制服の肯定派と否定派に分かれ、それぞれの立場の先生が読むPart4本文を聞き、キーワードを3つ書き取る。さらに、各自が聞き取ったキーワードをもとにペアで報告し合い、教科書を開いて、4つ目のキーワードを拾い、先生から聞き取った内容が正しいかを確認した。その後はペアでのディベート活動だ。“Should we wear school uniform or our own clothes at school?”をトピックに、教

明海大学 百瀬 美帆 准教授

科書の内容を踏まえて、それぞれの立場の主張と理由をワークシートに書き込み、自分の立場を決めてペアで意見を述べ合った。

授業が終了すると「今回は、ペアでのディベートで授業が終了しましたが、最後に話し合った内容をまとめたり、自分の考えを書いたりする活動を入れると、よりまとまりのある授業展開になったと思います」と、百瀬准教授が講評した。そして、「高等学校の次期学習指導要領では『言語活動の高度化』が求められます。今日のようなディベート活動は中学生でも取り組むことができますので、ぜひ取り入れていただきたい言語活動の1つです。日々の授業に、ディベート的なものの見方・考え方で判断し、主張する力を高める活動を入れてみてください。その積み重ねによって、論理的な主張や反駁(はんばく)をすることができるようになるものです。また、授業ではライティングまでを含む4技能全てを使う言語活動をしていただきたいと思います。学習到達目標と指導、評価の一体化をめざすには、先生自身が変わらなければなりません。大学入試を言い訳にせず、まずはご自身のクラスから実践してみてください。生徒と教師、教師同士の親和関係を築き、チーム英語科として授業改善に取り組んでいきましょう」と呼び掛けた。

大いに刺激を受けた3日間

3日間の研修を終えて、公募によって兵庫県から参加した武庫川女子大学附属中学校・高等学校の中原知子先生は、「他府県、異校種の先生方の多様な指導観に触れることができました。これからは生徒を褒めることを意識し、英語を楽しんで自ら学ぼうとする生徒を育てたいと思います」と話した。

中原 知子 先生

高等学校の授業発表をした神奈川県立瀬谷西高等学校の小林彩佳先生は、高英研の推薦で参加した。「中学校の先生がスライド資料にイラストや写真などを活用して視覚的に理解を促していた手法は、生徒の学習意欲を高め、理解の助けにつながるので、取り入れたいと思います。生徒のためにという思いを胸に、校内の先生と協力体制で授業改善に臨もうと気持ちを新たにしました」と笑みを浮かべた。

小林 彩佳 先生

閉会行事で全英連の磯部篤前会長は「研修の成果を授業に生かし、今後もご自身の指導力向上に努めていただきたいと思います。全ては生徒のために。その思いを勤務校や地域の先生方へ伝えていってください」と述べた。そして、11月に開催される全英連新潟大会について告知し、現地での再会を促した。

全英連 磯部 篤 前会長

祝 国際応用言語学会（AILA）名誉会員称号授与

日本の英語教育のために、自己の最善を尽くしてきた

小池 生夫氏（慶應義塾大学名誉教授、明海大学名誉教授）

日本の英語教育や応用言語学界に長年にわたる功績を残してきた小池生夫氏（慶應義塾大学名誉教授・明海大学名誉教授）は2017年7月、ブラジル・リオデジャネイロで開催されたAILA（国際応用言語学会：International Association of Applied Linguistics）世界大会にて、アジアから初めて名誉会員の称号を授与された。小池氏が歩んできた道のりは、日本が戦後から現在に至るまでたどってきた英語教育史そのものでもある。公益財団法人日本英語検定協会とも関わりの長く深い小池氏の称号授与を祝して、今回の授与に至った経緯と、長年にわたり携わってきた英語教育への思いを伺った。

小池 生夫（こいけ・いくお）

言語学博士。慶應義塾大学名誉教授、明海大学名誉教授、大学英語教育学会（JACET）名誉会長。米国ジョージタウン大学大学院博士課程修了。Ph.D. 東京教育大学卒業後、ICU大学院教育学研究科英語教育方法学専攻修了、MA.、東京都立日比谷高等学校等の教諭を経て、慶應義塾大学にて30年にわたり教授職等、明海大学大学院応用言語学研究科の創設から12年にわたり教授職を務める。その間、一般社団法人大学英語教育学会（JACET）や一般財団法人英語教育協議会（ELEC）、国際応用言語学会（AILA）、Asia TEFL（アジア英語教育学会）などにおける国内外の学会活動をはじめ、文部科学省外国語教育関係諸委員長などを通して日本の英語教育改革に献身。主な著書に『Acquisition of Grammatical Structures and Relevant Verbal Strategies in a Second Language』（大修館書店）、『提言 日本の英語教育ーガラパゴスからの脱出』（光村図書）など。『第二言語習得研究に基づく最新の英語教育』（大修館書店）の監修、『応用言語学事典』（研究社）の編集主幹も務める。英語教育の道63年に及ぶ。

世界各国の応用言語学会が加盟する AILA（国際応用言語学会）名誉会員に

AILAは1964年にフランスで設立された各国の応用言語学会の連合会が発展した組織だ。原則として、1カ国1学術団体の加盟とされ、現在34カ国34団体がAffiliate Associationとして加盟し、その会員数はおよそ8,000名に上る。UNESCOの公認B級（会員1万以下）で外国語教育のアドバイザーを務めている。日本では、JACETが加盟している。1984年にブリュッセルで開催されたAILA世界大会の理事会で、その加盟が正式に認められた。

AILAが目標としているのは次の4点だ。

(1) 応用言語学分野への貢献
(2) 学術的知識と実践情報交換の促進
(3) 国際交流の活性化
(4) 途上国における応用言語学研究の支援

そして、これらを達成するために次の5つの活動を行っている。

(1) 国際大会の開催
(2) 研究ネットワーク設立の支援
(3) 学術雑誌とニューズレターの発行
(4) 目的・目標が近い他の学術団体との協力
(5) 国際大会時に途上国からの参加者への奨学金の支給

である。

小池氏がこのたび授与された名誉会員は、「1年に1名を選出する」との規定がある。これまでに登録された名誉会員は、創設以来53年のうち世界でわずか9名（うち故人3名）にすぎない。その選考基準は、(1) AILAへの貢献、(2) Affiliate Associationへの貢献、(3) 応用言語学分野での学術的貢献、(4) 地域の多様性と年齢への配慮、とされる。名誉会員の称号は3年に1回開催される世界大会において授与され、3年分の3名が選出される。小池氏は2016年5月の理事会で名誉会員3名のうちの1名として選出され、本年7月にブラジル・リオデジャネイロで開催された世界大会にて、その称号を授与された。これまでにアジアから名誉会員が選出されたことはなく、アジアで初めての授与となった。

このたびの称号授与について小池氏は、「まことに光栄であり、名誉なこと。JACETや日本の応用言語学界にとっても朗報」とし、「推薦していただいた皆さんには心からお礼を申し上げたい」と述べた。そして、授与に至った背景として、「16年にわたるAILA理事会でのさまざまな役職、さらに日本の応用言語学研究が国際的レベルに達しつつあるとの評価、特に、JACETが総力を挙げて1999年に東京・早稲田大学で開催した、AILA世界大会の運営および大会でのJACET会員の多くの発表などが、高く評価されたのではないか。2015年のJACET国際大会（鹿児島大会）の際にAILA理事会を開催したことも関係していると思う」と語る。

他者のこと、日本のこと、世界のことを第一に

応用言語学界において、小池氏の研究者としての長年にわたる功績が高く評価され、このたびの称号授与が実現したが、小池氏は「私自身は一私学の英語教員」とし、「自分のことより、他者のこと、日本のこと、世界のことを第一に考え、何とかしなければという思いで自己の最善を尽くしてきただけのこと」と言う。その半生をひもといてみよう。

高等学校の英語教員を父に持ちながらも、初めから英語教員になろうと考えてはいなかったという小池氏。幼少期からの夢は海軍士官になることだった。しかし、終戦を迎え、その夢は方向転換を余儀なくされる。進学したのは父の母校でもある東京教育大学（旧・東京高等師範学校、現・筑波大学）だった。

ちょうどその頃、戦後復興期の日本を明るくしようとの願いを込めて作られたNHKのラジオ英語会話講座の番組は、日本における英語ブームを生み出していた。「大学入学前は英語の読み・書きしかしたことがなかったので、大学入学後は聞く・話すことに苦労した」という小池氏は、当時、熱心にこの番組に耳を傾けていたことを懐かしそうに振り返る。

英語教員として、研究者として

大学卒業後は都立高等学校の英語科教員となった。6年間が過ぎ、定時制高等学校への転勤が決まると、日中は国

国の主な外国語教育施策↑

1967 文部省、5000人の教員の海外派遣事業に乗り出す
1968 第2回文部省英語教育改善調査研究協力者会議
1969 平泉・渡部論争（実用対教養）
1970 文部省英語教育指導者養成講座始まる
1971 中学校学習指導要領改訂告示。大学入試センター発足
1972 高等学校学習指導要領改訂告示、単位数の削減
1973 小学校ゆとり教育始まる（〜2010）
1974 中学英語週3時間体制。中学校ゆとり教育始まる（〜2011）
1975 高等学校ゆとり教育始まる（〜2014）
1976 中曽根内閣、臨時教育審議会発足
1977
1978
1979
1980
1981
1982
1983
1984

↓小池氏の活動

1967 慶應義塾大学経済学部専任講師。JACETに加入。代表幹事
1968
1969
1970
1971 「英語教育改善懇談会」創設を唱導しその実現に努め、ついに立ち上げるが、米国ジョージタウン大学にて講義、研究のために、開設の直前に出発する
1972
1973
1974
1975 留学より帰国、朝日新聞「論壇」において「私の提言」掲載される
1976 同講座の指導講師を務める
1977
1978
1979 ジョージタウン大学大学院言語学研究科応用言語学主専攻博士課程修了、Ph.D.、JACET賞受賞
1980
1981 慶應義塾大学教授、財団法人日本英語検定協会理事
1982 JACETに応用言語学会設立。英国・豪州の応用言語学会会長より国際応用言語学会（AILA）への加入勧誘を受けるも辞退
1983 再度勧誘を受け、入会を希望
1984 JACET副会長。同審議会でヒアリングに出席。国際社会に対応する英語教育の抜本的改革並びに小学校英語教育の検討を主張

際基督教大学大学院で英語教育学を専攻し、3年間かけて修了した。その後都立日比谷高等学校に転じ、教鞭をとっていたが、ある時、慶應義塾大学経済学部への話が出た。迷い悩んだ末に、その職務に就くことを決断し、以後30年にわたり、英語、応用言語学や英語教育法を専門とし、慶應義塾大学で教鞭を執ることになった。

その間慶應義塾大学での教師、研究者生活の傍ら、米国へ渡り、ジョージタウン大学大学院の博士課程で学び、自身も教員として日本語を教える機会を得る。応用言語学の分野でトップレベルの環境で学びながら感じたのは、「日本は応用言語学の分野では世界の片田舎にあり、しかも日本人はそれに気付いていないのではないか」という危機感だった。そして、「何とかして日本からも国際舞台で活躍できる人材を輩出したい。そのためにもまず自分がPh.Dを取らなければならないと決心した」と言う。その理由は「国際会議で活躍するには、Ph.Dを持っていることが前提となるから」だった。39歳で渡米してから8年ののち、小池氏はPh.Dを取得した。

その後、「日本の大学には、長い間、応用言語学の分野が存在していなかった。日本人がこの分野においても世界でものが言えるようになるためにも、研究拠点をつくらなければならない」と考えた小池氏は、新たな研究拠点となる明海大学の大学院設置に携わることになる。こうして1998年、言葉と人間行動に関する幅広い分野を扱う日本初の研究科として「応用言語学研究科」を立ち上げ、初代研究科長を務めた。

明海大学大学院での12年間は「応用言語学を日本で発展させたい。日本人が海外の人々と対等に活躍することができるような英語力やコミュニケーション能力を身に付けてほしい」との気持ちで研究と教育に従事してきたという。全ては「日本の英語教育のために貢献したい」との思いだった。

国内外での活躍が日本の英語教育を動かした

教員として学生の指導にあたる一方で、応用言語学の研究者として、1960年代から40年以上JACETに参加して活動してきた。そして、1991年からは第4代会長を10年間務めた。国内外の英語教育団体と提携しながら、文部科学省の外国語教育に関係するさまざまな会議等で座長を務めるなどして、日本における小学校の英語教育から大学の英語教育まで、さまざまな教育施策に携わり、改革の実現に努力を重ねてきた。

なかでも、小池氏が策定協力をした2002年の「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」は、コミュニケーション能力の育成を軸とした現行の学習指導要領に大きな影響をもたらしている。また、小学校における外国語活動の実施、大学入試センター試験へのリスニングテストの導入、2020年度からの大学入学者共通テストへのスピーキングテストの導入など、日本における英語教育の歴史が大きく動く後押しをしてきた。そして「2020年度からの新学習指導要領施行、これまで何十年にもわたって提言してきた思いがようやく実りつつある」と、感慨深そうに述べる。

国際学会との連携も積極的に行ってきた。まず、JACETがAILAへの加盟を認められたのは、1984年のAILA国際理事会での加盟希望の趣旨演説があったからにほかならない。実はAILA加盟にあたって、小池氏は英国・豪州の応用言語学会会長から勧誘を受けたが、当時のJACET会長が「日本の英語教育は日本人による、日本人のための、日本の英語教育が第一」であるとしたため、一度は勧誘を断った。しかし、翌年にも同様に豪州応用言語学会会長からAILAへの加入を促され、小池氏は理事会での賛成を得て、交渉を一手に引き受けて成立に努力した。そして、1984年、小池氏はAILA加盟国代表が一堂に会する理事会にて、日本の加盟希望の趣旨演説を行った。

「演説をした直後に、委員の一人から質問の手が挙がり、『JACETは大学英語教育の学会であり、日本を代表する応用言語学会ではないのではないか』と問われた。JACETが加盟できるかどうかは自分の発言にかかっていると、瞬間、極度の緊張感に襲われながらも、私

1985 文部省教育課程審議会開始
1985 AILA国際理事会で加盟希望趣旨演説 満場一致で加盟決定
1986 臨教審第2次教育改革案提出。英語教育政策転換、教養からコミュニケーションへ、学習開始年齢については先送り
1986 意見具申者として小学校英語の導入、外国語教育総合政策の設定を述べる
1987 JETプログラム開始
1988
1989 中・高学習指導要領改訂のための調査研究協力者会議。中・高学習指導要領告示。高校でコミュニケーション力養成提言
1989 わが国で初めてAILA副会長に選挙で就任（〜1991）。高等学校学習指導要領調査研究協力者会議主査。「コミュニケーション」能力養成、初めて打ち出す
1990 中・高学習指導要領改訂のための調査研究協力者会議。中・高学習指導要領告示。高校でコミュニケーション力養成提言
1990 大学審議会「大学教育の改善」答申、第3回調査研究協力者会議で小学校に英語授業実施提案、まずは実験から着手することになる
1991 第3回文部省外国語指導要領改訂のための調査研究協力者会議主査、第4代大学英語教育学会（JACET）会長（〜2001）。大学審議会ヒアリングで大学英語教育改革の意見具申者
1992 大阪市の公立小学校での英語教育実験初めて行われる
1992 文部省教育研究開発企画評価協力者会議委員。小学校英語実験指導。東京都生涯学習審議会委員
1993 第3回外国語教育改善の調査研究協力者会議にて38項目の総合政策答申（1991〜）。後の外国語教育改善政策の原型になる
1993 同協力者会議座長として大型総合政策及び小学校英語実験開始を提案し、まとめる
1994 国立及び私立大学大学院修士課程英語教育学専攻の設置（〜1999）。高等学校学習指導要領
1994 文部省大学設置審議会専門委員
1995 朝日新聞「論点」において「外国語教育、小学校でも」掲載される
1996 慶應義塾大学名誉教授。明海大学外国語学部教授。AILA副会長
1997 東京都教育委員会外国語教育改善懇談会。東京都生涯学習審議会
1997 同懇談会座長として都立高校入試にヒアリングテスト導入を提案、まとめる。同委員として意見具申
1998 文部省中央教育審議会答申
1998 明海大学大学院応用言語学研究科設置に携わり、初代研究科長就任（〜2008年まで教授、以後、名誉教授）、外国語学部長と兼任
1999 AILA第12回世界大会、東京で開催「アジア英語教育政策会議」開催、東京
1999 同副会長、同大会組織委員会委員長。アジア英語教育政策会議組織委員会委員長
2000
2001 JACET会長として、文部科学大臣に「英語教育改善のための要望」提出。JACET会長を退任し、特別顧問に。JACETより感謝状授与

は議長に発言を求めた。『どの国にも、その国独自の歴史がある。日本は戦後米国中心の対日占領政策のおかげで、英語教員は米国留学の機会に恵まれた。その際に米国で受けてきた教育は応用言語学そのものであり、それを持ち帰って研究を進めてきた教員たちが、JACETで活動している。日本の英語教育の歴史は応用言語学の歴史である』。議長の裁決に満場一致で加盟は認められた。感無量だった」と小池氏は当時に思いを馳せる。そして、こう続けた。「加入が認められた直後に一人の委員が私の前にやってきて『JACETの加盟を心から喜んでいる』と言って握手を求めた。私の演説に対して質問してきた人物だった。聞けば、その人物こそが、英国応用言語学会の会長だった」。そして二人は固く握手を交わしたのだという。

英語教育は人類社会への貢献につながる

小池氏はそれ以来、毎年のようにAILA理事会に出席し、各国代表と親交を温めてきた。そして、1986年まではInternational memberとして活動し、1987年から1990年までと1996年から1999年までは副会長を務めたほか、1993年から1996年までは理事会メンバーとして、16年間にわたりAILAの執行部での活動を続けてきた。1999年には第12回AILA世界大会を東京・早稲田大学で開催するに至り、大会組織委員長、JACET会長、AILA副会長として10年かけて重責を果たした。世界中からの参加者2,400名、決算額約1億2,000万円に及んだ。今も話し継がれる記録である。

「JACETにとっても、この世界大会は発展の契機となり、3年後にシンガポールで開催された世界大会では、日本の若い世代の研究者たち400名が学会発表に出掛けた。世界へ門戸を開くことで、若い世代の研究者たちが世界へ羽ばたいていくことができるチャンスが増える。自分が切り開いてきた世界への道を、こうして若い人たちが受け継いで、さらに開いてくれていることをうれしく思う」。小池氏は若い世代の研究者たちの成長を心から喜んでいる。

小池氏の世界での活躍は、AILAだけではなく、その後、Asia TEFLの設立や韓国、中国、台湾、シンガポールの関係団体との連携など、さらにアジア14カ国英語教育政策会議の開催などに及んでいく。

自身の経験を踏まえて、小池氏は「英語教育は人類社会への貢献につながる。ぜひ、教員の皆さんには道なき道を開き、閉ざされた門を開き、道を広げ、踏み固めて歩んでいってほしい。日本人は優秀な民族なのだから、小さな島国の中だけで納まっているのではもったいない。ぜひ世界へ出て行き、世界をよくしてほしい。困っている人に手を差し伸べてほしい。世界平和や人類の発展のために力を尽くしてほしい。そして、そのような思いを持つ人を育てていってほしい」と願っている。

そして、「私は英語教師として生徒や学生のため、日本の英語教育を通じてこれまで自分にできる最善を尽くし、己を生かし、人を生かし、世を生かし、他を尊重し、自己犠牲の心で仕事をしてきた。今の私があるのは、これまでに多くの人たちが手を貸してくれたからこそ。このたびのAILA名誉会員の称号授与は、自分が長年にわたって活動してきたことへの評価であり、大変名誉なことであると受け止めている。そして、AILAの名誉会員に日本人の名を刻むことができたことは、日本の若い世代の研究者たちにとって励みになるのではないかと思う」と力強く語った。

2002
- 文部科学省『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想』発表
- 同構想懇談会委員、原案作成協力者、千葉県教育委員会SELHi指導助言委員長

2003
- 左記の「行動計画」発表、SELHiスタート、大学入試センター試験にリスニングテスト導入決まる。学校教育、週完全5日制実施。学習内容、時間ともに3割減
- 大学入試センター試験に初めてリスニングテスト実施。PISA2003で国際数学、理科教育テスト結果ダウン。海外留学者数ピーク、以降ダウン
- JACET賞学術賞受賞。AsiaTEFL（アジア英語教育学会）副会長

2004
- 海外留学者数ピーク、以降ダウン
- 朝日新聞「私の視点」において「小学校からの一貫教育を」掲載される

2005

2006
- 中教審外国語専門部会小学校5年からの必修化を決める
- AsiaTEFL国際学会第4回大会組織委員会委員長、福岡市で開催

2007
- PISA2006の結果さらに成績低下
- 明海大学名誉教授、同客員教授（～2009）。科学研究費補助金研究報告書「第二言語習得研究を基盤とする小、中、高、大の連携をはかる英語教育の先導的基礎研究」基盤研究A、研究成果報告書、研究代表者小池生夫ほか23名。英語教育政策策定にCEFR導入の基礎となった大型研究

2008
- 学習指導要領改訂。脱ゆとり教育に転換する方針。授業時間数増
- 明海大学名誉教授、同客員教授（～2009）。科学研究費補助金研究報告書「第二言語習得研究を基盤とする小、中、高、大の連携をはかる英語教育の先導的基礎研究」基盤研究A、研究成果報告書、研究代表者小池生夫ほか23名。英語教育政策策定にCEFR導入の基礎となった大型研究

2009
- 小学校5、6年に「外国語活動」導入。「英語ノート」配布。教員免許更新制導入。9月衆院選挙で政権交代、民主党鳩山内閣誕生
- 福田内閣教育再生懇談会英語教育問題とアリング参考人

2010
- 公立高校無償化。PISA2009の結果が反転。上向く。小学校脱ゆとり教育
- 財団法人日本英語検定協会英語教育研究センター常任審議委員、財団法人英語教育協議会（ELEC）理事長（～2013）

2011
- 小学英語5、6年に外国語活動週1時間　東日本大震災発生
- 瑞宝中綬章授与

2012
- 文部科学省「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」発表。中学校脱ゆとり教育。
- The Distinguished Alumni of the Year Award、国際基督教大学同窓会、JACET名誉会長

2013
- 文部科学省「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」発表、CAN-DOテストでの学習到達目標設定の手引き
- 「Hi, Friends!」が各小学校に外国語活動補助教材として配布。内閣グローバル人材育成推進会議。衆院選で政権交代、自民党第2次安倍内閣誕生
- 東京都教育委員会英語教育戦略会議委員

2014
- 文部科学省「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」発表、CAN-DOテストでの学習到達目標設定の手引き
- 高等学校脱ゆとり教育
- （英語教育関係相談役、講演、研究発表、著書執筆、諸学会活動など）

2015
- 文部科学省「グローバル化に対応した英語教育改革の5つの提言」発表。高等学校脱ゆとり教育

2016

2017
- 小・中学習指導要領改訂。小学英語3、4年を「外国語活動」、5、6年生を教科化、中学「週4時間、教科化」
- Honorary Member of AILA、栄誉賞、公益法人日本英語検定協会、Outstanding Service Award, Asia TEFL　他

2018
- 高等学校学習指導要領改訂予定

スーパーグローバルハイスクール（SGH）

Super Global High

第13回　名城大学附属高等学校

アンケートの客観的な分析結果による カリキュラム改善が高い評価につながる

名城大学附属高等学校は、国際クラスやスーパーサイエンスクラスなど２学科８系列のクラスを有し、多様な生徒たちを受け入れている。文部科学省による中間評価では、アンケートを詳細に分析し、PDCAサイクルに落とし込んで活用している点が高く評価された。同校はSGH活動をより高め、生徒の「5つのスキルと5つのマインドセット（5S 5M）」を成長させている。

SGHの「課題探究」はゼミ形式で行われ、先生の指導を受けながら、各自の研究課題を掘り下げる。

「5S 5M」に着目

名城大学附属高等学校では、普通科・国際クラス全員と、一般進学クラスの文系生徒を中心にSGH活動を実施している。国際クラスは2003年、名城大学に人間学部が新設された時、高校入学から大学卒業まで7カ年一貫教育をめざして誕生した。現在は一貫教育ではなくなっているが、国際クラスは当初から探究学習に注力していた。そのため「普段行っている学習活動が、SGHの目的にそのまま合致する」ことからSGHに応募し、採択された。国際クラスの目標は最初から「5つのスキルと5つのマインドセット（5S 5M）」に設定され、SGHの活動目標にも適用されている。

●5つのスキルと5つのマインドセット

・5つのスキル（5S）

①論理的・批判的思考力
②ICT活用力
③コミュニケーション力・コラボレーション力
④行動力・発進力
⑤課題発見力・課題解決力

・5つのマインドセット（5M）

①アイデンティティを確立する意思
②多様性を認め共感する気持ち
③批判・摩擦・失敗を恐れない意思
④変化に対応する意思
⑤リーダーシップを発揮しようとする意思

生徒の多くは、真面目で素直だが、もう一歩を踏み出せない傾向にあった。そこで、先生たちは「自ら一歩を踏み出せる人間を育成する」と目標を定め、それこそが「グローバル・シチズン（国際市民）」育成につながるという認識を共有した。その育成に必要な要素が「5S 5M」だった。

学年や全校で多くの取り組みを実行

同校では、副校長など6名からなるSGH実行委員会がSGHの事業を推進させる役割を担っている。そして、13名の教員が所属する教育開発部がSGHとSSHを所管し、実行委員会の審議事項を基にSGH活動や海外研修のセッティング、データ分析などを行う。さらに教科担当や国際クラス担任などとの協力体制を築いている。

SGHの取り組みとして、1年次は「多文化共生」「探究基礎」の授業で探究活動の基礎を学び、ニュージーランドで企業見学や大学の授業に参加するなど、視野を広げる活動を行う。2年次は探究学習を深め、台湾やインドネシアで実地調査を行い、研究論文を書き上げる。3年次は研究をさらに掘り下げ、論文をブラッシュアップし、研究発表大会出場やSGH指定校が集まるフォーラムへの参加など外部へのアクションにつなげている。

全校での取り組みとして、内外の活動をポイント化して可視化するシステム「グローバルパスポート」、名古屋市長や大学教授など多彩な講師を招き対話する「グローバルサロン」、そして、国際的に活躍する識者の講演を聞く「グローバルリー

教育開発部副部長（SGH担当）、SGH実行委員会副委員長の羽石優子先生

2年生から各自が決めた研究課題を掘り下げ、仲間とディスカッションしながら精度の高い論文を作成する。

School

正解のないグローバルな課題を解決する手だてを考えられる人を育てる

ダー講座」が実施されている。国際クラスの生徒はこれらへの参加率も高く、終了後も、講師と積極的なコミュニケーションを図っている。

PDCAサイクルの確立による高い評価

2016年9月、同校は文部科学省の中間評価において、「優れた取組状況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、更なる発展が期待される」という4校のうちの1校に選ばれた。高い評価を得た理由は、「大学教員の助言を得て作成したスーパーグローバルテスト（SGT）」という生徒へのアンケートと、それを基に「パフォーマンス評価（ルーブリック評価）」という分析を行い、「5S 5M」の育成をめざして、カリキュラム改善に役立てている点にある。つまり、「計画→実行→評価→改善」のPDCAサイクルがしっかりと回っていることが高く評価されたのだ。

SGTの作成にあたっては、さまざまな専門性を持つ大学の先生たちから助言をもらい、5S 5Mをできるだけ明確に分析できるよう、因子に合わせて質問を設定したという。特に当初は“一歩前に踏み出せない”というマインドの部分が気になっていたため、マインドセットの変化も重視している。

SGTは、全学年4月と2月に毎年行い、年度内および経年での5S 5Mの自己評価の変化を捉える。そのなかで、「その評価に作用した取り組みは何か」、「なぜその評価を選択したのか」についても、リフレクションシートに具体的な経験を踏まえて記載させることによって、メタ認知能力を高める仕組みとなるよう模索している。

また、母集団によって変化の違いがある場合には、「違いの背景には何があるか」、前年は作用していたのに今年はあまり作用しなかったものが出現した場合には、「前年と何を変えたのか、変わっているのか」についても確認し、5S 5Mが伸長するようにと、分析結果の反映を繰り返している。

生徒の変容ぶりの共有

担当する先生たちが手応えとして感じているのは、SGTの実施により生徒たちのメタ認知能力が向上しており、それが5S 5Mの伸長につながっている様子が見受けられることだと言う。加えて、教育開発部副部長（SGH担当）で、SGH実行委員会副委員長の羽石優子先生は「従来、私たちが経験と感覚で捉えてきたものを、数値としても捉えることで、目の前の生徒はもちろん、他の生徒や未来の生徒に対しても、どのように指導していくかについて考えるようになったこと、また、教員間で情報を共有しやすくなったこともSGTの効果だと思います」と語る。

中間評価に対しては、「本校は特別なことを行っているわけではなく、アンケート等はどの学校でも行っておられることだと思います」としたうえで、「『この生徒のここが弱いな』と思ったら、それを掘り下げてみたり、他の生徒たちにとってはどうなのかを確認したりしつつ、フォローをしていく、その繰り返しです。その時にSGTなどのデータを基にすることで、これまでとは違ったものも見えてきました。どのような変化をどのように捉えるのか、アンケートをさらに精査していく必要を感じています」と言う。

社会との連携を深めていきたい

同校では、社会との連携を通して、高校時代から社会の一員としての当事者意識と社会的責任を持てるような仕組みを作ることで、キャリア形成にもつなげたいとする。

「まだ大学1年生になったばかりなのに、めあての教授の研究室を何度も訪問するうちに『今度、学会においで』と誘われたという卒業生がいます。また、別の卒業生は、国際関連のNPOに通ってインターンの交渉をし、受け入れてもらえたそうです。受け身の学生生活ではなく、挑戦する意欲を持って一歩を踏み出していることがうれしいです」と、笑顔を見せる羽石先生。今後も、研究課題である「愛知県産業を基盤としたグローバル課題の探究」を通じて、協働・共生の問題や社会貢献の問題などをさまざまな機関と連携して研究を進めたいと語る。将来的には、「いろいろな国の高校生と共同で研究したり、県の伝統産業の継承や海外展開の際に何らかの形でお手伝いができたりするとよいですね。そのために、現在外部とのつながりの強化に努めています」と、SGH活動のさらなる広がりに思いを馳せた。

3年生の「課題探究」授業。一人一人が成果を発表し、先生や仲間の意見を求めていく。

3年生の「課題探究」授業。それぞれの研究結果をお互いに批評し合い、より高めていく。

連載

「学習到達目標と指導、

第3回

定期テストをどのように作り、パフォーマンステストをいかに取り入れるか

良いテストを作るために重要な要素とは？

テストを作成（パフォーマンステストも含む）する際、よりよいテストにするために重要な要素となるのが、(1) 妥当性、(2) 信頼性、(3) 実用性の3つです。

(1) 妥当性(validity)

妥当性とは、教師がテストで測りたいと思う力を測っているか、使用目的に合っているかです。分かりやすい例を挙げると、体重（測りたい能力）を測る時に体重計（測りたい能力を測るテスト）を使っているか、ということです。当たり前のようですが、英語のテストとなるとそう簡単ではありません。CAN-DOリストで4技能の能力を育成することを目標にしながらも、テストでは、リーディングとリスニングの問題が中心になったりしてはいないでしょうか。CAN-DOリストの学習到達目標とテスト内容が一致していなかったり、測るべき能力を直接測っていなかったりする場合、妥当性は低くなります。

(2) 信頼性 (reliability)

信頼性とは、採点者や受験者がテストを受けた状況にかかわらず、テストの得点が一貫しているかどうかです。例えば、ライティングのテストにおいて、初めのころは厳しく採点していたのに、疲れてくるとだんだん甘い採点になるような場合、信頼性の高いテストとは言えません。また、テストを受ける環境が、信頼性に影響を与える場合もあります。遠足など行事の翌日にテストがある場合、疲れのために生徒が本来の力を出すことができずテストの信頼性が低くなることがあります。テストを受ける環境にも注意しましょう。

(3) 実用性(practicality)

時間や労力、費用などの面で、テストの実施や、採点がしやすいかどうかが実用性です。妥当性や信頼性を高めるために、テストの時間が長くなったり、採点の負担が過度に大きくなったりすると、実用性は低くなってしまいます。

これら3つの要素は、1つを高めると別の要素が低くなる関係にあります。例えば、一般的に問題数を多くすれば、信頼性は高まりますが、一方でテスト時間や採点時間は長くなり、実用性は低くなります。つまり、テストでは高い次元で妥当性、信頼性、実用性のバランスが取れていることが大切です。さらに、テストの要素のなかでも、特に大切な要素は妥当性だと言われています。いかにテストの結果が一貫していても、実用性が高くても、測るべき能力を測っていなければ良いテストにならないからです。

テストの設計図を作る

CAN-DOリストを評価と一体化させるための具体的な方法として、テスト細目(test specification)があります。これは、簡単に言うと「テストの設計図」のようなもので、このテスト細目に、テストの目的や構成などを書き出します。以下は、中学2年生の定期考査におけるテスト細目の例です。

[テスト細目例]（小泉, 2014, p.62より）
☆テスト目的：定期考査で到達度を測る
☆対象者：中2
☆テスト範囲：1〜20ページ
☆構成:大問1〜4は筆記（50分）。記述と選択式。
大問5は実技で別時間実施

大問と配点	測る力：到達目標
問1 20点（10題各2点）	聞く力：遅めではっきりと話した短い会話を聞いて、概要と詳細を理解できる
問2 20点（10題各2点）	語彙・文法知識：重要語句が単独で書ける。文法規則に沿った正しい文が選べる
問3 20点（10題各2点）	読む力:簡単な英文を読み、概要と詳細を理解できる
問4 20点（2題各10点）	書く力：身近な内容を簡単な英語で書くことができる
問5 20点（5題各4点）	話す力：身近な内容を簡単な英語で話すことができる

評価の一体化」を目指して

前回は、「CAN-DOリスト」を作成し、どのように活用すべきかを検討しました。
CAN-DOリストの活用にあたっては、評価との一体化が重要です。
そこで今回は、パフォーマンステストを含むより良いテストの作り方について、
テストの３つの重要な要素から具体的に考えてみます。

さらに、大問ごとに①問題数と出題の意図、②留意点、③準備物（リスニングの際のCDプレーヤーなど）、④採点方法、⑤設問例などをまとめます。

このようなテスト細目に基づいたテストを作成することにより、「CAN-DOリストと授業、評価を一体化」させていくことが可能となります。また、事前に測る技能と測定方法を明確にすることで、テストの妥当性を向上させ、測る技能のバランスを取ることができるのです。

パフォーマンステストの導入

コミュニケーション活動を重視する現行の学習指導要領に基づく授業では、スピーキングやライティングなどのパフォーマンステストは不可欠です。一方、パフォーマンステストの実施に際しては、時間や労力面での負担の軽減や、十分な信頼性の確保が求められます。パフォーマンステストの導入にあたっては、シラバスにあらかじめ入れ、無理のない予定にすることや、英語教員間でノウハウの共有を行うなど負担の軽減に努めます。また、信頼性の確保のために、評価にルーブリックやポートフォリオを活用するとよいでしょう。

(1) ルーブリックを用いた評価

パフォーマンステストにおける評価は、主に主観的な評価となります。そのため、信頼性のある一貫した評価になっているのか、教員はしばしば不安になるものです。ルーブリックには、以下の例のように、評価と、それに対する評価のポイントが表としてまとめられていますので、主観的になりがちなパフォーマンステストの評価を、より客観的にすることが可能です。

[ルーブリック例]
(NIER, 2012, pp. 46- 47を基に作成)

評価	評価のポイント
A: 十分満足できる	文法・語法等の誤りが少なく、多様な表現を用いて適切に内容を伝えることができている。
B: おおむね満足できる	文法・語法等の誤りはあるが、自分の将来に対する希望や今すべきことについて、おおよその内容を伝えることができている。
C: 努力を要する	「おおむね満足できる(B)」まで到達していない。

注. 下線部は筆者が加筆

(2) ポートフォリオを用いた評価

ポートフォリオとは、もともと書類入れのことで、生徒の作成した作品などを収集し、評価する方法です。この評価方法で大切なことは、①明確な評価目的の設定、②タスクの設定、③評価基準の作成、を事前に行うことです。それに基づき生徒の作品を定期的に収集し、評価します。特に、作品を集めやすいライティングに適した評価方法と言うことができます。

パフォーマンステストは信頼性や実用性の面から、ともすると躊躇されがちですが、上述したような評価方法を活用しながら、まずはできるところから始めてみましょう。

【引用文献】小泉利恵.(2014).「テストの作成方法」.『英語教育』.第63巻第1号(4月号), P.62-63, 大修館書店.
文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター(NIER).(2012).『評価基準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料：高等学校外国語』.教育出版.

深澤 真（ふかざわ・まこと）
琉球大学 教育学部 准教授。茨城県生まれ。中央大学文学部卒業。米国Saint Michael's College大学院修士課程、筑波大学大学院修士課程修了。茨城県立竹園高等学校教諭、茨城大学人文学部 准教授を経て、2015年より現職。専門は主に英語教育学・評価論。

〔連載〕第3回

英語初学者にとっての英語

英検4級・5級で広がる英語の世界

英検の効果的な活用方法 ～4級・5級とはどのような試験か

2020年度から小学校の高学年では教科としての「外国語科」が実施されるようになります。「4技能を扱う」という点で、これまでの「外国語活動」と異なるので、5、6年生の担任になるのを不安に思う小学校の先生は少なからずいらっしゃるかもしれません。そのような先生方に、ご活用いただきたいのが、実用英語技能検定（英検）の4級・5級の過去問です。外国語活動の授業で使うクラスルームイングリッシュや、"Hi, friends!"に出てくる食べ物、数、曜日、買い物、時間、教科などについての英語のやり取りも、目白押しです。もし、児童がすらすらと回答することができれば、小学校で扱う英語に慣れ親しんでいるといえるでしょう。先生にとっては、このような"ちょっとした安心感"は大切です。今回は英検4級・5級に焦点を当てて、その効果的な活用法を探りつつ、「外国語科」を指導するツボを押さえましょう。

英検5級ではどのような問題が出るのですか？

英検には、英語力のレベルを測るという本来の目的があります。一次試験では、リーディングとリスニングの技能を測ることができます。5級のリスニングは25問中20問が絵を見て答える形式ですから、英語の音声に慣れ親しんでいる小学生なら、8割の回答ができるでしょう。一方、リーディングは、会話文や短文における語句の空所補充、あるいは並べ替えの形式で出題され、それによって文法力、語彙力が試されているわけです。リーディングというと長文問題を頭に浮かべるかもしれませんが、5級に長文問題はありません。とはいえ、短文であれ会話文であれ、書かれたものを読まなければ空所補充や並べ替えをすることができません。つまり、これらもリーディングの技能と見なされるのです。現在の高学年の児童は、単語の読み書きは扱っていませんから、英語の読み書きを特別に習っていない限り回答することが難しいでしょう。しかし今後、「外国語科」を学習する児童にとっては、どうなるでしょうか。

「外国語科」で読む活動をすれば、チャレンジも可能になります。

新学習指導要領での「読むこと」の目標は「ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする」と「イ 音声で十分に親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする」です。「言語活動及び言語の働きに関する事項」についてみると、読むことは、「（ウ）日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動」、「（エ）音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別する活動」などが挙げられています。

文部科学省が作成中の「外国語科」の教科書を見ると、単元の最後に「STORY TIME」というページが組まれ、そこに絵とそれに合う英文が載せられています。授業では、読ませたい単語や表現を拾って読ませたり、音声に合わせて文字のなぞり読みをしたり、音読をしたりしていくことになるでしょう。あるいは、そのページに限らず、単語を提示する際に絵カードを使って発音の練習をしますが、絵カードに添えられた単語のつづりにも意識を向けさせて単語に十分に慣れてきたら、つづりと絵のマッチングの活動をすることも考えられます。そのような活動の積み重ねで、児童は英単語や文を読めるようになっていくのです。「外国語科」で、このような読む活動が入ってくると、英検5級は小学生の手の届く範疇になります。英検5級のレベルは、「中学初級程度」とされ、小学生には容易とは言えないかもしれません。しかし、チャレンジすることも可能ということです。

自然なインプットが多いほど、身に付けた英語力を発揮できます。

では、英検４級はどうでしょうか。５級と同じく、リーディングとリスニングに分かれ、それぞれ試験時間は少し長くなりますが、扱われる話題や場面は５級とかなり重なっています。リーディングには短いパッセージを読んで答えるという長文問題が出題されます。長文問題が入ることで、ずいぶんレベルアップした印象を持つかもしれません。実際に４級のレベルは「中学中級程度」とされ、中学校で扱う文法事項もかなり含まれます。しかし、音声のやり取りに慣れ親しんでいる小学生は、英語が場面とともにセットでインプットされているので、会話の答えにgreenが入っていたら、その質問としては、“What color? ”が頭に浮かんでくるのです。あるいは、語のコロケーション（連結）が身に付いていて、“I had a good time today. ”が自然に出てくるならば、その文の変形のa hard time に対しても推測が働いて、動詞の空所補充でhadを選ぶことができるかもしれません。天気を聞くときは、授業の最初で“How’s the weather today? ”を毎回聞いているので、何の迷いもなくその語順が出てくるでしょう。この場合の疑問詞はwhatかな、それともhow ?という迷いはないはずです。文法や語彙の知識はあまりなくても、小学校での場面に合わせた自然なインプットが多ければ、身に付いた英語力が自然と発揮される可能性があるのです。

大切なのは、インプットを増やし、教え込まないことです。

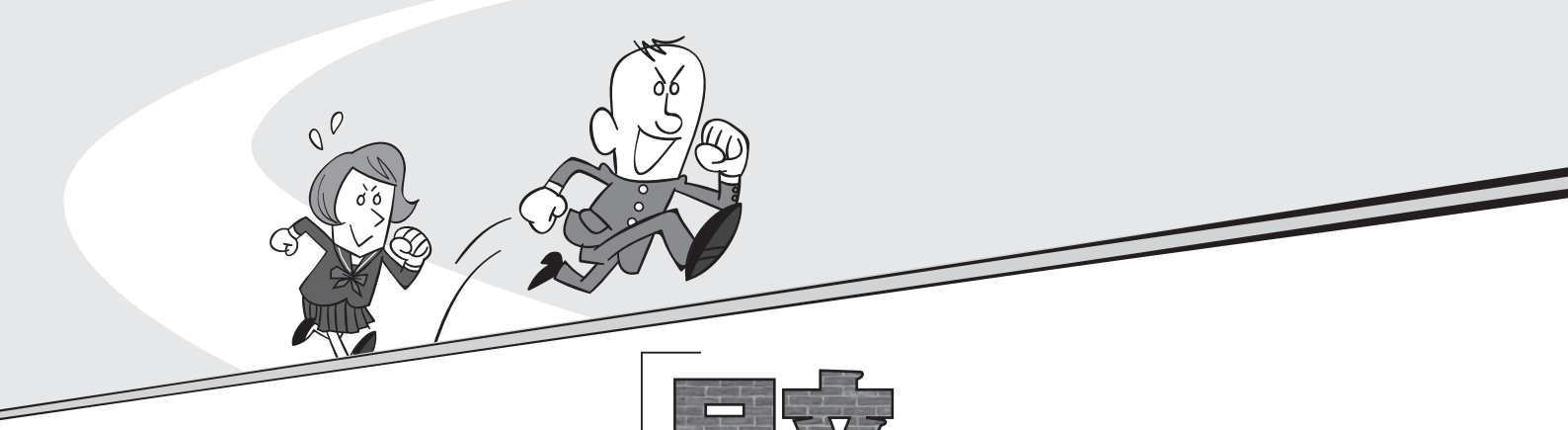
第二言語習得論では、「場面に合わせた自然なインプット」を重視します。小学校の先生方は、クラスルームイングリッシュをできるだけ多く使い、ALTとティーム・ティーチングをするときは、英語でのやり取りをたっぷり児童に聞かせ、絵本の読み聞かせをするなどして、インプット量を増やすよう心掛けてほしいと思います。これは「外国語科」も「外国語活動」も共通の指導のツボです。「外国語科」においては、中学年の外国語活動での既習語を含む600〜700語を扱い、代名詞の３人称heやshe、過去形なども出てきます。指導の内容はこれまでよりも増えます。ただし、文および文構造については「日本語と英語の語順の違い等に気付かせるとともに、基本的な表現として意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れること」とありますから、小学校の先生方は文法を教えなくては、とあまり気負わないでほしいと思います。また、指導の留意点として「文法の用語や用法の指導に偏ることがないよう配慮して」とも書かれています。教え込みは厳禁です。

英検合格で、さらなる学習意欲が導かれます。

英検４級・５級の合否は、一次試験のみで決まりますが、2016年度からスピーキングテストが導入されています。級の認定とは別に「スピーキングテスト合格」の判定を行うのです。例えば５級では、３文程度の英文が書かれた絵カードを見て、黙読と音読を行い、その英文についての質問と、関連した話題を受験者自身について尋ねる質問がされます。対人による面接ではなくコンピュータで行う試験ですが、自分の英語が通じるかどうかを判定されることは、児童にとっては大きなチャレンジとなります。合格したら達成の喜びとともに、「次の級もがんばるぞ！」という英語学習への動機付けになります。英語をマスターするには「学習のやる気を持ち続け、学習を継続して行うこと」が何より大切なのです。

川上 典子（かわかみ・のりこ）

鹿児島純心女子大学 国際人間学部 教授。専門は応用言語学、英語教育。2001年度より小学校英語活動に関わる。小学校英語関連の授業科目としては「児童英語」「児童英語演習」「児童英語教育実習」「教材開発演習」等を担当し、外国語活動を指導できる人材育成に取り組んでいる。小学校教員向け小学校英語セミナーを毎年開いている。



〔連載〕

英検2級の「壁」を超えるための授業実践

第３回：「目的」を意識し、「失敗」を回避する

「目的」を意識しなければ実現できない

前回は、「目的と手段」という観点から、「どのように日々の授業をデザインすべきか」について考えました。今回は、「目的」の設定の大切さと、教員によくある「失敗」について考えます。

授業の「大目的」は、学習指導要領・外国語の「目標」としてうたわれている「コミュニケーション能力の育成」です。しかし、その「大目的」が時に「スローガン」になっていないでしょうか？ もしくは、大目的達成のための「小目的」が、大目的にすり替わっていることはないでしょうか？ 教員も生徒も「ゴール」をクリアに見据え、常に「目的」を確認してこそ、その目的は実現されるのです。

評価できる「目的」を設定することの大切さ

「目的」は、さまざまなタイミングで「評価」され、その評価に合わせて、手段の「検証」が行われます。そこで、まずは評価され得る「目的」を設定する必要があります。ところが、「目的」が「スローガン」になってしまうと、評価が曖昧になってしまい、手段を見直すことができなくなってしまいます。これが１つ目の「失敗」です。

例えば、「がんばる」ことを「目的」に設定してしまうと、「スローガン」としては有効であっても、客観的な評価をすることは難しくなります。また、「～を学ぶ」ことも同じで、やはり評価をすることができません。「目的」が曖昧になってしまうと、PDCAサイクルも有効に機能することがないのです。そこで、「目的」を達成できたかを検証しやすい、CAN-DOのような「目的」を設定し、評価をするべきなのです。

「目的」の混乱が起きていないか

資格試験やセンター試験、定期テストなどのさまざまな「テスト」は、「大目的」達成のための「小目的」として設定されることが多いでしょう。しかし、生徒や教員は、この小目的を「大目的」と混同していることが少なくありません。これが２つ目の「失敗」です。

これはつまり、コミュニケーション能力を身に付けるという「大目的」を達成するために学んだ知識やスキルを、「小目的」である「テスト」で評価し、コミュニケーション能力を身に付けるための学習活動を否定してはならないということです。授業をコミュニケーション活動中心にすると、テストの点が落ちてしまうから実践しない、ということなど、完全に本末転倒です。

文法や単語の学習にも同じことがいえます。文法や単語を身に付けるという「小目的」が、コミュニケーション能力を身に付けるという「大目的」よりも上位の目的になることはあり得ません。テストのための対策や、コミュニケーションにつながらない文法学習が、生徒を「大目的」の達成へと導くことはないのです。

「目的」の達成には「時間を投資する」こと

授業をデザインする際には、「効率」が気になるものですが、それにこだわりすぎて、時に「目的」を見失っていませんか。これが3つ目の「失敗」です。

「凪いだ海は良い船乗りを育てない」という言葉があるように、コミュニケーション能力は、分からないことを「分かろう」と努力すること、伝わらないことを「伝えよう」と工夫することによって養われます。効率を求めるあまり、生徒に苦労させる時間を割かずに答えを与えることは、生徒から学ぶ機会を奪ってしまうことになります。「目的」の達成を意識するなら、しっかりと「時間を投資する」べきでしょう。生徒が、質問に答えられずにもがき苦しむ時間も、苦労しながら紙の辞書を引く時間も、一見、非効率のようですが、生徒にとっては大いに価値のある時間なのです。

生徒が「語彙」の壁を超えるために教員がすべきこと

生徒が英検2級の「壁」を超えるためのサポートをする際にも、教員は自分が目的に合った教え方をしているかについて検証する必要があります。英検2級の「壁」の1つである「語彙」を例に考えてみましょう。

英検2級では、未知の単語や表現に触れる量が大幅に増え、「語彙力」が問われます。リーディング・リスニングに関していえば、合格のカギとなるのは「文法」ではなく「語彙力」ではないでしょうか。ここでいう「語彙力」とは、「単語の意味を知っている」ということだけではなく、「コンテクストからその言葉の意味や役割を推測できる力」もまた意味します。例えば、to＋不定詞が何であるかを分からなくても英検1級に合格する生徒はいますが、語彙力がなければ合格することは難しいでしょう。生徒が自律的に語彙力を付けていくようになるために、生徒の学びの伴走者である教員は、授業で何をすべきでしょうか？

V-log　　Name (　　)

Source	Word/Expression	Page	Definition/Example
		p	
		p	
		p	
		p	
		p	
		p	
		p	
		p	
		p	
		p	
		p	
		p	
		p	
		p	
		p	
		p	

4つ目の「失敗」として挙げられるのは、教員が生徒の手を取り、力を貸してしまうことです。教員は、生徒が自ら学ぶことができるように仕掛けをするべきでしょう。つまり、生徒が自ら学ぶべき単語や表現を選ぶように導くことが必要なのです。単語帳による学習を否定はしませんが、英語の授業が英語で行われるようになり、生徒の英語でのコミュニケーションの機会が飛躍的に増加した現在、教員は、生徒がコミュニケーション活動を通じて単語や表現を学ぶことを教えるべきではないでしょうか。私の授業では右上のような、生徒が自分で覚えるべきだと思った単語や表現を簡易に書きとどめておく「V-log (Vocabulary log)」を与え、生徒はそれに書き込んだ単語や表現を、さらに自分の単語帳にまとめるように指導しています。この方法により、生徒たちは自らの学びをpersonalizeすることができます。また、実際のコミュニケーションから学びがスタートするので、コンテクストを伴って単語や表現の意味や役割を学ぶことができるのです。英検2級の「壁」を超えるためには、生徒自身も自分の学びを客観視できるようになる必要があります。

このように、教員も生徒も、常に「目的」を意識することで、さまざまな「失敗」を回避することができるのです。

「壁」を超える言葉

Study to be messy.

これは“The Complete Angler”『釣魚大全』で有名なイギリスの随筆家 アイザック・ウォルトンの言葉“Study to be quiet.”「静かなることを学べ」を私がアレンジしたものです。「学び」にはProductive Messinessが必要です。

木村 純一郎（きむら・じゅんいちろう）

北海道札幌国際情報高等学校 教諭。北海道足寄町出身。東洋大学文学部英米文学科卒業。1992年～93年にかけ文部省海外教育施設日本語教員派遣事業（REXプログラム 第3期）に参加。カナダ・アルバータ州カルガリーのWilliam Aberhart High Schoolに勤務。2002年度より北海道札幌国際情報高等学校に勤務。全国高校英語ディベート連盟（HEnDA）北海道ブロック代表。北海道高等学校文化連盟国際交流専門部専門委員長。

TEAP 2017年度第1回志願者数が急増!

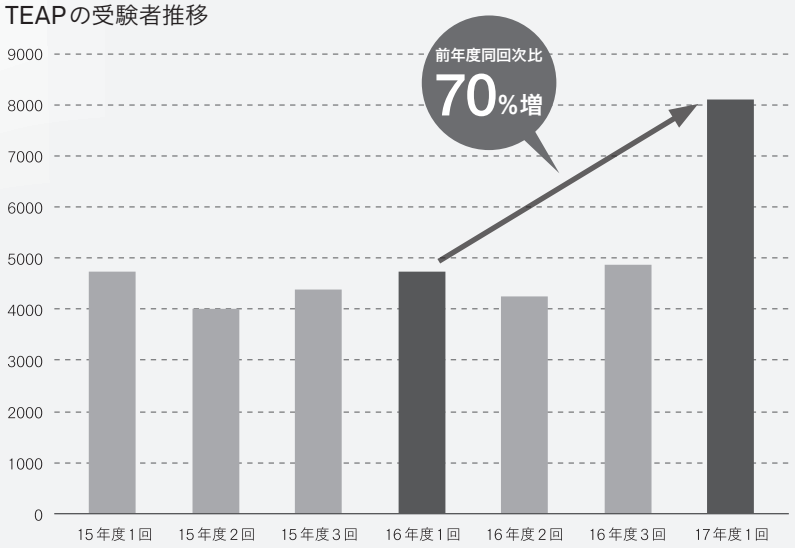
外部検定試験利用入試を採用する大学が広がり、4技能を測定する英語資格・検定試験への注目が高まっている。公益財団法人日本英語検定協会（英検協会）が実施した2017年度のTEAP第1回試験では、志願者数が前年度を大幅に上回った。

2017年度第1回志願者数は前年度比170%

2017年度のTEAP第1回志願者数は8,099名にのぼり、前年度比170%となった。また、10月1日実施の第2回の志願者数も堅調に推移しており、受験地域「東京（神奈川・千葉・埼玉含む）」については、日程を2回に分けて10月15日に追加日程として実施するに至った。

4技能での志願者数が急増しているが、その背景には、私立大学を中心とする大学入試での外部検定試験利用入試の広がりがある。2017年度入試においては、各大学が4技能を測る資格・検定試験を採用し、4技能の合計スコアだけでなく、技能ごとのスコアの合否基準を設けるなどの傾向が見られた。また、2020年度から現行の大学入試センター試験に替わる「大学入学共通テスト」においても、英語の試験は4技能を評価することが示されたことにより、4技能試験への注目度は高まっている。

TEAPの受験者推移

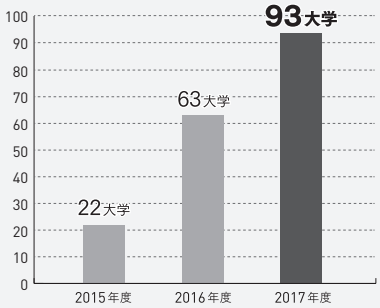


TEAP採用大学も大幅に増加

TEAPは運営開始から4年目を迎え、高等学校の学習指導要領に配慮し、アカデミックな場面で求められる英語4技能を測定する試験として、高等学校の教員や高校生、保護者への認知が広がった。また、試験内容の品質と試験運営のセキュリティ面での好評価を得て、信頼性が高まっている。

2018年度入試に向けて、90大学以上がTEAPを採用しており、2015年度の22大学から大幅に増加した。2017年度入試から「一般入試（英語4技能テスト利用型）」を導入した早稲田大学では、文化構想学部で70名、文学部で50名という大枠の定員を設け、その志願者数は文化構想学部543名、文学部368名にのぼり、そのうち、実用英語技能検定（英検）とTEAPでの志願者数が9割程度占めたという。

TEAP採用大学数



「TEAP団体専用クーポン利用型申込」による受験も可能に

TEAP志願者増に伴い、英検協会では2017年度からは「TEAP団体専用クーポン利用型申込」による受験を開始した。これは、受験の申し込みは受験者個人がTEAPウェブサイトから各自で個別に登録を行い、受験料を学校（団体）が支払うという方式だ。学校経費や公費助成などを利用した支払いが可能であり、受験者が直接支払手続きをせずに受験することができる。受験に際しては、一般の申し込みと同じ全国12都市（札幌・仙台・埼玉・千葉・東京・神奈川・金沢・静岡・名古屋・大阪・広島・福岡）の公開会場で受験する。

「TEAP団体専用クーポン利用型申込」に関するお問い合わせは、英検協会TEAP運営事務局（TEL.03-3266-6556）へ。希望に応じて、団体責任者および生徒向け説明会も実施している。なお、P.48〜51では、TEAPを活用する高等学校の事例を紹介する。

「団体専用クーポン利用型申込」の手順

①英検協会宛に「団体受験申請書」を送付（試験実施3〜4カ月前）

②英検協会にて申請内容の確認後、「団体受験受け入れ」をご案内

③「団体受験受け入れ校専用クーポンコード（以下クーポンコード）」の発行。英検協会より団体へ伝達（試験実施9〜10週前）

④団体にてクーポンコードを受験希望者に周知

⑤申込受付期間中に、受験者各自でTEAPウェブサイトより、クーポンコードを利用して受験申込手続き

TEAP活用事例 第11回：学習院大学

GAKUSHUIN UNIVERSITY

TEAP等の受験自体にも価値を見出し各種入試で4技能試験を導入

学習院大学国際社会科学部は、2016年4月開設時の1期生入学試験より、TEAPをはじめとする外部の英語資格・検定試験を一部の入試で採用した。「国際ビジネスの第一線で活躍できる人材を育成する」との学部の使命を果たすべく、入学生には英語4技能をバランスよく身に付けていることを求めているのだ。国際社会科学部の入江恵教授に、TEAPなどの英語資格・検定試験を導入した意図や、入学後の教育についてお伺いした。

学習院大学 国際社会科学部 入江 恵 教授

1期生の入試から採用し換算方式で英語力を認める

国際社会科学部は、学習院大学で52年ぶりの新学部として、2016年春に創設された。1期生の入試では英語2技能だったが、最初からTEAPをはじめとする英語資格・検定試験を一部の入試で採用した。2017年度入試の2期生からは、一般入試でTEAPなどの英語資格・検定試験を活用し、4技能試験の採用へとシフトしている。入江恵教授は、学部創設時から入試にTEAPなどの英語資格・検定試験を導入したことについて、「新学部では、専門科目を英語で受講することになるので、入試で英語を使う力があるかどうかを測りたいからです」と、その意図を説明する。加えて、「高校の授業外で4技能試験を受験していること自体にも意義があると思っています。なぜなら、スピーキングやライティングの力は高校の授業だけではなかなか伸びないものだと考えています。ですから、TEAPなどの英語資格・検定試験を受験しながら自分の英語力を伸ばそうとしている姿勢、英語学習に対する意欲も評価しています」と述べた。

同学部の一般入試プラス試験では、独自の点数換算表によってTEAPなど英語資格・検定試験のスコアを換算する方式をとっている。入江教授は「基準点方式を採用すると、高い英語力がある受験生と、ギリギリで基準点を超えた受験生の差がなくなってしまいます。確かに、複数の外部検定試験を換算するのは難しいのですが、高い英語力を有する人にアドバンテージを与えたいと思い、教授陣で討議して決めました」と話す。

「CLIL」や「ブリッジ科目」はグローバル人材を育成する鍵

そのような入試を経て入学した学生は、この学部だけの特色豊かなカリキュラムによって“国際的なビジネスの第一線で活躍できる人”へと成長していく。1年次は英語4技能を高め、専門的な社会科学を学ぶための基礎科目などを履修する。そして、3、4年次より英語による高度な社会科学の専門科目を履修するため、同学部で大きな特徴といえる「CLIL（クリル）」や「ブリッジ科目」が2年次に設置されている。

CLILは約20名の英語クラスで、専門科目に関する語彙や内容を繰り返し使いながら学ぶことで、高度な専門性にも対応する英語力を高める学び方だ。ブリッジ科目は、英語科目と専門科目の間の橋渡しをする役割を持つ。例えば、初めて英語で専門科目を学ぶ2年次の1学期には、同様のテーマを扱う英語科目を設け、両科目の理解をサポートしていく。「英語の授業と専門科目の授業が、だんだん近づいてくる学び方だと思います」と話す入江教授。これらの特徴的なカリキュラムは、4技能試験を利用して入学した学生たちを、より高みへと導いていくはずだ。

学習院という基盤のもとで新しいことに挑戦していく

学習院大学という長い歴史を誇る大学に、国際社会科学部が開設されたことについて、入江教授は「学習院というしっかりとした、安心感のある基盤があったからこそ、新しい学部や特徴あるカリキュラムを設置でき、初年度からTEAPなどの英語資格・検定試験を入試に採用できたと思っています」と振り返る。そして、「“国際的に活躍できるビジネスパーソンを育成する”というビジョンを実現するために創設した学部ですから、それが現実になるように学生とともに進んでいきたい」と、熱く語った。

東京都立立川国際中等教育学校

6年一貫の国際理解教育として TEAPにも挑戦し、進路を広げる

「国際社会に貢献できるリーダーとなるために必要な学業を修め、人格を陶冶する」を教育目標とする東京都立立川国際中等教育学校。2015年度には国際理解教育推進に重点的に取り組む学校として、東京都の「東京グローバル10」の指定を受けた。5年生でのTEAP団体受験を含み、卒業時までに実用英語技能検定（英検）準1級取得をめざす同校ではどのような取り組みがあるのだろうか。

（左）校長 信岡 新吾 先生　（右）副校長 宮田 明子 先生

国際人を育成するためのさまざまな機会を提供

都立立川国際中等教育学校は、1〜3年生の前期課程と、4〜6年生の後期課程による6年間の中高一貫教育を行っている。前期課程のうちに基礎学力の定着を図り、高等学校相当の学習内容を発展的に学習し、5年生までは全ての生徒が幅広く高度な教養を身に付ける。英語の授業は習熟度別少人数制で行い、日本人教員と5人の外国人講師でのティーム・ティーチングにより実践的なコミュニケーション能力を磨く。英語科の佐藤茜先生は「授業はペアやグループワークでの4技能統合型の活動が中心です。生徒はプレゼンテーション、多読活動などにも積極的に取り組んでいます。英語を使うことができたという成功体験を通じて学習意欲も向上するようです」と話す。

英語科　佐藤 茜 先生

国際理解教育も盛んで、毎年、各国からの留学生との交流会、国際機関で働く人々の講演会などを行うほか、長・短期留学生の受け入れ、東京都の「次世代リーダー育成道場」での留学を経験した生徒による報告の場も用意している。

2016年度にはオーストラリア・クイーンズランド州の高校2校と姉妹校提携を結んだ。宮田明子副校長によれば、2017年度より5年生は海外研修旅行で両校を訪ねて生徒間交流を深め、今後は相互訪問による交流へと発展させていく予定だという。ほかにも、前期課程でのイングリッシュサマーセミナーや英語発表会、2年生のブリティッシュヒルズでの英語合宿、3、4年生での米国エンパワーメントプログラムなど、英語を学び、活用し、深く考えることにつながる行事が数多い。

5年生でTEAPに挑戦することの意味

同校では生徒の英語力を客観的に測るため、各学年で英検の取得目標級を設定し、卒業時までの準1級取得をめざす。年間を通じて受験を促しているが、年に2回は準会場として校内で試験を実施し、生徒は積極的に受験しているという。信岡新吾校長は「近年、英語力の高い生徒は外部検定試験利用入試への意識も高まっています。卒業時の目標としている準1級を取得していれば、外部検定試験利用入試にも対応できます」と話す。

2016年度からは高大接続改革を見据えて、5年生がTEAPの団体受験をしている。「東京グローバル10」指定校における「外部検定試験による英語力調査」として、東京都が団体受験料を補助する制度で、同校はTEAPを採用したのだ。

「5年生のうちにTEAPに挑戦し、テストの感触をつかんでおくことが重要」と考える信岡校長。「外部検定利用入試での受験を判断する基準になり、その受験結果を踏まえ、6年生で必要に応じて個人でTEAPを受験して必要なスコアを取得し、大学入試に臨むことができます」と5年生での受験の意味を語った。

同校の生徒の多くは海外志向や英語への興味・関心が高い。「TEAP受験は本校の国際理解教育の取り組みの一環。生徒が自ら道を切り開くきっかけにつながる」と、信岡校長は述べた。

生徒の英語4技能の力を把握するため、TEAPの団体受験料を東京都が補助

東京都教育委員会は、2013年度に「東京都英語教育戦略会議」を設置し、「グローバル人材育成に向けた英語教育を推進するための中長期的な方向性及び具体的方策」について検討した。2016年9月にはその検討結果を『東京都英語教育戦略会議報告書』として発表し、28の提言が示された。そのなかで2016年度より開始したのが、「東京グローバル10」指定10校と「英語教育推進校」指定40校の計50校に対し、4技能を測定する外部の資格・検

TEAP Test of English for Academic Purposes
活用事例のご紹介
公立学校編

東京都立新宿高等学校

授業で英語を使う経験を大切にし TEAPで実力を知り、入試にも活用する

東京都の「進学指導特別推進校」として進学指導の充実を図り、進路選択に主体的に取り組み、志を持って高い目標を設定する生徒を育成することをめざす東京都立新宿高等学校。2016年度には「英語教育推進校」の指定も受け、都教育委員会の受験料補助によって高校3年生のTEAP団体受験を実施している。英語4技能の指導に重点を置いた英語教育にTEAPを活用した事例を紹介する。

英語科　割栢 健太 先生

第1回試験を高校3年生全員で申し込む

「英語教育推進校」である都立新宿高等学校は、東京都教育委員会の「外部検定試験による生徒の英語力調査」事業で、都から受験料の補助を受けてTEAPを団体受験している。英語科の割栢健太先生は「TEAPは学習指導要領に基づき、大学入試や大学での英語使用場面を想定しており、4技能を測ることができる信頼性の高いテストです。文系の生徒にとっては、私立大学受験パターンの幅が広がるというメリットもあります」と述べた。

同校で受験するのは3年生全員だ。今年度は第1回試験を受験。第2回試験では入試に利用しづらく、受験勉強に集中したいという生徒の声も考慮した。第1回試験であれば、スコアを入試に活用することもでき、結果が振るわなければ私費で第2回を受験することもできる。

試験直前には授業でライティングとスピーキングの指導を行い、ライティングはTEAP公開見本問題のTask AとBを用いた。Task Aでは、200語文から70語文のサマリーを書くことに20分間で取り組ませ、その書き方を解説した。試験時間全体に対して、このタスクに配分できる時間は20分であることを意識させるためだ。Task Bは、事前に英文と図表に目を通し、40分程度で解答させた。スピーキングはペアで会話をする時間を設け、相手に分かりやすく自分の考えを伝え、短文で主張する練習をした。

割栢先生は「高校3年生は、新しい事項を学ぶ段階ではなく、身に付けてきた英語を活用して実践する段階。いかに英語を使わせ、実力を上げていくかが大切です。センター試験はどの生徒も受験しますので、TEAPのリスニングテストで50分間集中力を切らさずに聞き続け、解答できる力が付けば、センター試験でのリスニング30分間は短く感じられるはずです。TEAPを大学入試で利用しなくても、センター試験の予行演習として受験するよう指導しました」と語った。

英語を「使う」経験をできるだけさせたい

こうした指導は、単にTEAPで高得点を取るための対策ではない。TEAPの公開見本問題を使用しながらも、授業で行った指導は、日頃から取り組んでいる4技能をバランスよく身に付ける言語活動に通じる。「コミュニケーション英語」では、1年次からALTやJETの指導のもと、ペアワークやフリートーキング・ライティング、プレゼンテーションを取り入れ、技能統合型の授業を行っている。「英語表現」の授業では、家庭学習の一環として、自分の意見を英語で書いて提出させている。また、定期試験でも100語文のパッセージを読んで要約する問題を出題している。

「文章をまとまりで捉えていく力を養い、読んだり聞いたりした内容について意見を『書く』経験をさせています」と言う割栢先生。「生徒には使って意味のある英語を学んでほしい。受験英語がまったく役に立たないとは言いませんが、英語を使うべき場面でまったく使うことができないのはさみしいですよね。今、私たちはどこにいても、英語に触れることができます。聞こえてくるのはネイティブの英語とは限りません。だからこそ、物おじせずに、積極的に英語を発する人であってほしいものです」と熱く語った。

定試験の団体受験料を東京都の予算から補助する事業だ。どの試験を受験するかは各校が選択するが、2016年度は立川国際中等教育学校と新宿高等学校を含む6校がTEAPを受験した。この事業は、生徒が自身の英語力を客観的に認識するとともに、教員は受験した生徒の成績データを管理・分析して指導に役立てることを目的としている。また、教員が受験する外部の資格・検定試験に対しても補助しており、教員自身が試験を受験することで、その後の指導や授業改善に生かしてほしいといったねらいがある。

TEAP Test of English for Academic Purposes
活用事例のご紹介
私立学校編

大宮開成高等学校

独自の「TEAPプロジェクト」で志望大学への合格実績を押し上げる

大宮開成高等学校では、もともと上智大学志望者が多かったことから、2015年度入試より上智大学で「TEAP利用型入試」が導入されたのを機に、TEAP受験指導に取り組んできた。翌年には、独自の受験対策講座「TEAPプロジェクト」をスタート。生徒たちは一丸となって英語力を磨き、確実に実績を挙げている。プロジェクトを推進する先生方に、TEAP受験のメリットと指導について伺った。

(左)英語科 小林 佑樹 先生(一貫部主任・進路指導部長)
(右)英語科 小坂 真 先生

上智大学合格者数が伸び TEAP利用者は81%へ

大宮開成高等学校はここ数年、上智大学への合格者数を増やしている。2017年度入試の上智大学合格者のうち、TEAP利用型入試での合格者は81%で、前年の68%を大きく上回った。これは同校が2015年度から実施している「TEAPプロジェクト」の成果といっても過言ではない。

2年次の10月からスタートする「TEAPプロジェクト」は、TEAP利用型入試で志望大学合格をめざす生徒のための受験対策講座だ。初回のガイダンスでは、生徒にTEAPの基礎知識を伝える。続いて保護者会を2回開催し、保護者に対してもTEAPのメリットや申込方法などをしっかりと説明する機会を設けている。

英語科の小林佑樹先生は、「保護者に『TEAPは受験のチャンスを広げる英語検定試験です』と説明して理解を得ることは、生徒にとって重要なことだと思います」と語り、TEAP導入の経緯を「本校はもともと上智大志望者が多かったため、TEAPを利用して受験チャンスを広げよう、と考えたことにあります」と説く。そして、年を追うごとに「TEAP利用型」の入試を実施する大学が増加したことによって受験チャンスが広がり、合格実績も上昇していることもあり、プロジェクトへの参加者も増えている。

全校の一体感や進路指導への好影響が

「TEAPプロジェクト」の効果は、思いがけないところにも表れた。

英語科の小坂真先生は、「三者面談でも、TEAPという言葉が、保護者から当然のように出てきます。すでに保護者がTEAPについて理解しているため、進路指導もしやすいという印象を受けます。また、英語科以外の先生たちもTEAPを意識するようになりました。どの教科の先生が進路指導をしても、TEAPが話題に上ります。全校の誰もがTEAPを意識しているためか、受験指導への一体感があります」と述べる。その雰囲気は、生徒たちの「前年度よりも、TEAP利用型入試の合格者を増やそう!」というモチベーションにつながっている。

小林先生も「TEAP対策講座の時は生徒のノリが違います。『みんなでがんばってスコアを上げよう!』といった一丸となって学習に取り組む空気が生まれていて、よい流れができていると感じます」と、目を細める。

英語が苦手な生徒だからこそ TEAP受験を勧める指導

「TEAPプロジェクト」では、3年次の4月から9月にかけて計6回の「TEAP対策講座」を実施する。この講座では、TEAPの公開見本問題などを用いながら、試験問題の傾向を理解し、4技能それぞれの力を高めることができるよう、深く指導する。小坂先生は、「TEAPは真の英語力を問う試験であり、解き方のテクニックはありません。しかし、試験内容がアカデミックなため、高校生がイメージできない大学での履修登録や単位取得の話題などの状況設定について、それがどのようなものであるかを知らせ、理解を助ける必要はあると思います」と話す。ライティングに関しては、英語科の4人の先生が120人以上の答案を細かく添削する。また、スピーキングでは個々の意見も問われるため、生徒に自分の意見を考えて述べさせる指導にも力を注ぐ。

「TEAP利用型の指導に注力したことにより、英語に苦手意識を持っていた生徒がTEAPを利用して志望校に合格するケースが増えてきました。そうした予期せぬ効果を受けて、『英語が苦手だからこそTEAPを利用することも視野に入れて指導する』という考え方が加わりました」と小林先生は述べた。同校の生徒は概して、ライティングとスピーキング、リーディングのスコアは良い。小林先生と小坂先生は「今後はリスニングのスコアを伸ばす指導をより充実させ、4技能をバランスよく身に付けて、生徒たちの受験チャンスをさらに広げていきたい」と考えている。

静岡サレジオ高等学校

TEAPは大学入試のためだけでなく思考力を高め、将来の可能性を広げる

国際的なカトリック修道会・サレジオ会との関わりが深く、海外との交流が盛んな静岡サレジオ高等学校。同校では2014年、上智大学への進学をめざす生徒のための「ソフィアコース」がスタートした。ネイティブ教員とのダブル担任制により、TEAP受験を必須とするカリキュラムが組まれている。ソフィアコースを担当する先生方に、TEAPを活用したアカデミック英語の指導法についてお話を伺った。

ソフィアコース担当　（左）野々村 徳子 先生　（右）Daniel Schultz 先生

クラス全員が上智大を目標にTEAP受験が必須

静岡サレジオ高等学校は2011年に上智大学と教育提携を結び、6年後の2017年から上智大学の入試における特別推薦枠が最大30名に増えた。それに伴い、同大をめざす生徒を対象とした「ソフィアコース」が設置され、アクティブでグローバルな学びが多い「フロンティアコース」、医歯薬・難関大をめざす「エグゼコース」との3コース体制となった。生徒一人一人の希望進路を明確にし、達成度を高めるコース改編だ。

同学園では、小学校から高等学校までの12年間一貫のメリットを生かしたカリキュラムを編成しており、中学3年次からは、生徒の進路希望に応じて、自ら選択したコースに分かれて高校3年次までの4年間学ぶ。

なかでも「ソフィアコース」は、クラス全員が上智大をめざしているためTEAP受験を必須としており、TEAPのスコアを高めることを意識した体制とカリキュラムが編成されている。その特徴は、日本人教員とネイティブ教員によるダブル担任制だ。英語の授業はもちろん、朝礼や終礼、ロングホームルームは全て英語で行い、修学旅行や日々の学習アドバイスまで、学校生活全般にわたって、生徒が英語を日常とする学校生活に溶け込んでいくのを見守っている。

アカデミックな英語力を磨きグローバル人材を育成

このような環境下で学ぶことにより、同校では高校2年次までに、ほぼ全員が英検2級を取得できるほどまでに、英語力が上達している。また、英語でのプレゼンテーションやディベートも取り入れているため、スピーキングのスキルもどんどん上がっていく。高校2年次の終わりには、TEAPのスコアがトータルで300点を超える生徒がかなり多いという。

ソフィアコース担当の野々村徳子先生は「ネイティブ教員がいることで、特に効果的なのはライティング指導だと思います」と言い、同コース担当のDaniel Schultz先生は「ライティング指導では、私たちネイティブ教員が作成したオリジナル教材を使って指導し、アカデミックなライティング力を身に付けさせています。学習効果はしっかり出ています」と話す。そして、野々村先生によれば、同校の生徒の英語力の特徴は、スピーキングとライティングのスコアが高いことにあり、今後は、語彙力を増やす学びに注力し、リーディングのスコアをさらに伸ばしていくことを課題としている。

このコースが真の目的としているのは「英語をツールとして使い、日本人としてのアイデンティティを持ち、グローバルに活躍できる人材に育てること」にある。「そのような人材を育てるためにも、TEAPを意識したアカデミックな英語力を磨くことは有効です」と話す同コース担当のMartin Johnston先生は、その理由を、「アカデミックな英語力を磨くことによってロジカルなものの見方も身に付き、その思考力はグローバルに活躍していくために必要なスキルだから」と説明した。

ソフィアコースに刺激を受け学年全体の英語力が向上

今年から同校では、放課後にさまざまな講座を用意し、生徒はコース・学年に関係なく自分の興味・関心のある学びができる、というカリキュラムを導入した。「TEAP特講」「小論文・プレゼンテーション講座」などは、ソフィアコース以外の生徒の受講が多いという。このような変化について、野々村先生は「ソフィアコースの生徒の英語力に刺激を受けて、他コースの生徒たちが『自分も英語力を伸ばしたい』と意欲を持ち、TEAP受験に挑戦するようになりました」と喜ぶ。

同校は英検公開会場であると同時に静岡県唯一のTEAP公開会場だ。そのため、同校の生徒にとっては通い慣れた校舎でTEAP受験に臨むことができるというメリットもある。2018年度入試では、ソフィアコースの1期生が大学入試に臨む。これまで取り組んできた教育からどのような成果が生まれるのか。野々村先生たちは、吉報がもたらされるのを今から待ち望んでいる。

2016年度 英検協会 英語教員海外研修
帰国後の取り組み報告

「英語教員の英語力や指導力、資質向上」を目的として、公益財団法人 日本英語検定協会（英検協会）は毎年夏期に教員海外研修を実施している。2016年度からは公募選考制となり、小・中・高等学校ともにオーストラリアのニューサウスウェールズ大学（UNSW）への派遣となった。36名の参加者たちは、研修にあたりどのような課題を持ち、16日間にわたる研修で何を学び、その成果を現在どのように生かしているのだろうか。研修の意義や内容と、参加者から寄せられた帰国後の実践報告を連載する。

参加者同士の絆が深まり 授業改善への意識が高まった

2016年度で14回目を迎えた英語教員海外研修。その目的は、①英語教授法に関する知識と実践の深化、②異文化に対する知識の向上、③教育者として主体的に学ぼうとする意識の定着だ。これら3つの目的を通じて、英語教員の英語力や指導力、資質向上をめざすものとしている。

研修はUNSWで行われ、参加者たちは日本の学習指導要領に基づいて編成されたカリキュラムのもと、児童生徒を主体とする言語活動中心の授業づくりについて学びを深める。

研修初日、小学校教員のなかには、英語のみで行われる授業に不安を抱えながらも、参加者同士で助け合い、教え合いながら、学んだ内容への理解を深めていく姿が見受けられた。また、授業で分からないことがあると、授業後に講師に質問し、理解できるまで話し合うなど、意欲的に学ぼうとしていた。

中・高等学校の英語教員からは、日頃の授業で抱えている課題をいかに解決し、新たな実践法を見いだしたいという姿勢が見られた。参加者同士がお互いの指導観や経験に基づいた意見を出し合い、議論を積み重ねながら、解決の糸口を探ろうとする場面もあった。

研修最終日には、グループごとに模擬授業を行う。そのため、参加者たちは授業外の時間を使って、毎日夜遅くまでグループで集まっては話し合い、研修プログラムで学んだ知識や技術を踏まえて授業案をまとめ上げ、発表に備えた。こうした活動を通じて、参加者たちは絆を深め、授業改善への意識をさらに高めていったようだった。

REPORT

高等学校

Stranded on a desert island!

沖縄県 沖縄尚学高等学校　教諭　新里 歩

研修で学んだこと

コミュニカティブ教授法（CLT）の授業で、生徒の言語活動中心の授業づくりについて学びました。第二言語学習者は、誰でも心理的な障壁（情意フィルター）を持ち、いかにこのフィルターを下げるかということが求められます。生徒主体の言語活動を取り入れることにより、生徒同士が積極的に英語で質問や発言をする機会を増やすことができるようになります。

研修後の取り組み

必然的な言語使用場面を想定した言語活動

映画『Cast Away』を題材に、仮定法過去を使った文章を使えるだけでなく、批判的思考力、問題解決能力を養うことを授業でめざした。

授業では、「グローバルリーダーシッププログラム」という架空のプログラムに選抜された生徒たちが、飛行機が乱気流に巻き込まれて太平洋の無人島に不時着したという状況を設定した。そして、“What would you bring if you were stranded on a desert island?” という質問に対し、生徒には仮定法過去を用いて、無人島での生活に必要な4つのアイテムを挙げさせる。そして、なぜそれらのアイテムを選択したかについて説明させた。

生徒たちは積極的に発言をしたが、必ずしも仮定法過去を正確に使えない場面が見受けられた。その際は、生徒が自分で間違いを正すことができるよう、教師からの簡単な問い掛けを通じてconcept checkingやelicitingを行う方法が有効だった。

今後の抱負

海外研修への参加後は、授業でCLTを実践することに自信がつきました。この実践例のほかにも、“Do you think fast-food restaurant will be more popular in the future?” という生徒に身近な話題を用いて、賛成派と反対派に分かれ、ミニディベートを行いました。これからも研修での学びを生かして、グローバル社会で求められるコミュニケーション力と批判的思考力を養う授業を継続していきたいと思います。

REPORT

中学校

「EFL環境での英語教育」という視点での実践

福島県 双葉郡葛尾村立葛尾中学校　教諭　菅野 賢介

研修で学んだこと

研修を通じて、多くの成果と課題を持ち帰ることができました。帰国後は「EFL環境での英語教育」という視点を基本に、授業での実践を進めています。

研修後の取り組み

①Pronunciation Gamesによる語彙指導

「Teaching Pronunciation」の授業で紹介された本『Pronunciation Games』を、毎時間の帯活動に取り入れた。

ペアでPronunciation journeyというゲームを行う。自分の発音が相手にうまく伝わらず何度も繰り返す。相手の発音が聞こえなくて自分も発音して確かめる、という「聞き返す」というスキルに自然とつなげられることを確認できた。こうしたゲームは指導経験の浅いALTでもすぐに実践でき、ゲームの種類や、授業での指導法などを話し合うきっかけになった。

②指導と評価の改善

Micro-teachingの実践と反省から、文法をtask-based grammar teachingで行った。

授業では、Interactionを通して接続詞の意味を比較し、用法が共通していることや間違いやすい箇所などを体験的に学習した。教科書で扱う接続詞については、「意味と用法」を問う評価問題を作成し、Task 1では意味、Task 2と3では用法（時制やs単現、語順など）について考える問題とした。

今後の抱負

まだ実践途中のことや取り入れたいことは多々ありますが、今後も見聞を広め、実践と改善を続けていきたいと思います。当面はWritingとReadingの評価法に基づいたテスト作成と、意味に重点を置いた語彙指導の実践に取り組んでいこうと考えています。

REPORT

小学校

子供たちが意欲的に活動する授業づくりをめざして

大分県 杵築市立八坂小学校　教諭　二宮 京子（研修時：国東市立旭日小学校）

研修で学んだこと

研修を経て、子供自身が英語で表現できるところまでを表現する、子供の言葉や音を大切にするということを意識して取り組むようになりました。教師が一方的に本時の会話文や新出単語・既習単語を発音して提示するのではなく、子供と一緒につくっていくという意識を持つようにしています。

研修後の取り組み

①歌を通じて、聞き取れる単語を増やす

授業導入時の3分ほどで歌を取り入れた。

研修で用いたThe Beatlesの『Hello, Goodbye』は、歌詞がとてもシンプルで同じ言葉が繰り返されるため、5、6年生でも歌えると判断した。まずは歌を聞いてリズムを楽しみ、stopとgo、yesとnoなど反対語の単語に注目させて聞き取る単語を増やしていく。子供たちは徐々に歌うことができる部分が増え、「英語の曲を1曲歌えた」と自信を持てるようになった。

②英語表現する時間を十分に確保する

英語を苦手と感じている児童が十分に活動でき、達成感を感じられるまで時間を確保する。

“When is your birthday? ”の活動は、すでにお互いのことを十分に知り合っているので「さらに知りたい」という意欲にはつながらない。そこで、「家族インタビューをしよう」という活動として、“When is your family’s birthday? ”と聞き合うようにした。子供たちは聞き合った情報に新鮮さを感じ、友達の家族の誕生日がいつなのかをじっくり聞いて分かろうとする姿が見受けられた。

今後の抱負

授業づくりを通じて、自分の目の前にいる子供たちの実態を把握し、今の子供たちに合った教材と場の設定をすることが、よりよい外国語活動になっていくと思いました。そのためにも、教材と子供の実態とを合わせながら教材研究を行い、一人でも多くの子供に、「英語って楽しい！」と感じてもらえるように努力していきたいと思います。

わたしのオススメ本

英語教育に携わる皆さんにオススメの書籍をご紹介します。
今回は、CLASS REPORTで取材に訪れた学校の先生方から、
明日からの授業づくりに役立つ書籍をご推薦いただきました。

1 『小学校英語教科化への対応と実践プラン』

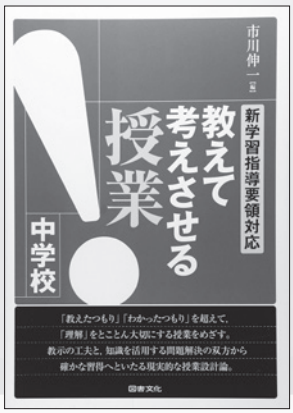
吉田研作（編）
教育開発研究所　定価1,944円（税込）　2017年5月発行

高知県 中土佐町立久礼小学校
市原 佐知 先生

本校では、文部科学省の指定を受け、新学習指導要領を見据えた実践に向けて動き始めています。そのなかで5、6年生では教科として授業を行っていますが、中学校の前倒しではなく、外国語活動を発展させたものと捉えて研究実践をしています。その視点に立つとき、本書はあらゆる疑問に答えてくれるものとなっています。例えば、「教科」と「活動」の相違点と共通点や、それぞれの評価のあり方です。明快な示唆を得られ、授業づくりの過程では、安心して自信をもって学習者と向き合うことができるようになりました。理論に裏付けられた実践がいかに効果を挙げるかを実感しています。また、「チーム学校」としての日々のあり方についても先進的な取り組みが紹介されています。核になる立場の先生が読めば、校内研修のあり方や校内体制の整え方の参考になります。自校に当てはめて考えることができるので、今以上に教育効果の上がる実践が実現すると考えます。

2 『新学習指導要領対応 教えて考えさせる授業　中学校』

市川伸一（編）
図書文化　定価：2,376円（税込）　2012年4月発行



島根県 益田市立益田中学校
上田 陽一郎 先生

「教えて」と聞くと「教え込み・詰め込み」教育の再来かと思われる方もいらっしゃるかも知れませんが、学習者が新しいことを習得する段階で教師が「丁寧に説明をし、教える」ということを大切にし、そして教えたことが「きちんと理解できているか」を確認する段階を踏むこと、そして学習者がその時間に何が理解できなかったかを確認する振り返りをすることで、次への学びにつながっていくということが重要であることを再認識できる1冊です。特に、英語は知識・理解を教え、練習したうえで技能習得をさせることの積み重ねであるので、1時間の授業をどのように組み立てていくかを悩んだときに、本書が助けになってくれると思います。考え方そのものは新しいものではないかもしれませんが、本書には多くの実践例が載せられています。英語の授業ももちろんですが、他教科の例もあり、職員室で話題を共有できる1冊となるのではないでしょうか。

Present!

本コーナーでご紹介した書籍を読者の皆様へプレゼントいたします。
ご希望の書籍の番号と下記の必要事項をご記入のうえ、P.55のFAX申込用紙またはEメールにて、『英語情報』編集部までご応募ください。

① 氏名　② 所属（勤務校名）・役職　③ 連絡先（住所、電話番号、メールアドレス）　④ ご希望の書籍番号
⑤ 今号で興味深かった記事とその理由　⑥今後、本誌で取り上げてほしい内容や意見

抽選で各1名様にご希望の書籍を差し上げます。皆様からのご応募をお待ちしております。

応募締切 **2017年12月31日（日）**　応募方法 03-5439-6879　eigojoho@morecolor.com

※当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。応募時に記載していただいた個人情報は、本件以外の目的には使用いたしません。

わたしのオススメ本プレゼント

FAX申込用紙

英検 英語情報編集部宛

03-5439-6879

P.54でご紹介した書籍のうち、ご希望の書籍の番号に〇をして、下記の必要事項をご記入のうえ、FAXにて、『英語情報』編集部までご応募ください。

ご希望の書籍のいずれかに〇印をご記入ください。

	1 『小学校英語教科化への対応と実践プラン』		2 『新学習指導要領対応 教えて考えさせる授業 中学校』

氏名	(氏) フリガナ	(名) フリガナ 様
所属	勤務校名	役職
連絡先	住所 □□□-□□□□ 都 道 府 県	
	電話番号	

※当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。応募時に記載していただいた個人情報は、本件以外の目的には使用いたしません。

1.『英語情報 秋号』で興味深かった記事は何ですか？ 該当するものの番号に〇をつけてください。(複数回答可)

1. NEWS&TOPICS
2. 特集「小学校 新学習指導要領に向けて 移行期間に何をすべきか」
3. 特集事例 CLASS REPORT
4. 英語で授業7つの鉄則
5. 新教育課程に向けて
6. 全英連新潟大会に向けて 直前特集
7. 第5回 全英連・英検協会共催 夏季研修会
8. 小池生夫氏インタビュー
9. SGH「名城大学附属高等学校」
10. 「学習到達目標と指導、評価の一体化」を目指して
11. 英検4級・5級で広がる英語の世界
12. 英検2級の「壁」を超えるための授業実践
13. TEAP Hot News!
14. TEAP活用事例「学習院大学」
15. TEAP活用事例のご紹介（公立学校編、私立学校編）
16. 2016年度英検英語教員海外研修「帰国後の取り組み」
17. わたしのオススメ本

2. 上記の記事が興味深かった理由がありましたら、記事の番号とともにご記入ください。

3. 今後、本誌で取り上げてほしい内容やご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

Information

Cover Photo：
新潟県立新発田高等学校 教諭　根立 望
新潟市立小針中学校 教諭　中川 久幸
新潟市立上所小学校 教諭　村上 大樹

編集後記

今号は「小学校 新学習指導要領に向けて 移行期間に何をすべきか」を特集しました。2020年度の全面実施に備えて、来年度からの2年間は移行期間となります。CLASS REPORTでは、英語教育推進リーダーの先生方による新学習指導要領を見据えた授業実践もご紹介しています。また、11月22、23日に新潟市内で開催される「全英連新潟大会」の直前特集として、授業実演をされる3人の先生へのインタビューと公開研究授業の様子なども紹介しました。新潟県内の先生方は大会の成功に向けて準備を進めています。大会へご来場のうえ、授業改善のヒントをつかんでいただければと思います。編集部では今後も、英語教育改革の情報などを発信してまいります。誌面へのご要望をぜひ、編集部へお寄せください。

『英語情報』編集部一同

お詫び

『英語情報』2017 夏号 P.51において、写真掲載の誤りがありました。
「米国大使賞」受賞の熊本県立八代高等学校・八代中学校の校長・山本朝昭先生のお写真は、別の先生のお写真でした。関係者の方々に深くお詫び申し上げ、訂正いたします。

英語情報 2017 秋号

2017 年 10 月 1 日発行

発行　公益財団法人 日本英語検定協会
総務部 総務課
〒162-8055
東京都新宿区横寺町55

編集統括　株式会社モアカラー
アートディレクション・制作　株式会社モアカラー
印刷　日新印刷株式会社
製本　有限会社穴口製本所

◎無断転載、複製を禁じます。
©2017 公益財団法人 日本英語検定協会

英検試験問題と解答のウェブサイト公開のご案内

公益財団法人 日本英語検定協会は、より広範な情報公開と、サービスの質的向上を図るべく、一次試験問題を英検ウェブサイトにて公開するサービスを行っております。**一次試験日から約1週間後に問題を提供いたします。**英検ウェブサイトのURLは、下記の通りです。

英検試験問題　http://www.eiken.or.jp/eiken/exam/

一次試験の「解答速報」は、毎回一次試験日の翌月曜日13時以降に英検ウェブサイトにて公開いたします。

英検解答速報　http://www.eiken.or.jp/eiken/result/

本誌について

お問い合わせ先 **英検サービスセンター　TEL 03-3266-8311**

本誌は以下、英検ウェブサイトよりPDFにてダウンロードしていただくことが可能です。

http://www.eiken.or.jp/eiken/group

お問い合わせ電話案内

電話番号はお間違えのないようにお願いいたします。

● 英検申込受付に関すること（出願、検定料など） ● 英検受験に関すること（受験票、会場、合格通知など）	英検サービスセンター	（個人）03-3266-8311 （団体）03-3266-6581
● 英検 Jr. に関すること	英検サービスセンター	（英検 Jr.）03-3266-6463
● 研究助成に関すること	英語教育研究センター	03-3266-6706
● BULATS に関すること	BULATS 事務局	03-3266-6366
● IELTS に関すること	IELTS 事務局	03-3266-6852
● TEAP に関すること	TEAP 運営事務局	03-3266-6556
● 英検留学に関すること	英検留学情報センター	03-3266-6839
● 通信講座に関すること	通信教育課	03-3266-6521
● その他のお問い合わせ	英検サービスセンター	03-3266-8311

※全国の英語教育に関する研究会、セミナーなどのウェブへの情報掲載については、英検のウェブサイトのフォームよりお申し込みください。

2017年度 実用英語技能検定 試験日程

2017年度より二次試験を2日間（「A日程」、その1週間後に「B日程」）設定いたします。
一定の条件によりA、Bいずれかの日程を指定します。詳しくは英検ウェブサイト（http://www.eiken.or.jp/eiken）をご覧ください。

第1回検定

申込受付　協会必着
3/10(金)～5/12(金)
【書店締切：5/8(月)】

受付終了

一次試験（筆記・リスニング）　6/4(日)
準会場　すべての団体　6/3(土)・4(日)
中学・高校のみ　6/2(金)

二次試験（面接形式のスピーキング）
A日程　7/2(日)　B日程　7/9(日)

第2回検定

申込受付　協会必着
8/7(月)～9/15(金)
【書店締切：9/8(金)】

受付終了

一次試験（筆記・リスニング）　10/8(日)
準会場　すべての団体　10/7(土)・8(日)
中学・高校のみ　10/6(金)

二次試験（面接形式のスピーキング）
A日程　11/5(日)　B日程　11/12(日)

第3回検定

申込受付　協会必着
11/21(火)～12/20(水)
【書店締切：12/13(水)】

一次試験（筆記・リスニング）　2018/1/21(日)
準会場　すべての団体　1/20(土)・21(日)
中学・高校のみ　1/19(金)

二次試験（面接形式のスピーキング）
A日程　2018/2/18(日)　B日程　2018/2/25(日)

※4級・5級のスピーキングテストの受験日は、申し込まれた各回次の一次試験合否閲覧日から受験が可能です。各回次の二次試験日（1級～3級）から約1年間ご受験いただけます。
詳しくは英検ウェブサイト内4級・5級スピーキングテスト特設サイト（http://www.eiken.or.jp/eiken/exam/4s5s/）をご覧ください。

TEAP利用で、入試が変わる

TEAPを利用した入試とは、各大学が実施する英語の試験ではなく、事前にこのアカデミック英語能力判定試験（TEAP）を受験し、各大学で設定しているTEAPの出願基準点をクリアしていれば、本番では英語の試験は受けなくてもよいというものです。

高校２年生
以上対象

受験のチャンスは
年３回
（7月、10月、12月）

複数学科に出願可能
※出願基準点等の条件は各大学にお問い合わせください。

「大学教育レベルにふさわしい英語力」を
正確に測定する英語能力判定試験

TEAP
Test of English for Academic Purposes

2017年度 試験日程・申込期間
第3回 **12月3日(日) 実施**
【申込期間】 9月25日(月)～11月9日(木)※
※コンビニ・郵便局ATM支払による申込は、試験申込締切日より約2週間前に締切ります。ご注意ください。詳しくはTEAPウェブサイトへ

お問い合わせ
公益財団法人 日本英語検定協会　英検サービスセンター TEAP運営事務局
TEL. 03-3266-6556 ※平日9:30～17:00（土・日・祝日を除く）

詳細・サンプル問題はこちらから
http://www.eiken.or.jp/teap/

英検の「**通信教育講座**」で英語力アップ！

実用英語講座 準1級クラス

受講期間：3カ月（在籍期間：6カ月）
受講料：25,920円（税込）

- 「聞く・話す・読む・書く」の英語４技能を総合的に養う
- 英語教員に求められる英検準1級程度※の英語力を3カ月でトレーニング
- 社会性の高い話題に触れながら、知識や教養を高め、高度な英語運用力を養成

※英検の合格を目的とした対策講座ではありません。

テキストで取り組む5つのトレーニング

1 リピーティング
2 ロールプレイ
3 パラレル・リーディング
4 シャドーイング
5 要約（Summary）

教材構成
●テキスト3冊／●解答・解説1冊／●コースガイド1冊／●復習テスト（Web提出可）3回／●任意提出課題3回（writing）／●CD4枚／●スライド形式で単熟語をチェックできる映像講義（ダウンロード）ほか

<注>通信教育事業は（学）産業能率大学との共同運営のため、申込受付など運営業務は産業能率大学となります。

詳しくは英検ウェブサイトにてご確認ください。

英検実用英語講座準1級　検索

お問い合わせ　公益財団法人 日本英語検定協会 通信教育課　TEL 03-3266-6521

英語情報 2017 秋号

2017年10月1日発行　季刊発行　第20巻4号　通巻128号　公益財団法人 日本英語検定協会　〒162-8055　東京都新宿区横寺町55

公益財団法人
日本英語検定協会